

ネパールカレー屋「ナマステ」別館堂

& 英語教室「すすき野留学」主人



辞書を置かない

考える英語教室

前座の英語

2021年(合本)版

Pre & prep. English 2021

物書き

うときゅう いっき



ネパールカーリー屋「ナマステ」別館堂

& 英語教室「すすき野留学」主人

辞書を置かない

考える英語教室

「前座の英語」

2021年（合本）版

Pre & prep. English full version in 2021.

「日本の人は日本語みたいに、ひらがな、カタカナ、漢字と三通りも在るようなメチャクチャ難しい言葉を難なく喋っている。すごいよなあ」

と横浜市青葉区すすき野の街の外国人さん。

「だったら英語みたいに難しくない言葉を、それこそお茶の子さいさいで喋れても良いはずなのに、なんで誰もしゃべれないんだろう？英語みたいにいい加減な言葉を喋るのはプライドが許さないのかもしれないなあ」

と、外国人さんは答えに困って妙な誤解答を引き出しているようです。

本書の願いは、その我々自身が生み出してしまっている謎の答えを解き明かし、成る丈多くの我が国同朋が英語のみならず我が国国語会話においても臆することなく「正々堂々と」話してみようかなという気持ちになって戴ける事です。

2021 年 6 月 26 日

(序)

何故、大方の我が国国民は頓悟がしゃべれないのか？

(仮説 1)

前にいる外国人より、後ろの我が同朋のチェック目線やひそひそ話が怖いから。

(仮説 2)

学校の規則と一緒に、学習内容が細目に渡って細かすぎるから。

何故細かいのか？

受験英語だから。

受験英語は落とすための英語。簡単に言うとあら探し英語だから。

(仮説 3)

結果、失敗を怖れて何かをする前からビビりまくって手も足も出ない「だるまさん状態が常態」だから

ではないでしょうか。

(結論)

だったら、

「失敗はない。経験があるだけ。だから失敗は成長の糧」

「ダメ元、元々ゲンキの素。開き直れば花が咲く」

で、まずはハードルをうんと低くして

「使えるものなら何でもあり」

から始めてみましょうよ。

(序 二段)

本書は「コロナ渦同時進行執筆 ナマステ別館堂主人 ニューノーマル探索サバイバル日記 巻末」及び「辞書を置かない英語教室 すすき野留学」に掲載した「オマケの英語教室」をとりまとめ、いくつかの書き下ろしを加えたものです。

本教室及び本書（続編含）はコロナ渦期間中開講及び発刊予定ですので、いつ終わるかは、現時点ははっきりしておりません。

筆者は海外赴任、海外留学をした事はありません。英語学校にも通ったことはありません。

では、何処で英語を覚えたのか？

ご当地「横浜市青葉区すすき野」の地においてです。

周りに敷金礼金なしで自然環境がとてもいい UR 団地群が一杯あり、英語を話すアジア系、

スラブ系外国人さんが沢山住んでおり国内にいて留学したのと同じ環境があったからです。そこに、ひょんな事から定年退職後、ネパールカレー屋を開くことになり、従業員もお客様の一部も外国人だらけだったからなのでした。

そこで分かったことは「正しい」英語を話すことより「どうやったらたまたま隣にいる隣人（我が国国民でも外国人でも）と意思疎通を図れるか？コミュニケーションできるか」の方が遙かに大切だと言うことでした。

つまり目的が全然違ったのです。

「正しい」ではなく「分かってもらえるか、相手のことが分かるか？」だったのです。

だとすれば、語学は単にその一手段でしかない。他にもジェスチャーや表情やらハグやらイラスト、図表、ナンだって使えるんだ。何を使ったっていいんだという具合に考え方がまるで変わってきたのです。

そう思うと受験英語の正しさなんて、広い体育館の端っこの、平均台の上を後ろからナイフを突きつけられながら、恐る恐る歩いているようなもので、実につまらないというか意味の無いことのようにも思えてきました。

それって外国人から見たら「変にしかみえないよなあ。何を端っこの方でビビっているんだ？体育館はこんなに広いのに。平均台から床の上に降りて走り回れば良いのに」と言われているような気もしました。

因みに自分は大学一年次の必修英語を5年間落とし続けて6年目にやっと単位を取った位のレベルの英語学力でした。（恥ずかしながら大学院進学ではなく2年間留年したと言うことです）

それもそのはず、英語は「学力」ではなかったからです。

英語は「上から習って教わるもの、定型を覚えるもの等ではなく、考えて自分なりに創り出す事のできる極めて自由度の高いもの」

でした。

国の数だけ、もっと言うと人の数だけ個性に応じた英語の種類があってよかったのです。全く意外にも。

これらの「序」「序 二段」にご興味を感じられましたら、まずは騙されたと思って読み進めてみて下さい。

本格的英語学習に入る前に是非とも必要な

「前座の英語」

教室です。

つまらなければ何時でも「ボイ」できますから。

それで一向にかまいませんので。

(本編)

第 1 集

2021/4/16

オマケの英語教室

1 時間目



昔の TVCM で

「髪は抜けてわかる、長〜い、友達」

というのがありました。育毛剤の CM です。

アニメーションになっていて、はじめ「髪」の字の右側の「ノ（ひげ）」三本が一本ずつ抜けていき、次に左側の「長」の字（実際は下の掃いがムですが）が「ここにいるよ」とばかりに延び縮みし、最後に足の部分の「友」が大きくズームするアニメーションでした。

一見覚えるのに面倒そうな「髪」の字も、こうやってアニメーションにして印象付けると結構覚えたりしたものです。

事ほど左様に、単語でも何でも覚えるにあたって、思わぬ発見や意外さを感じたりするところから来る「感想」や「印象」更にそれに「映像」が伴うと、結構あっさり覚え、且つまた覚えたものを思い出す作業が「するすると」出来たりすることがわかってきました。

なので、英単語もこの方法に従えば、案外らくちんになるのではないかなと思います。

既に皆さんは単語数をかなり知っていらっしゃるので、それを今一度印象付けて思い出し易くする作業を今日はやってみようかなと思います。

今日の例は

Dimple(dimpled)hand

これだけ見ると「そんなの知らない」になってしまいますが、意味は「拳の付け根の関節が、自分のようなデブちゃんになってくると肉に埋もれて、そこが凹んだ手」ということなのです。

そうしてこの dimple の別の意味は、実は「えくぼ」

太って関節にできた「えくぼちゃん」のある手。大元は赤ちゃんのポチャポチャした手の様子から生まれた表現のようで、なんか可愛らしい言い方でしょう？

後は、manager とか management note とかも。

我が国では管理者とか管理者手帳とか訳しますが、原義は Manage.

即ち「いざという時に何とかする」

という意味なのです。

人の粗ばかり探して、点数をつける「管理」などという意味はどこにもなく、

I'll manage it.

「俺がなんとかするよ」とか「俺に任せろ」

という極めて親分肌なことなのです。正反対なのです。

スーツ姿に眼鏡をかけた陰険野郎の代わりに名月赤城山の国定忠治親分を思い浮かべるくらいに違う印象なのです。

原義を知っていれば

「部下の俺じゃなくて、上司のあんたの心構えのはなしやろうが。あん？」

と言い返せばいいだけの話のような気がします。

どうでしょう？少しは意外だという感想を抱かれましたでしょうか？

原義を知っていると意外と面白く、又思い出したり覚えたりするのに重宝しますよ。

2021/5/3

オマケの英語教室

charming



自分の限られた印象ですが、外国の女性に昼間、自分がしらふの時に褒め言葉で「you are beautiful」とか「you are pretty」と言うと、相手は喜びながらも、ちょっと「身構える」仕草をする様な気がします。

反対に「you are charming」とか「you are lovely」もっと直裁に言うとか「oh, you are cute」とか「sexy!!」というとか、これはもう完全に相好を崩して喜んでいる気がします。

我が国でも、よく観察すると同様の傾向があるのですが、後者の言葉は余程相手と親しくなってからでないと使えません。白昼しらふの時に言う事など、まずないでしょう。

仮に言ったとすると

「何、この人!! 私のこと、軽く見てんの？」

と思われて、却って心証を害します。

ですので、我が国で昼間、しらふの時に言えるのはせいぜい前者の

「美人ですねえ」か「お綺麗ですね」

位でしょう。

我が国でも外国でもそうですが「美人」(beautiful)や「綺麗」(pretty)を使う時には、イメージとして「整っている」「様式にかなっている」「乱れない」等の言葉を連想します。

逆に「カワイイ」(lovely)とか「イカシてる」(cute)や「いろっぺええ」(sexy)は、どちらかというと「くだけている」か「ゆるい」感じがします。

それはさておき、このどちらかというといふ幾分「崩れていて」「隙だらけ」の言葉の中の charming(日本語でもチャーミング)ですが、是を和訳するのにハタと困ってしまいました。おそらく先代の翻訳者も訳しきれずに charming は日本語のカタカナで「チャーミング」と表記するに留めたのではないのでしょうか。

そこで今回、自分は足腰の過労で動けない事もある、この和訳に挑戦してみようと思い立ちました。

要するに「暇つぶし」です。

まず、charming の語幹になっている「charm」とは「御守り」の事です。英語では他に「amulet」とも言います。神社で売っているのは、どちらかというといふ「amulet」(護符)の色彩が濃い様です。

さて、それでは問題の「charm」

これを amulet (護符) の「護」と比較して charm(御守)の「守」と漢字一字同士に簡略化して見比べてみると、何となくある想像が生まれました。

曰く

Amulet は「護摩炊き」に見られる様に「魔除け」即ち災厄退散の「御札」で、何となく自分から離して上に飾っておく物。

一方 charm の方は、所謂「お守り」で肌身離さず身につけておく物。

という区分けが出来そうです。

なので、charming とは「身近にいて包み込んでくれる物」の現在進行-ing「お守り携行」の事なのではないかな、と。

だとすれば charm point の原義は

他の人から自分を差別化して「守ってくれる売りの point」となります。

この、自分にとっては「お守り」

相手からするとそれが「魅力的」(attractive)に見えると言う事で、ありふれた言葉になりますが

「魅力的な」「華のある」「心惹かれる」

という和訳になりました。

因みに上述の attractive の名詞形 attraction の訳は「見せ物」ではなく「魅せ物」が正しい様な。

で、元々は自分の「お守り」が相手には「魅せもの」になり、

「you are so charming」(君、なかなか「吸引力」あるね)

無理がある、かな？

「on」について 書庫版



英語の前置詞「on」について、我が国の学校で一般的に習うのは「～の上、で、に」でしょう。

自分が中学時代に習った時にはそうでした。

確かに「on」というのは、空間軸（分かり易い様に縦軸をイメージしてみてください）では、それで間違い在りません。

Put on～(put it on～)なら「それを～の上に置く（置け）」になります。

ところが、時間軸（分かり易い様に横軸をイメージしてみてください）に使うと「on」というのは「最中」と言う事にも成ります。

On air (放送中、録音中)とか on the way to school (学校に行く途中)とかです。

そうして更にこの「on」を続けて「on and on」として使うと

空間軸（縦軸イメージ）なら put it on and on で「それをドンドン「積み重ねていく」というイメージになります。

今度はそれを時間軸（横軸イメージ）で使うと go on and on 「それをドンドン続けて下さい」とか「その先ドンドン行って下さい」のイメージになります。

詰り、いちいちイディオム（成句、常套句）等覚えなくても「on」の縦軸（空間）にも横軸（時間）にも、ドンドン縦や横に増えていく（動いていく）イメージさえ掴みさえすれば、少なくとも此処で示した

「上に」「最中」「積み重ね」「時間の経過」の4つのイディオムに相当する語句を「on」の組み合わせだけで表す事が出来るのがお分り戴けたかと思います。

その他にも前置詞の at や to、for、with などでも動詞や形容詞とくっついて実に様々な即興言葉を作り出す事が出来るのです。

覚えなくてはならない単語数がとても少なくて済むのです。それこそ中学までに習った単語で十分。折角持っているお宝を思い出すだけ。

自分は海外留学も海外赴任もした事ありません。英語学校に通った事ありませんが、この事（前置詞が持つ基本的イメージさえしっかり掴んでいれば、可成りの表現が即興で可能だ）に気づいて、試しに在日外国人さん達と話してみたら、相当通じたので益々その念を深く致しました。

そこで思ったのは

「英語上達のキモは、試験（進学や就職での）に関係なく学ぶ事」なのではないのかなという事でした。

人にはそれぞれ自分の思考法や嗜好性があります。ですので、当然それに合った覚え方や発想法、話し方が合って当然だと思うのです。

ところが試験となると、好むと好まざるとに関わらず、或いは学習者本人に合うか合わないかに拘わらず「絶対的唯一の定式（答え）」に合わせなくてはなりません。

そうでないと「試験にパス」出来ないからです。それ以外の解答は認められないからです。

これが、我が国の English Speaker の数が増やせない大きな原因なのではないのかな？と思うに至った次第。

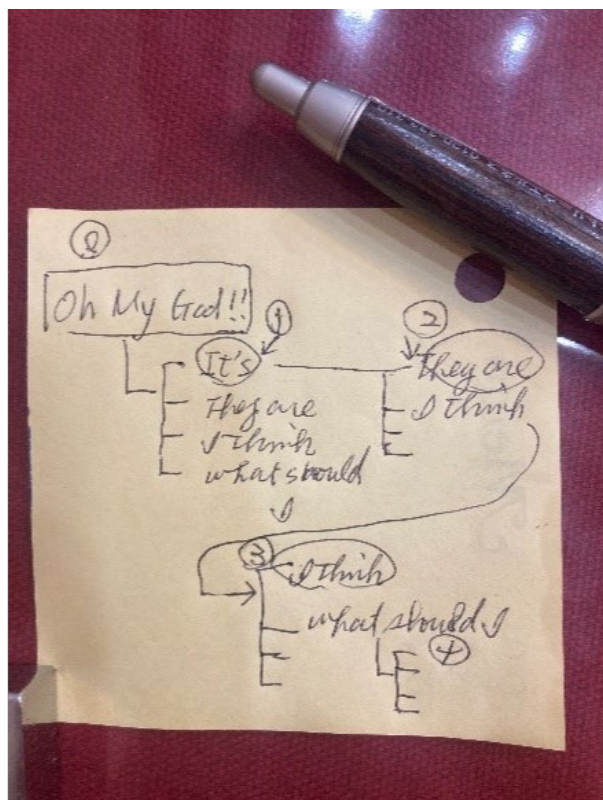
詰まり英語とは「固定されたもの」ではなく本来「フレキシブルな即興可能言語」だという事。それを様式化するしか方図を知らない明治時代の学者や文官が、完全に取り間違えた結果なのではないかなと。

それが明治以降、現在迄延々と続いている…様な。

2021/5/20

オマケの英語教室

中身が最初 Contents is the first 書庫版



「スキな球が来るのを待っていたら、試合は終わってしまいます」

といったのは、イチロー。

ですが、同様に

「覚えている文例、イディオムが出てくるのを待っていたら、会話は終わってしまいます」

とも言えそうです。

要するに試合も会話も生き物です。受け身で待っていたら終わってしまいますので、こちらから能動的に仕掛けていかななくてはならないようです。

では、どの様にすれば良いのか？勿論此处での主題は英語なので英会話の場合に、です。

話は変わりますが、

人間とは不思議なもので、咄嗟に思い浮かぶ (inspired) 語句やフレーズというものがあります。

それは個性に属する問題なので千差万別十人十色

人によって全く異なる訳です。

或いは又、その直前に何をしたか？何に興味を抱いたか？によっても、その日その時に

「咄嗟に」思い浮かぶ語句やフレーズは異なってきます。

なので、その時一番の最初に思い浮かんだ fresh な語句を、まず口にしてみるのが第一です。

無論、会話の流れに沿ったものについてです。

例えば、

当店では、インドで変異型コロナウィルスが流行っていて大事になっている、という話が時々出ますが、それを聞いて、

「そりゃあ、大変だ」

と咄嗟に思ったら「大変」と英語で何て言うの？等とは考えずに、知っている単語、例えば自分の場合であれば

「Oh My God」

と取りあえず言ってしまう訳です。

因みに oh my god は「なってこった」位の感じでしょうか。「大変」の just 翻訳とは違いますが、まあ、問題ないでしょう。

で、次は、その中身を伝える段になったとして、ここからは、それに続きやすい文例のアタマを幾つか持っているの良いかもしれません。

It's,

I think,

They are,

What should I,

I can

We have

We no have

等です。

そうして、取りあえず、それに続く文章をくっつけて、詰まったら、それに続けられる次の文例や語句の選択を行って、ドンドンスイッチングしながら、先に進めるものを使って切り抜けていく。

ですが、何よりも大切なのは、まずは何かを口にする。その後、それに続けられる文例を、その場その場で咄嗟にチョイスしながら続けていくという、将にイチローの、手元に來た球筋を 0.5 秒で読み切り、打ち返す、というのと同じです。

そうしてそれを可能にしているのは、イチローさん曰く

「特別な方法なんて在りません。毎日毎日、練習し続けて、場数を踏む訓練をする以外にはありませんから」

の「訓練」です。

考えて見れば我々に一番足りないのが、この「訓練」

何故足りなくなるのかと言え、失敗を怖れる余り「経験範囲と経験回数」が大幅に足りなくなって（乏しくなって）しまっているからでしょう。

その為、経験範囲や経験回数に正比例している「話す」又は「話したい内容」のストックが少ないからではないでしょうか。

語学の上達は、まず話したい中身がある事が何よりも重要だ、と思っております。

話したい中身さえあれば、恥はそれほど気にならないのです。

2021/5/24-2

オマケの英語教室

a と the

a が不定冠詞で the が定冠詞。

高校受験を前にして、中学の英語の授業のおさらいで、改めてそう習いました。

しかし、何度説明を聞いても、その使い分け方がはっきりとは分かりませんでした。

自分はどちらかという、実践的なタイプの人間なので、試験勉強は試験勉強として、それとは別に

「相手を前に長考が許されるのは、囲碁将棋だけ。外人を前にして、ソナなことをしたらスルーされてしまう。もっと上手い覚え方は無いものか？」

と思いました。

それから数年たった大学時代の TV コマーシャルで、聖子ちゃんがやっていた

「ひーとびとの、hitbit（ヒットビット）」というゲーム対応 TV のコマーシャルの後に「it`s a Sony」

というロゴが流れる CM のナレーションを耳にして

「あっ、そういうことか」

と合点がいました。

「a は、リズム取りの語呂合わせ用かぁ」

定冠詞 the が「それしかない」とか「以前話の中に出てきて」特定出来るものを指す、即ち「あの」とか「例の」と訳せることは分かっておりました。

又、定冠詞も不定冠詞も着かない単なる複数形の場合は「というものは」とか「一般的には」と訳せば良いのも、何となく分かってきていました。

ところが、この不定冠詞の a だけは、どう訳していいのか、どう使い分ければ良いのか分からなかったのですが、この

「it`s a Sony」

を耳にして「リズム取りの音合わせの為にある」だけで、特に深い意味があるわけではなさそう、と思ったのです。

つまり

「イッツ ソニー」じゃ語呂が悪いので a を挟んで「イッツァ ソニー」

で、上手く舌が回り、耳にも馴染みやすい。そのための a が不定冠詞。

何故なら語呂合わせという「たまたまの偶然」による出現で付いたり付かなかったりするから「不定」冠詞。

英文法上、正しいかどうかは分かりませんが、今のところこの解釈で、外国人との会話は、大過なく過ごせております。

2021/5/29

オマケの英語教室

大きな勘違い Big misunderstanding



英語と日本語の最大の差は何？

それは「そうするのが良い事だ」の差ではないかと思っております。

英語は主語の後に直ぐしたい事、言いたい事が来るが、日本語はしたい事、言いたい事が最後に来るとかいう文構造の話でもなく、

英語は 26 のアルファベットだけで済むが、日本語はひらがな 50、カタカナ 50、当用漢字 2000 余りと基本文字数だけでも相当多い、という事でもありません。

確かに違いではあり、外国の方が日本語を学ぶ時の大きな障壁でもあります。それ以上に異なっているのは「それがいい事なのだ」と価値を見出し、求めている方向がまるで違っている気がするのです。

喩えて言えば英語は PC のワイルドカード (***) か我が国の風呂敷の用に汎用性が高く、いかようにでも個人とその場に居あせた人との間での裁量が利く。

成る丈「窓口と受け皿が大」である事が「良い」とされる。

言ってみれば「大きな投網（セーフティネット）」の様なもの。

それに対して日本語は、ちょっとした違いでも言葉を分け、完全に「唯一無二の的確」「全問正解、ド真ん中の中」である事が「良い」又は「美」とされる。

それが出来ない事は人品骨柄を疑われてしまう。

又はちょっとした語彙の差による微妙なニュアンスを理解しないと、立ち所に「KY」の烙印を押されてしまう。

なので、我々国民が英語を学ぼうとすると、矢鱈逐一の単語を覚える方向に脳内目線が向かってしまう訳です。

その結果、外国人すら初めて耳にするような単語を知っていたりする事もあります。

「え、えっ、何その単語？初めて耳にしたよ」

まずこれが我が国英語学習の最大の掛け違いの様な気がします。

つまり

英語から日本語に訳す時に、例えば have、make、take、do、get 等の汎用性の高い言葉程、数多の日本語訳が付いてしまう訳です。

その為、こういった英語の基本単語の使い方が、却って分らなくなってしまうのです。

折角の汎用性と自由度が消えてしまい、却って矢鱈と意味範囲が広い「難解な単語」に化けてしまうのです。

反対に日本語を英語に訳そうとする場合には、英語の基本的な言葉の使い方を「汎用性」という視点で捉えていないものですから、いきなり、いの一番に日本語と同等以上に「厳密に 1 対 1 に意味のあった（正しい）単語」を探す事になり、上述しました様に、外国の方から「一体どこからそんな言葉、引っ張り出してきたの？」と言う事になってしまうのです。

或いは会話であれば「的確な単語」を探している内に、相手は待ちきれず、居なくなってしまうとか。

確かに外交折衝や国際会議等ではそれは必要かもしれませんが、日常会話に於いては却って混乱の元になるだけです。

なので、英語を学ぶ時には、まず多くの単語を覚えよう、的確な語彙を増やそうというのは、大きな勘違いの様な気がします。

それが我が国に於ける English speakers 増加の最大阻害要因ではないかと推測しております。

2021/6/2

オマケの英語教室

from



「～のせいで」は「because of」

例えば「そりゃあ、お前のせいだ」なら「It's because of you」

この時に使われている because は「何故なら」でよく使われる単語です。

この because を細かく分けると be + cause で、cause は「原因」とか「起因」を表す単語（名詞）です。

なので「It's because of you」と言ったら「それはお前が原因だ」又は「それはお前に起因している」というのと同じ事になります。

それを口語風に「お前のせいだ」と訳したわけです。

今日のお話はここからです。

もし「お前のせいだ（原因の元、起因人物）」である事を言いたいならば、特に「because of」というイディオムを覚えなくても、原因、起因を表していると外国の方が感じれば良い別のもっとポピュラーな（我々が知っている）単語を使っても良いはずです。

そこで今日は「起因」「原因」を表すことも出来る from を使ってみます。

例えば、状況に応じてですが

「It's from you (=It brings from you)」

でも通じそうなのです。

他にも、この from の元々の原義を理解すると、もっといろいろな使い道を覚えることが出来そうです。

では、この from の原義とは何か？

それは

「そこから始まっている」「それに端を発する」です。

数例を上げてみますと

「Where are you from?」と言えば「どちらのお生まれですか？（ご出身国はどちら？）」

になりますし、

「from which time(o'clock)shall we start?」と言えば「何時から始めましょう？」

になります。

又

「What is it made from?」といえば「何で出来ているの（なに由来？）」

となります。

「そこから始まっている」「それに端を発する」という from の元の意味さえ掴んでしまえば、こうした使い方のバリエーションがすんなりとアタマの中に入るような気がしませんでしょうか？

いちいち成句や用法、用語事例を暗記せずとも、原義さえ掴んでしまえば、いくらでも応用が可能になるような気がしております。

その用法で正しいかどうかは、相手の外国人さんの表情をみれば、直ぐに察しが付きます。

その時こそ、初めて

「じゃあ、どう言えばいいの？」

と聞けば良いだけですから。

「Don't understand what I say? Lecture me (=Let me know) what should I say , please」

って。

捕捉)

Where did you come from?

これは「ご出身地は？」ではなく「（前泊地はどちらという意味の）どこから来たの？」です。出身地や国を訪ねるのとは異なりますので、ご注意を。

2021/6/3-3

オマケの英語教室

noisy



「邪魔くさい」とか「うざったい」に近い様な雰囲気の際に使う言葉として

例えば

「（はっきりとした）邪魔をする」なら disturb

「（なんとなくもやもやとした）邪魔をする」なら bother

を使います。

上の例としては、ビジネスホテルなんかに泊まった折に、宿泊客（例えばあなたが）ドアの下からホテルのクルーに向けて、表廊下に出すカードによく書いてあるのが

「Please, don't disturb」

「朝、起こさないでください（眠りを妨げないでください）」

です。

又、下の例としては、何か一生懸命考えている時に横でごちゃごちゃ言っていたりする場合に

「Don't bother me」

「邪魔しないで（気を散らせさないでよ）」

という風に使ったりします。

しかしどうも二つの言葉の境界が曖昧な感じですし、この二つの単語そのものを知ってい
らっしゃる方も多くはないでしょう。

なので、ここでは

Noisy

を使う事にします。少なくとも初っ端は、それで十分だと思います。

Noisy は言わずと知れた noise (雑音、ノイズ) の形容詞形です。

はっきりにせよ、何となくにせよ「邪魔」の具体例である

noise (ノイズ) という言葉

を利用する訳です。

そうすると

「It`s noisy!! (You are noisy)」

と言えば

「(お前は) 五月蠅いよ (この場合、文字通り耳元でハエがぶんぶん鳴っている感じです)」

で、結果的に相手 (あなた) を「邪魔している」「煩わせている」

事を、言われた人は容易に感得するでしょう。

余りダイレクトすぎる様に思われる場合には

「You are little bit noisy」

(ちょびっと、五月蠅いよ)

にすればいいでしょう。

そうして、静かにして貰いたい時には

「You are little bit noisy. Please stop (=please be silent) 」

(be quiet の方が的確ですが、皆が知っている単語と言えば silent なのでそれを使用しました)

でも十分伝わるでしょう。

Please の後にジェスチャーで、手で口を覆うか人差し指を一本立ててみるのもいいかもしれません。

要するに

何も「鼻から」ジャストな単語を覚える必要はないのです。

知っている単語を使って、まずは何かを意思表示する。

その経験そのものがとても大切な気がいたします。

2021/6/6

オマケの英語教室

「今あるものを使おう」シリーズ予告



「スキな球が来るのを待っていたら試合は終わってしまいます」

といったのはイチロー。

「（習得レベルに於いて）上を見ればきりが無い。しかし、自分が最下位というわけでもない。言い方は悪いが、自分より下も居るはずだ。ならば、今の自分が人より知っているものを、今の自分よりは知らない人に伝える処から始めたっていい気がする」

といったのは今から10年前のSNSに投稿された名もなきお方。

で「盲、蛇に怖じず」である自分は

「何も大学教授や同時通訳レベルに成らない限り英語を教える事は出来ない、という事もなかろう。そこ迄待っていたら人生が終わってしまう。勿体ない」

と思い、今から4年前に「すすき野留学」という英語教室を始めました。

コンセプトは

「今あるものを使おう」

又は

「今あるもので何とかしてみよう」

でした。

ここで言う「今あるもの」とは自分も含めて中卒以上なら既に相当数知っていて「宝の持ち腐れ状態」になっている身近な「英単語」のことです。

それを駆使して、それなりの英会話を楽しんでしまおう。

何も新たに英単語を覚える必要はない。

まずは「今持っているものを（あれこれ考えて工夫しながら）使い切ってみよう」という訳です。

但し、そこで大切なのが

「英会話習得を（最終）目的にしない」

という事。

何の事かというと、

例えば外国の人と一緒に部屋を片付ける事になった。

さてどうしましょう？

どこから始めよう？

どう片付ける？

役割分担は？

そういった具体的作業の中で、どう相手とコミュニケーションを取って共同作業を進めるか？

その時「英語」はコミュニケーションの一手段にしか過ぎない事が分かってきます。

他にも色々方法がある。ジェスチャー、表情、図やイラスト。

或いはスマイル。

しかし、それらを進めていく内に、やっぱり言葉が一番有効だという事が分かってきます。

で、結果、知っている単語を止む無く使う羽目になって自然と言葉を覚える。

つまり「英会話能力のアップ」は副次的な「偶然の副産物」

即ち「オマケ」なのです。

目的はあくまで「部屋を片付けるという共同作業」

で、「英会話能力アップ」は、もう一度言います。

「オマケ」なのです。

これが「オマケの英語教室」の由来という訳。

次回から表題の

「今あるものを使おう」

シリーズを始めたいと思います。

（追記）

題材は、みんな今迄に自分が「オマケ」として得たものです。

同時にそれは、辞書を置かない「考える英語」でもありました。

以上を google 及び弊社「すすき野留学」サイトで開始いたします。

2021/6/8

オマケの英語教室 今あるものを使おう シリーズ

「段取り」



最初から辞書を引かない事が大切です。

まず、自分が知っている英単語で、それを表現できるか？から始めましょう。

こうすると、単に暗記するだけでなく副次効果としてとてもいい「頭の体操」になります。

なので、最初はまず、できるだけ辞書を引かない事をお勧めします。

例えば今日、自分は朝5時に早出してお店のセッティングをしているので

「段取り」

という日本語が思い浮かびました。

「段取り（をする）」だからと言って直訳的に

Take a ladder（はしご段）とか take a step（階段）と言うのではどうも通じそうもありません。

ここから考える作業が始まる訳です。

そもそも「段取り」を日本語で分り易く言うとなんのか？

「スムーズに仕事が運ぶように順番を整える（ならべる）」

というのが思い浮かびました。

それで

まず動詞には set とか put とかが浮かびます。段取りの「取り」から「take」取るというイメージより「set」とか「put」の「準備する」とか「置く」とかのイメージです。難しい日本語で言うと「しつらえる」とでも申しませうか。

次に「段」は何かというと「仕事に手を付ける順番」です。

それを此処では「job」としましょう。

この際「手を付ける順番」は一旦割愛してしまいます。

それを纏めると

Set jobs とか put jobs になります。

では仕事に手を付ける順番は？

そんな単語は自分も知りません。

なので、自分なら

Set jobs running smoothly.

とします。

つまり「仕事がスムーズに走るようにセットする」

です。

既にこの段階で自動翻訳システムからは「本当にこれで良いの？」という警告アナウンス（二重下線）が出ましたが無視です。

此処迄でお分り戴けると幸いなのですが、

要するに「段取り」という単語を訳すのに、まず日本語でどう言ったら日本人にも分り易いかを考え、それを今度は直訳してみようと試みますが、圧倒的に単語を知らない。

ならば知っている単語を使って「段取り」そのものよりも「結局自分は何をしたいのか（しようとしているのか）？」に焦点を当る。

それが分ったら、それを表す「自分が知っている」単語を並べてみる。

それで通じるかどうか？

というだけの話なのです。

自分の場合は幸いに set と job と run と smooth という単語を知っていたので上記のようになりました。

人によっては、make（させる）という使役動詞や prepare（準備をする）という自動詞、organize（整える）という自動詞を使う方もいらっしゃると思いますが、それは人それぞれ。

色んなアプローチがあって当然でしょう。

正解はないのですから。

受験英語と違って。

（注記）

是はあくまでも「前座としての英語」です。

「取掛かり易い様に」バッシング覚悟で、敢えて小さな間違いをも、しつらえたもので御座います。

2021/6/11-2

オマケの英語教室「今あるものを使おう」シリーズ

rotation



今日はちょっと、思いつくままに連想ゲーム的に進めたいと思います。

暫く前の記事で「働き方改革」に倣った当店外国人従業員の週休二日制導入に伴い「ローテーション」の関係から、パートさんを新たに一人雇わなくてはならなかった、というお話をしましたが、今日はその「rotation（ローテーション）」に関して。

我が国ではローテーションというと人事関係での「移動」やパートタイム勤務での「シフト表」などが思い浮かびます。

一方、自分の経験を紐解くと、ある時自分の料理の師匠であるネパールボスのお店でスマホでネット閲覧をするのに WIFI の電波を拾えないで居ると、ボスが

「rotate your mobile phone this way, that way, several ways して下さい」

といました。

要するに

「スマホの向きをあちこち変えてみてください」

と。

それで「rotate」という単語が向きを変える、とか回転させるという意味だという事が分かりました。そしてその時、連想的に思い浮かんだのが「rotation」

「rotation てえ、rotate（物事を上手く回す）の名詞形なのかぁ」

と。

そしてそこから又々思い浮かんだのが

「そういえば、会社員時代にうつ病だった頃「こんな奴、役にたたんわ」とあちこち職場を「たらい回しにされた」なあ。人事育成制度（carrier development program=CDP）での移動と役立たずの移動。「育成」と「たらい回し」もっと言うと「お払い箱」

大変な違いだが、名目上はいつも CDP だったなあ」

ところで「たらい回し」って英語で言う「rotate inside the wash bowl」とでもいうのでしょうかねえ。

英語で単語を覚える（よりの確に言う、知っている単語を生き返らせる）のにとっても有効なのは、こういった連想ゲームと、連想ゲームを上手く使った「単語に印象や感想をもたせたり、自分なりのストーリーを与えたりして一緒に覚える」事なのではないかな？と思っています。

多少面倒ですが、話題の持ち駒は豊富になるし、身近に感じられる、つまり使える（コントロールし易い）語彙も増えるので一石二鳥ではないでしょうか。

第 2 集

2021/6/23

オマケの英語教室

急場しのぎに (As a relief at my pinch)



8時半の男 リリーフ宮田

外国の方と話していて、言いたいことに当たる英単語を知らない場合がままあります。特に多いのが動詞形は知っているけれど名詞形をしらないとかまるで知らない単語とかの場合です。後者は当然ですが。

そんな場合、よく自分は急場しのぎの一手を画します。

それは前者の場合なら「動名詞」にしてしまう。

後者の場合なら何か適当に思いついた言葉の「語幹」に接頭辞を付けてあれこれやってみる等です。

まず、前者のお話。

動名詞とは動詞に現在進行形でよく使われる「ing」を単純にくっ付けたものです。

是で名詞になります。いってみれば動名詞とは動詞の名詞化のことです。

例として survive (生き残る。生き抜く) の名詞形は survival (サバイバル) ですが、それを思いつかなければ surviving (生き残る事、生き抜く事) にすればいいわけです。

他にも「vive」系では revive（復活する、再生する）の名詞形は、皆さんよくご存じの revival（リバイバル）ですが、それを思いつかなかったら reviving（復活する事、再生すること）でも良いのです。

次は後者のお話ですが、

その前に接頭辞とは言葉（の語幹又は基本形）の前に付ける符号みたいなものです。

符号（符牒）ですから或シグナルを発しているわけです。

例えば上述の例で言えば vive という語幹は「生きる」事を表しておりますが、その前に着いている接頭辞 sur は「超える、超えて」の意味を表しますので「悪条件を超えて生きる」と言うことになり「生き残る、生き抜く」と成るわけです。

Revive なら接頭辞は re で、これは「再び」とか「繰り返し」を表しますから「再び生きる」で「復活する、再生する」となる訳です。

凡例

或時、お客様が一旦キャンセルされた予約を再予約したいといってこれ、その事を外国人従業員に伝えるのに「再予約」という単語が出てこなかったのですが、咄嗟に「re」をくっつけて rebooking といったらどうやら意味が通じた様でした。

因みに当店では「予約」を表す単語として「reserve」とか「reservation」という言葉は滅多に使われず、彼らが来日した折の飛行機の搭乗予約でおなじみの「booking」の方がよく使われております

尚 booking は予約者名を本のスタイルの記帳簿に記したことが語源のようです。

要するにまさかの急場に際し、恥を掻かたくない一心からジャスト・ドンズバの単語で流暢な英語を話そう等という「インテリぶりっ子」を止め。むしろ動名詞や接頭辞の基本を理解して、それを上手く活用した方が余程上達速度が上がり実りある会話も出来る気がします。

もし正しい名詞なり動詞を知りたいければ相手に

「I used the word "Surviving" But I want to know the correct noun. Please teach me」

（自分は surviving という単語を使ったけど正しい名詞形を知りたいんや。教えて。）

といえは良いだけです。会話も弾むし勉強にも成ります。

何事に付け諦めさえしなければ必ず次の一手が出てきますから、ご心配なく。

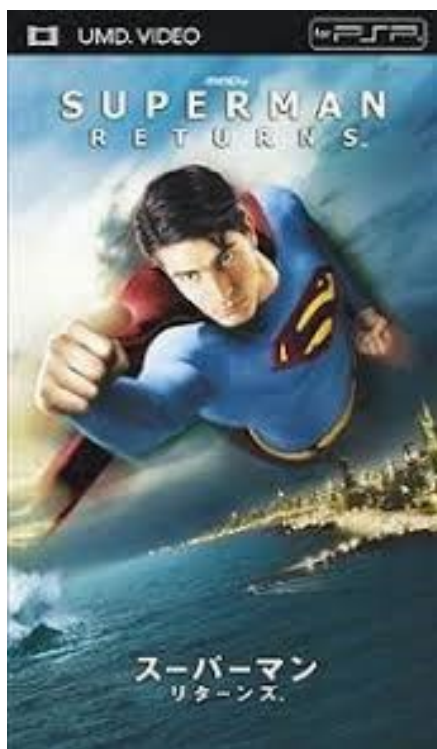
注記)

接頭辞には他にも pre（の以前に）co（一緒に）un（否定する）等まだまだ色々ありますよ。

2021/6/25

オマケの英語教室

(あなた流儀で by your style)



「相手がそうだと分かって呉れれば何もジャストで最適格な言葉 1 語でそれを言わなくても良いのだ」

と分かると大変気が楽になりました。

無論通じなければ意味がありませんが、通じるのであれば色んな表現形式があってもいい筈。

譬え話で。

日本の格言を英語にして。

絵画的描写の説明風で

数字や表を使って。

等々の実験を色々やってみる楽しみも生まれました。

又イディオム（常套句）に囚われないで、それと同等の内容が伝わればその伝え方は

「そういう表現法もあるのか」

と相手にとっても却って新鮮で、話者の個性として面白がって貰えるかもしれない。

そう思うと更に気が大きくなり同時に楽しみの範囲も格段に拡がりました。

そうして何より主軸が外国人さん側から自分側に移った事で「自信を持つ」事が出来ました。

それで益々

「英語は覚えるものではなく創るもの」

という思いを強く致しました。

当レストランで起きた実際例を一つ申し上げますと、

兎に角当店では込み入った話での日本語が通じる人間は日本人の自分しか居りません。

例えばお役所からの電話だとかお客様への支払い方法の変更の説明だとか業者さんとの値引き交渉だとかの場合です。

そんな場合は自分が出て行くしかないののでいつの間にかそれが全業務に敷衍され、一時外国人従業員達が何でもかでも用件を自分の処に持ち込んで来る様になってしまいました。

「是では雑務に忙殺されてしまう。何とかせねば」と色々考えました。

正確に説明しようとする

「対外業務や事務折衝は自分がやる。金策も広告関係も自分がやる。しかし日常の細事迄全部自分にやれ言われては身が持たない。第一そんな事ばかりしていたら明日の種を蒔く為の考える時間が無くなってしまう。だから日常業務の細事迄持ち込むな。ちゃんと線引きをしろ」

という事になりますが、それを英訳するのも面倒だし英訳した処で分かりそうもない。

何かいい手はないかと考え、此処では譬え話を用いる事に致しました。

曰く

I'm not Superman, not(=nor) Spiderman, not (=nor) Batman. You are not my dependants. Never give too many requests to me!! Do your own jobs!!

(俺はスーパーマンでもスパイダーマンでもバットマンでもない。お前達は俺の家族帯同者でもない。余計な頼み事はするな。自分の仕事をしろ)

上の文章では not ではなく nor が正解なのですが、そんな単語を使っても却って相手は分からなくなるので敢えて not を使い、

「何でも出来る訳ではない」事を伝える為に I'm not God というと色々支障があるので冗談めかして映画キャラを使い、

「俺にばかり頼るな」と言う事を伝える為に、彼らにお馴染みの奥さんや子供の在留カードの身分の欄に書かれている「帯同家族者」を意味する dependant を用いて「過度に俺に寄りかかるな」と言う自分の意図を伝えました。

Dependant は depend on(寄りかかる、依存する)の人称名詞形です。

この譬え話作戦は成功しそれ以降細事を丸投げしてくる件数は激減致しました。

無論ゼロにはなっておりませんが。

2021/6/26-2

オマケの英語教室

親父ギャグ? (“Low level” joke ? “Uncomfortable” joke?)



早速突っ込まれました。前回の superman の記事。

思っていたとおりでした。

「superman じゃない」位の喻えなんて誰だって思いつく。そのくらいで偉そうな顔をするんじゃねえ」

と。

是は自分だけの考えかもしれませんが、そもそもそこがもう変な気がするのです。

現在の我が国に於いて「ギャグ」とか「ジョーク」と呼んでいいことになっているのは、つまりそう言うことが許されているのは「捻りにひねった、ある種諧謔的な二重三重のどんでん返し、裏読みの裏の又その裏」みたいなものでないと認められない。そう呼んではいけない、といった風潮があるような気がしております。

別に相手の国の民度を馬鹿にするつもりはありませんが、大方のアジア系の外国人さんには逆に我が国で受ける「ギャグ」や「ジョーク」の何処が一体「ギャグ」で「ジョーク」なのかさっぱりわからないようなのです。

「なんで笑っているの? 何処が面白いの? 説明して」

とまではいわれはしませんが、そのぽかんとしている表情を見ればそう言いたいのが直ぐに分かります。

当然そんな大変且つややこしい説明なんて英語力の足りない自分にはできっこありません。

彼らが好むのはもっとストレートな笑いです。捻りのない素直なネタです。

そうしておかしかったら、何処でも大声出して、手を叩いて笑い転げる。

前回の記事は、実際にあったそのままの描写でした。

Superman の語を使った目的は当然「笑いを取る」事なんかでは全くなく

「こちらの意思を彼らに理解して貰う」という至上命題からでした。

(後の文章化段階で spiderman と batman を付加した時には、いささか笑いを取ろうとするスケベ心がありました)

英語でもそうですが、お笑いでも

「相当なレベルにならない限り一言も喋っちゃいけない、ギャグってはいけない」

と思い込んでいないでしょうか？

もしそうだとしたら

「一言も発しないまま、気がついたら墓場の一步手前」になっていてもおかしくはないでしょう。

題名では「親父ギャグ」を Low level joke 又は Uncomfortable joke と訳しましたが、

本当に訳したかったのは Natural and Straight joke で和訳は単に「ジョーク」だけです。

親父ギャグなどと言う言葉の存在そのものが、そもそも馬鹿げている気がしますし、世界から置いてきぼりにされる原因（ガラパゴス的心理要因）の様な気も致しております。

注記)

アジア系外国人さんには gag (ギャグ) といっても全然通じなかったので、此処では joke (ジョーク) と英訳させて載せております。

2021/6/29

オマケの英語教室 今あるものを使おうシリーズ

さくらんぼ (cherry)



現在山形在住の、大学時代からの友達がさくらんぼを送ってきてくれました。

毎年この季節になると必ず送ってきてくれるのですが、それがもう 40 年近く毎年。

山形はさくらんぼの名産地で「佐藤錦」に代表される高級ブランドで有名な地域です。

例えば上述の「佐藤錦」であれば、いくら産地であっても決して安い値段で手に入るものではなく、しかも今年は例年にない不作だったとか。

それを自分のみならず他に 3 人、合計 4 人分を 40 年間も送り続けているわけですから、いくら友達とはいえ心底頭が下がります。

その友達は今山形の或新聞社傘下の広告会社の社長さんをしておりますが、コロナ禍での御多分にもれず近隣地域全体のイベントの大幅激減で受注件数、受注額共に大幅に減少する中、止む無く社員を休業させざるを得なくなったのですが、それでも給料だけは以前と変わらずに支給をするような「大変な苦労」もしている中でのさくらんぼでしたので、益々有難味が感じられた訳です。

話は変わりますが、自分は今独り暮らしです。

なので、さくらんぼ一箱戴くのは大変ありがたいのですが、自分一人が食するにはいささか量が多すぎます。

そこで、これも近年来毎年なのですが、従業員やお世話になっているお店傍の同業者さんにお裾分けすることにしております。

その中で、依然ここに勤めていて、今は他のレストランで臨時雇いとして働いている元従業員さんにメールで

「いつものさくらんぼが来たよ。お裾分けするから取りにおいで」
と打ったのですが、その際「さくらんぼ」を表すのに cherry だけでもすむ処、敢えて cherry fruit と書いて送信しました。

My friend in Yamagata sent to me a pack of 「cherry fruit」 usually. I'll share it to you. Plz come to pick it up.

何故か？というと cherry だけ書くと、書いた季節によっては人によって cherry blossom（桜の花）を思い浮かべる人もいるので、桜の花と区別するために敢えて「fruit」をつけた訳です。

特にメールの送り先が既婚女性で、旦那さんがそのメールを見て早とちりされても困りますので。

こういう話は学校の英語の授業では教えてもらえません。

しかし、実際に生活の中で英語を使っていると、必要欠くべからざる知恵として備わってくるもののようです。

おそらくポケトークなどの音声自動翻訳機でも「cherry」としか出てこないでしょう。少なくとも今の段階では。

2021/6/29-2

オマケの英語教室 今あるものを使おうシリーズ

身に着ける (wear)



帽子を被る、眼鏡を掛ける、服を着る、靴や靴下をはく、時計をする、マスクをする等、日本語で言うと「被る」「掛ける」「着る」「履く」「する」と全く違った動詞（単語）が出てくるわけですが、英語ではこれらはすべて wear 一語になります。

Wear a cap, wear eyeglasses, wear clothes, wear shoes, wear a wristwatch, wear a facemask.
どれも同じ wear。

どういうことかという、英語の wear という動詞には「身に着ける」という包括的な概念があるだけなのです。

その「身に着ける」という包括的概念が「頭」に割り当てられたら「帽子を被る」となり、

「目」に当てはめられたら「眼鏡を掛ける」（コンタクトレンズでも一緒です）になり

「胴体」だと「服を着る」

「足元」だと「靴や靴下を履く」

そして「手首」だと「腕時計をする」

「顔」だと「マスクをする」に変化するわけです。

無論日本語側で動詞が変化しているだけで、英語側では一貫して「身に着ける」という概念は変化しておらず、動詞も一語切で、その他には変化しないのです。

ご覧になられてお分かりになります通り、日本語側では一対一の対関係で単語が発生しているのに対し、英語側では一対多、一つが多くを包含しているのです。

ですので、外国人から見ると日本語は途轍もなく語彙が多く、難しい言語に感じられるわけです。

逆に言うと英語は、末尾の目的語（帽子、眼鏡、服、靴、時計、マスク）を変えるだけで、どんどん対応ができてしまうので英語が母国語ではない外国人から見ても英語はフレキシビリティに富み臨機応変に使いこなせる言語に思えるわけです。

それで彼らは「英語は簡単で便利な言葉」であるといい「日本の人は、日本語みたいに難しい言語を自由自在に操れるのに、なんで英語みたいなイージーな言葉が喋れないのか」不思議でならない訳です。

なんでそんなにお茶の子芥々で便利な言葉をオマケや余禄、余技でもいいから使わないのか？も不思議でならない訳です。

母国語が英語でない外国人さんの掴んでいる、そのコツさえ共有できれば皆さんはもっと英語が喋れるはずです。

つまり日本語側から見ると日本語一語に対して相対（あいたい）英単語が同数存在すると思っ込んでいたので、途轍もない英単語数を覚えなくてはいけないという妄念に捕らわれておりますが、その妄念が解け、主要動詞の肝になる概念だけ幾つか掴んでおきさえすれば、後はその場でいくらでも語彙数に当たる表現数を作り出せるのだという英語に対する「思い込みのウロコが目から剥がれ落ち」クリアな視界を得て全く新しいポジションに立てるような気がするのですが、いかがでしょうか？

2021/7/1

オマケの英語教室 考える英語シリーズ

「OK」



今日は何を書こうかな？と思っていた時、ふと
OK

という言葉が浮かびました。

「そういえば、いいよというのをなんで OK というのだろう？」

勿論ググってみれば直ぐにわかります。多分。

でもそれでは面白くない。

それで自分で考えてみることにしました。

（実は以前にもそんなことを考えて、その時は或る答えを得た記憶があるのですが、どうしても思い出せないの、もう一回考えてみることにしました）

OK は日本語で発音すると「オッケ」ですが英語で発音されると「アウケイ aukei」と聞こえます。多分日本語流に「オッケ」と言っても通じないかもしれません。

OK は動詞にもなります。

He okeyed（彼は OK した）

という具合です。

（こう書いたら google 自動翻訳から赤のアンダーラインが付きました。間違いだと。しかし自分は外国人がこう書くのを何度も目にしました）

それで因みに

He okayed

と e を a に替えたら「それはあり」位のレベルを表す二重下線に代わりました。

更に

He okay-ed

とハイフンを入れると何も下線が付かないので正解みたいです。

まあ、余談はさておき本題の「なぜ、いいよ、を OK というのか？」

そもそも「OK」って何？

いろいろ考えてみますが、なかなかいい答えを思いつきません。

こういう時は、その「OK」が使われるシーンを思い出してみたり、自分でロールプレーしたりしてみるしかありません。

それで、想像の中で自分が相手の女の子がやったお手柄に対してどんなリアクションをするだろうと思いを巡らせてみたら

片目ウィンクで、左手の親指と人差し指で「輪っか」を作り、残った中指から小指迄を立てたサインを、顔の口元の位置で「空中太鼓判」押し表現を二、三度押し引きするような仕草をしていることに気づきました。

「んっ？」

なんとその時のサイン仕草を目の前に持ってきて水平の位置で横から見ると

後ろ三本の指一列が「l」で作った「輪っか」の部分が「O」

その「O」を半分の「C」にして「l」と組み合わせると「l c」つまり「k」にも見える。

それらを総合すると「KO」

でもこれだと発音しにくそうなので

発音しやすいようにその順番を反対にすると「OK」

つまり外国人さんが「いいよ」や「いいね」を表す時に自然に生まれた動作を文字化したのではなかろうか？という考えに至りました。

ググれば、正解は直ぐにも出てくるのですが、それではあまり面白くないので、これはこれとさせて戴たく存じます。

追記)

ひょっとしたら OK が出来た後に、このサインマークが出来たのかもしれませんが。だとすると意味は別にあることに。でも、本日はこれまで。PC がまたシャットダウンすると困るので。

2021/7/2

オマケの英語教室 考える英語シリーズ

サンドイッチマン (sandwich-man)



♪おいらは陽気なサンドイッチマン♪という歌がありました。大昔の事です。

最近ではお笑いコンビのサンドイッチマンが有名です。

そもそもサンドイッチマンというのは日本語で言う処の「チンドン屋さん」の事です。

我が国では鉦や太鼓を叩いて街行く人々の気をひきつけ宣伝をするバンドチームが叩くその鉦や太鼓の音に名前の由来があります

又、英語の sandwich につきましては、パンに野菜や肉等の具材を挟んで食するものを sandwich と言っておりますが、この名の由来は自分の記憶では、英国の Sandwich 公、候、伯、子、男のいずれかの爵、即ち公爵か侯爵か伯爵か子爵か男爵のうちのどれかのその方が、大のトランプゲーム好きで、昼夜を分かたずトランプに興じていたのですが、ある時トランプをするのに食事の時間さえ勿体ないと思いだし、ついにはパンに食材を挟んだもの脇においてそれを摘みながらゲームをするようになったのですが、この逸話からその主である Sir Sandwich さんの名前を取ってサンドイッチと言われるようになったとか。

しかし何故チンドン屋さんに食材を挟んだパンの名前を冠するのか？

それでまたググらないで、まずは自分なりに色々と考えてみました。

前回同様今回も直ぐには思いつかなかったのですが、今日は子供の頃よく目にしたチンドン屋さんの絵姿を思い浮かべてみました。

確か先頭が菅笠をかぶり胸前にセットしたチンドン鉦太鼓を叩いていた女の人。しんがり最後が、これ又確かチラシを周りの人にお道化ながら配っていたピエロ姿のおじさん。じゃあ真ん中はどうだったっけ？と思い出してみると、これ又〃曖昧ながら貫頭衣の様に頭

を貫いて前後、胸前と背面背中に広告看板を「振り分けぶら下げ」してクラリネットを吹き鳴らしていたおじさんだったような。

で、その時

「あっ、そういう事か!!」

と思い当たりました。

つまり、その振り分けぶら下げした胸前と背面背中の看板に胴体が挟まれている姿がサンドイッチに見えるからだろう、きっと。

言ってみれば「板挟み」の「ジレンマ」状態。

絵画的に言う「前門の虎、後門の狼」状態。

日ごろの生活の中で似たような状況が起こった場合、ひょっとするとこのサンドイッチという言葉は「面白い表現」として使えるかもしれない。

と、ふと思いつきました。

それで試しに

I`m always sandwiched between customer`s wallet and staff`s wallet.

In front of me tiger, behind of me wolf. Bowwow!! I never can move. Wakatta?

これなら fall into dilemma(ジレンマに陥る)より面白い。第一うちのスタッフはジレンマなんていう言葉を知れないかもしれないし。

で、

(自分はいつもお客様の懐具合とお前たちの懐具合の間で板挟み状態だ。前門には虎、後門には狼がいて身動きがとれんぞ。わかった?)

と言ったら…

通じました。アハハッと笑っていますから。

Sandwich はこういった状況で動詞化または形容詞化(動詞の受け身化)して使えそうです。

2021/7/3

オマケの英語教室 今あるものを使おうシリーズ

ショートカット (short-cut)



直接その言葉を知らなくても、知っている言葉で同じ結果、効果を生み出すものを、まずは代用的に使ってみるようにしています。

直ぐには辞書を引きません。

確かに語彙は増えませんが、仮に英語を人様にお教えするときに、矢鱈と単語をぽんぽん打ち出すのは、相手に恐怖以外の何物をも与えない気がするからです。

鼻からやる気をそぐことにしかならないような気がしますし。

それでなるだけ「宝の持ち腐れ状態」になっている中学卒業までに習った有り物を再活性化すべく活用するようにしております。今風に申せば、一種のエコでもあります。

新規の時に発生する余計な記憶エネルギーを使わず、既に持っている記憶の呼び出しエネルギーだけ使うという意味で、個人の学習恐怖克服負荷エネルギーを減らすわけです。

前置きが長くなりました。

処で本日のお題の「ショートカット」

我が国ではショートカットヘアがもっと一般的に想起されるアイテムだと思いますが、本日のショートカットはパソコン画面上でのそれ。

パソコンをお使いの方ならお馴染みでしょうが、敢えて説明いたしますと、パソコン画面上に置かれた右伸び上がりの矢印マークの付いたアイコン達です。

日本語にすると「短縮」とか「近道」という意味合いです。

パソコンでは、格納されたプログラムなりファイルやフォルダーをいちいち格納先まで探しに行かなくても、このショートカットアイコンをクリックするだけで直ぐにそれらが呼び出せるという意味で「短縮」乃至は「近道」なのです。

そこでまた、はたと思いついたのが short-cut という英単語も前回の sandwich 同様に別な活用ができないだろうか、という事です。

例えば

This route is a short-cut way.

(このルートが近道の一つだ)

は成り行き上当然としても、更にその先の活用例として、例えば

Never have done too much short-cut ways.

(手抜きばかりするんじゃねえ＝手抜きをしすぎるんじゃねえ)

つまり「近道」という肯定的な意味を、逆手に取って否定的な意味の「手抜き」と訳した訳です。

試しに当店のコックさん相手に「冗談」の一部として使ってみました(うちでは手抜きは致しておりませんので) これも、通じたようでございます。

同じ言葉でも使われる状況によって別の意味を持ってくる場合がある、と知ることはコミュニケーション上、結構有効な武器になる気がいたします。

語注)

既出の英文で使った too much の much は、本当は many なのでしょうが、muchの方が語呂がいいので敢えて今回の例文では much を使いました。悪しからず。

2021/7/5

オマケの英語教室

Why does it happen? 前編



叩かれることを覚悟の上で、一筆啓上仕ります。

オマケの英語教室を書いていたしたら、幾多のご指摘を頂戴いたしました。

まあ、大半がお叱りと訂正要求なのですが。

しかし、止めようという気にはなりません。

失うものより得るものの方が多いと思うからです。

こういったご指摘やお叱り、訂正要求が受けられるのも、自分が言葉を発したからです。発しなければお叱りを受けることや訂正要求を受けて「つらい思い」をすることはありませんでしょうが、同時にそれはご指摘を受ける「チャンスを失うこと」にもなるからです。

以前或る SNS で「早朝レストランに出社すると、バックヤードでカラスが鍾代わりに置いておいたビール瓶のダースケースを押しどけてあさり、そこいら中がゴミだらけになっていたので「カラスは怖い」という投稿をしました。

その折、名前からして英語が母国語ではない見知らぬ外国人女性の方から

「Yes, crows is very fear」（そうよ。カラスは怖いわ）

と有り難い事に思いがけぬメッセージを戴いたのですが、その同じ板に横から日本の方が「crows で複数形なら are、is が正しいなら crow じゃないとおかしい。あなたは間違っています」とその外国人女性宛てに英語で「誠に正しい指導」をなさったのです。

余りに正しくて腹も立つし、女の方が可哀想だったので

「I noticed it at the time. But just at once I understood what she wants to say, then no said concerning to it」(直ぐに気づいたけれど、彼女の言いたいことはわかったので、そのことに関してはなにもいいませんでした)

と横から書き込みを入れました。

こういった心の中でひそかに自分を「相当レベルのインテリだ」と思っておられる方々は、英語をコミュニケーションの道具としてではなく、自分の有能さを見せつける、或いは相手を威圧する道具として無意識の内にも位置けて使っていないのでしょうか。蛇足ですが、こういう方々は敢えて難しい単語を選んで使ったりもします。自分の高位を示し、相手をひるませる為なのかもしれません。

だとすればそういう観点を少しでも抱いている方々は聞く側に立っている人たちも含めて、英語と訊いた途端に気分が重たくなるのも当然の事でしょう。ちっとも楽しくなんかなく、疲れて当たり前です。それこそ外交交渉の時のように。

外国人は案外おおらかです。大抵の事は no problem (大丈夫よ)

文法的に間違った言い方をこちらがしても、意味が分かれば細かな指摘をしたりすることなんかしません。指摘するのは職業として英語を教えている外人講師で、しかもその英語教室での時間内にするくらいのもです。それは職業なので仕方がないでしょう。

それではいったい誰がチェックを入れているのか？と言えば間違い指摘は決まって日本人たちなのです。

(中編へ続く)

2021/7/5-2

オマケの英語教室

Why does it happen? 中編



(前編続き)

英語を話すというのはインテリジェンスの証明、有能である事の証明、人格が高位である事の証明、いずれでもありません。

そんな意味不明な尾ヒレがついているのはわが国だけではないでしょうか。

以前にも申し上げましたが外国の人はわが国で英語を話す人に出会うと

「素晴らしい知性の持ち主だ」等とは一切思わず単に

「英語を話す人がいて助かるう (helpful)」

位の事なのです (逆に言うと彼らは助からずにいるのです)

ですので、自分が勧めているのは翻訳のプロになる事でも外交官になる事でもありません。

国内外によらず、たまたま隣にいる人とコミュニケーションを取ってみませんかと言っていただけなのです。

眼を転ずれば我が国全体の日常会話においてさえ外交交渉モードの駆け引きに満ちた会話が溢れかえっております。そうしたお互いの読みあいや腹の探り合いをする様な生活ばかりしているから恒常的に疲れるのです。

なぜなら全ての会話に利害が絡み、相手全てが自分の事を植民地化しようとする列強諸外国に見え、自らも隙あれば相手を自分の属国にしようとする様な事ばかりしているからです。

どこにも友好関係が存在していないのです。

外国人は異国で同国人に偶然会うと直ぐに声を掛け合いますが、我々は外国で日本人に合うと避ける事が多い気がします。

折角監視の目から解放されたのに、またぞろ外国で外交交渉の真似事をしたくないからではないでしょうか。

例えば、交渉後に少しでもいいポジションを得る為の相手の様子見や出方待ち、より直截に言うと相手の失策を待ってから切り札を出す「後出しじゃんけん」姿勢。

又は「抜け駆けなしよ」の公平の名の元に強いられる横一線並び。それを破ると途端にどこからともなく同調圧力が掛かかり暗黙裡に横一線ラインに引き戻される息苦しくなる様な相互監視生活。

無論男女やご近所間も同様です。

外国で屢々日本人女性が騙されたり犯罪被害に遭ったりするのは、外国人男性が我が国の様に男女が腹の読み合いみたいな事をせずダイレクトな感情表現や要求を出してくるので、女性も隠密潜航潜水艦生活の国内では決して出せなかった本来の欲求がつつい素直に出てカモられるケースが多い様な気がします。

そうした被害を未然に防ぐ為にも常日頃から「様々な経緯を持った人達とのコミュニケーションに慣れておく事」が肝要です。練習もせずにいきなりオリンピック競技場の真ん中に立つ様な無謀な事態を避ける事です。

その為には日頃から以下を意識するといいかもかもしれません。

「言葉を発しない限り何も伝わらない。

相手が声をかけてくれるのや英語でも程度が大学教授レベルになるのを待っていたら人生は終わってしまう」

こうなってしまった一因として

「振るい落とし（＝間違い探し）専門の厳密教育（就中英語）」

が悪い寄与をした事は否めない様な気が致しております。

（後編へ続く）

2021/7/5-3

オマケの英語教室

Why does it happen ? 後編



(中編続き)

2 か月程前、ほんの短い瞬間

「そういえば、立花隆をしばらく見ないなあ。どうしてどのメディアも彼をフォローしないのだろう」

と何の前触れもなくふと、そう思いましたが、先月訃報に接し、その後ついこのあいだ、テレビで 4 月の末に亡くなられた「知の巨人」(で且つ科学的実験者及び行為者：括弧内筆者付加)と称される立花隆についての特集を見ました(矢張フォローしているチームがいたのです)

今から 10 年程前の生前の映像がずいぶん流れたのですが、著名人にありがちな「作り」がありませんでした。表情も変に穏やかでもなく、敢えての陰しさもなく、ありふれた普通のそれ。

それらの映像の中で、お名前は存じませんが、恐らく「相当のレベルの権威」と思われる「長年の友人である老人」と話している映像がありました。

場所は、その方の庭先。

立花隆が尋ね、その方が答える。すると立花隆は「ふーむ。なるほど」という顔になる。

変なへりくだりもなしに、唯々「なるほど」という顔をしている。

相手の方も権威であるにもかかわらず「どや顔」が全くない。

こうした場面によくありがちなお互いがお互いを牽制しあうこともなく、背伸びの仕合っ
こもない。地に足がしっかりと着いている。

或いは、その反対に権威の方が尋ね、立花隆がぼそぼそと答えるのですが、その場合も前
述同様、牽制もどや顔もないのです。

お互いがお互いに「へえ」と「成程」と「なんで？」だけ。

お互いに大変くつろいで話しているのが分かりました。

そうして、その時の会話に使われている立花隆の英語は発音も悪く決して上手いものでは
ありませんでした。

しかし話の中身が濃く、受け答えに誠実さとお互いへの興味が深々と感じられました。

30年ぶりに再会したのに、まるで昨日した話の続きであるかのように話に直ぐはいれたと
後日その方がおっしゃっていたとのナレーションが入りました。

その話を聞くにつけ中身がないのに形だけ整える事のあほらしさ。

まずは中身を持つ教育。

次にそれを整理する教育。

そしてそれを相手に伝える教育。

中身がなく形だけ整っている礼儀無き行儀良さは、巧言令色少なき仁又は慇懃無礼にしか
なりません。

話す英語は完璧なまでに正しいのに、聞く気にもならない話をされたら、恐らくこのお二
人は、その場では何も言わないでしょうが、二度とその庭先にその人を呼ぶことはないよ
うな気が致しました。

最近我が国では、英語教育同様にプレゼンテーションノウハウやスキルアップの向上に関
する教育は、そこまでやるかというほど事細かにされているようなのですが、肝心かなめ
のプレゼンテーションの中身の教育となると「お寂しい限り」のような気も致します。

なぜこのようなことになってしまっているのか？Why does it happen?

引き続き考えていきたいと思っております。

追記)

最後に立花隆さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

2021/7/11

おまけの英語教室

その目的や如何？ What the purpose, is it?



「大丈夫。英語は一つじゃない。国の数だけ英語はあるから」
といったのは数年前にネパールボスのレストランで知り合った在日就労カナダ人の大工さんの言。

それが、自分もネパールカレーレストランを営む中でこう変わりました。

「英語は一つじゃない。職場の数だけ英語はある」

以前、他の記事でも何度かお伝えしました様に当店のネパール人従業員に「正しい英語」で話すと却って通じない場合が多々あるのです。

例えば正しい英語で「行った」を表す go の過去形は went ですが、went というとなんかそれが go の過去形、即ち日本語の「行った」に当たるものだとは思わないのです。

別に彼らを馬鹿にしている訳ではありません。

そういう現実がある、或いはそういう事実が厳然としてあるのだという風にご理解下さいまし。

そういう現実や事実を目の前にして、それをどうやってこなしているかと申せば

例えば「行った」を表すのに、流石の彼らにもお馴染みの go をそのまま時制変化をさせずに使い、後は過去を連想させる言葉を付加する事で凌いでおります。

未来であればそれを連想させる言葉を付加して。

無論 he や she、it などでは does にするなどの人称変化も使いません。

曰く

「Aさんは買い物に行ったよ。10分前に」A san go to buy, 10 minutes ago(or before)
と敢えて、いわなくてもいい10分前という時間をくつつけるのです。

「Aさんは買い物に行くよ。今から」A san (will もつけません)go to buy from now.
ご覧戴いてお分りになります様に我が国の中学一年生すらも気づく明らかな文法的大間違いです。

正しくは

過去形であれば A san went to buy 10 minutes before ですし、未来形であれば A san will go to buy from now です。それが毎日の習慣であれば A san goes to buy every day です。

こう書くと恐らく識者の方々は

「ならば正しい英語を教育すればいいではないか」

と仰られるでしょうが、当初は自分も1年程かけて英語と日本語のレクチャーを毎日15分間続けました。

が、結果はすべて無駄。

教え方の問題というより国民性と申しますか、気質と申しますか

「カリーを作るだけなのに何でそんな難しい事ごちゃごちゃ言ってんだろう。関係ないよなあ」

という具合になってしまうのです。

ならば、という事で編み出したのが「ナマステエブリバディ語」とでもいうしかない英語です。英語と呼べるのかどうかさえ怪しいのですが。

それで思ったのは（語学の）「目的（或いは位置付け）は何か」という事です。

語学の目的（乃至は位置付け）が「正しい英語の習得」であれば、こんな方法は絶対に考えつかないでしょう。

ですが語学の目的が

「コミュニケーション」

であり

「語学はその一手段に過ぎない」

となれば、当然あり得る話なのです。

いくら何でもそこ迄文法を無茶苦茶にする事はお勧め致しませんが

「英語は正しい英語一つだけ」

と思い込んでいる風潮に一石は投じられるのではないかと思ひ筆を執った次第でございます。

ご理解戴ければ幸いです御座います。

2021/7/12

オマケの英語教室 今あるものを使おうシリーズ

グチャグチャだ jammed!!



我が国でもパンに塗るバター (butter) と同じくらいジャム(jam)は有名な英単語です。ジャムと書いて邪夢 (ジャム) 即ち「よこしまな夢」とは誰も思いません。それほど我が国に定着した外来語としての英単語です。

同じように英語の中には殆ど日本語になっていると言っても過言ではない英単語が結構あります。

本日の記事では、この「ジャム(jam)」を使ってもう少し幅を広げた使い方をしてみたいと

思います。

ジャムにはストロベリージャム、オレンジジャム (マーマレード)、リンゴジャム等いろいろありますが、製法はおおよそ同じで果物をシュガーシロップにつけて長時間コトコト煮込んで作ります。

そうしてできた状態は、果物の形や皮を残しながらもおおよそ「ドロドロ」の「グチャグチャ」です。

で、この状態のイメージ即ち「ドロドロ」や「グチャグチャ」をほかの場面で代用的に、或いは絵画的用法として使うわけです。

ちなみに英語で「交通渋滞」のことを「traffic jam」といいます。日本語で「渋滞」というと「流れない。流れが滞る」という語が当てられますが、英語圏では「切り分けや整理がつかない混沌とした状態、即ちグチャグチャやドロドロ」を表す「jam」を当てている訳です。

で、今回はこれを自分の頭の中の状態に当てはめてみます。

ここで又再び「因みに」ですが、英語では日本語で言う「頭＝アタマ」即ち「アタマの中の活動」を「brain＝脳」という語を使って話す場合が多いみたいです。

ですので、本日は

「アタマの中がグチャグチャだ」と言うのに

「Inside my brain, it`s jammed!!」(= It`s jammed inside my brain)

で表現してみました。「＝」以下の文章は平叙文で「＝」前の文章が倒置法を使っているのは、より強く訴えかけるためでした。

勿論 confused (混乱している) でもいいのですが、この方がよりリアルで切迫感のある感じがしませんか？

ここで少し疑問に思われた方もいらっしゃるかと思いますので、敢えて老婆心からご説明いたしますと、本日のお話が冒頭では「jam」だったのが後半では「jammed」となっている理由ですが、jam は名詞形で、後半の jammed は jam に-ed を付けて過去形（実際は過去分詞）にすることで、名詞を動詞化した後、形容詞に変化させている訳です。特殊な場合を除いて大抵は動詞や名詞に-ed をつけると過去分詞、即ち形容詞として使える場合が多々あります。

他にも名詞の英単語で絵画的、映像的な具体物に ed をつけて試してみてください。

注記)

Mm と重なっているのは、音便上（発音上）の関係と jamed だと「ジェイムドッ」と間違っ

って発音することを避けるためなのかもしれません。定かではありませんが。

2021/7/13

オマケの英語教室

深い、の反対は深くない!? “Deep” opposite word is
“Not deep”!?



Deep というと、我が国では大抵「深い」と辞書のはじめに出てきます。

ですが私どものカレーレストランでは deep というと「濃い」というのが普通です。

例えば deep taste といえば「濃い味」を指します。

日本語はバリエーション（語彙）が多いので

昔のインスタントコーヒーのコマーシャルではありませんが「違いの分かる男」の修飾キ
ャッチフレーズとして、例えば

「深い味わい」とか

「コクのある味」とか

「重厚な風味」とか

「格別の味覚」とか

いろいろ出てきます。

共通するイメージとしては「奥底に秘匿された重厚、濃密、豊潤なもの」とでも申しま
しょうか。

他にも deep learning といえば近頃はやりの「深層学習」ですし、deep opinion といえ
ば「含蓄のあるお言葉」などがあります。

このようにいろいろな使い方ができる幅広い意味を持った使い勝手のいい言葉が deep な
のですが、その反対語、即ち「深い」の反対で「浅い」という英単語は何かな？と思い返
してみましたら、何と「全然知らない」事に気づきました。あらまっ。

そこで、辞書を引かずにその単語の扱いをどうしたものかと考えてみましたところ、結構すぐに見つかりました。

「浅い」曰く

Not deep 「深くない」

「えつ、そんなんでいいの？」

ともし思われた方がいらっしゃれば、それは高校受験の採点官さんが

「浅いが not deep!! ざけんじゃねえ。てめえ、採点官をおちよくとん、かいな？あん？

こういう奴は絶対に落としたる」

というのと同列です。

試験では×でも、現場では正々堂々「あり」なのです。

こういうところが職場ごとの現場英語と TOEIC、TOEFLE 英語の根本的な違いだのだと自分は思っております。

因みに「そんなに深くはない＝ちょっと浅い」くらいのことを言いたいのなら

Not so deep で十分なのです。

Deep だけ使っても、その反対語、或いは中間のグラデーション語も表現できるのが英語なのだと思います。

基本は「ジャストじゃなくても、知っているもの（今あるもの）を使い、代用する」というスタンスです。

そうまでの原動力は「相手に伝えたい、分かってほしい気持ち」だけです。

追記)

辞書で調べましたら「浅い」という形容詞は「shallow」と出ました。

それにしても、こんな英単語、生まれて初めて目にしました。印象が強く残ったので、案外逆に覚えてしまうかもしれませんね。

まあ、この英単語は余裕があれば使ってみる位でいいのではないのでしょうか。

大切なのは Not を使うという「緊急手段」を持った事で余裕が生まれ、リラックスして話せるようになる事だと思っております。

2021/7/13-2

オマケの英語教室 考える英語シリーズ

「笑門来福」



中国語では

「笑門来福」

日本語では

「笑う門には福来たる」

これをそのまま英訳しようとする変なことになってしまいます。

曰く

「門が笑うか？」

「門が笑って、何で福が来んのよ？」

等等。

では「門」とは何か？

門とは家の事です。

もっと言うところに住んでいる人や生活のこと。

そういう意味では、まず日本語そのものの意味を理解しておかないと変な訳文ができてしまいます。

つまり英語を学ぶことは国語（此处では日本語）を学ぶことと同じ事でもあるのです。

中身をよく理解しないまま、外国の人に説明はできませんでしょう？

では、この文章、意味内容をどう外国の人に英語で伝えるか？

そこで思いだしたのが

「歩きスマホをするな」の英訳です。

曰く

While walking, no texting.

歩いている最中に「スマホのながら見」(texting)をするな
です。

これを応用して

While your laughing, your happiness coming.

笑っている間(門ではなくて間です)は、福が来ますから。

(注: 本当は fortune の方がいいのですが、分かり易いように happiness にしました)

Your はなくても意味は通じるでしょうが、より自分の事として読み手に自覚していただく
ためには、付けた方がいいような気がして付けました。

或いは your は一般名詞の「人」と解釈してもいいかもしれませんね。

このように自国語の意味をきちんとつかんでいると、英訳文に説得力が増し、加えてその
場に応じたアドリブや語り手や書き手の個性も出せますので、まずは自国語をきちんと理
解することが何よりも大切なような気がしております。

追記)

老婆心ながら、どうせ笑うなら「歩きスマホで見るコンテンツ」より、周りの人との会話
で笑った方がいいような気がします、が。

うるさかったらごめんなさい。

第 3 集

2021/7/20

オマケの英語教室

Danger



最近、当然ですが「歩行者用の歩道」就中下り坂の歩道を減速もせず、呼び鈴も鳴らさず、追い越しの声かけもせず思い切りのスピードで追い抜いていく自転車が散見されます。

自分もこの1週間で二回程「あわや」という目に遭いました。

自分は、仕事中は英語半分日本語半分の生活をしている事や、どちらの言語によらず咄嗟の場合には長さの短い方を発する傾向があるようで、今回の場合にも

「Wow, Danger!!」

と思わず大声を上げてしまいました。

この場合の Danger は、我々が学校で習った通り「危険だ」「危ない」の名詞形です。

ところが同じ Danger でも使われるシーンによって「危険」以外にもどうやらいろんな意味合いがある事がわかってきました。

例えば、自分はよく外国人従業員から

「Shachou san wa very danger man」

と言われるのですが、聞いているとこれはどうやら「アブない (crazy な) 奴だ」というより「おっかない (like a rolling thunder な) 人だ」という意味合いで言っている様なのです。

何故ならこそこそ言わずに面と向かって笑いながら言うからです。いくら外国人でも上司に面と向かって度々「アブねえ奴だ」というのは流石にないでしょう。

ところがまた別のシーンではこの Danger が全く違った意味でつかわれている事がありました。

それは自分が店を始めたばかりの頃、新しく来たネパール人チーフ・コック（今の料理長ではありません）と話したカレー料理の師匠であるネパールボスが本人のいない時を見計らって

「He is very danger man. Very clever like a fox. Be careful. Ki wo tsukete kudasai」

といったのです。

この場合の Danger は「狡猾な」「ズル賢い」「裏のある」「本心をあらわさず駆け引きにたけた」という意味あいでした。それは最後の「狐みたいな」の一語で分かりました。

では、お前がここで言いたいのは一体何なの？

と問われれば

「辞書は参考程度にして体験から学びなさいね」

という事です。

もし冒頭以外の Danger を「危険」とだけしか解釈できないでいたら二番目の話に出てくる当店の外国人従業員とは気まづくなっていたでしょうし、三番目の話に出てくる忠告は「粗暴で包丁を振り回す様な」イメージで捉えていたら、向ける注意の矛先を間違えていたでしょう。つまり暫くその新参のコック長を観察して「粗暴じゃない」事が分かると注意の矛先が違っているので安心して「気を抜いてしまう」事にもなりかねませんでした。一つの単語が状況に応じていろんな意味を持つ。

逆に言えば同じ単語でも使い方次第でいろんな表現が出来る。

それに気づいて、慣れていけば少ない単語数でかなりカバーできる事が分かってきます。そういえば幼子がそうです。語彙数が圧倒的に少ないので、同じ言葉を使っていろいろな意味合いを持たせています。そうして成長するに従って個々の的確な単語を覚えていきます。

ですので、大人である我々もその成長過程をなぞってみるのもいいかもしれません。

或いは雷や狐など具体的なもので表現するのもいいかもしれませんね。

2021/7/21-2

オマケの英語教室

Location



我が国でロケーションと言えば、往年の方々は大概「映画のロケ」を想起されるようです。

しかし、最近では若い方々が借家探し等で

「職場へ行くにも、実家へ行くにも吉祥寺は自分にとって good location だよ」
等と言ったりしています。

和訳は「いいところ（好都合）だよ」で、位置や場所を表します。

この location というのは「位置する」「～にある」という動詞 locate の名詞形です。

ところが外国の人がしゃべっているのを聞いていると、例えば

「あなたのお店どこにあるの？」

と聞くのに

Where does your restaurant locate?

とは言わずに何故か受け身形の

Where is your restaurant located?

というのが普通みたいです。

そこで何故なのか考えてみたのですが、自分が思うに恐らく

「店舗（restaurant）という物自体が意思を持ってそこに位置しようと決めている訳ではなく、多分その店舗の位置はそこを運営する人によって「決められている」から受け身になっているのかなあ？」

と勝手な想像をしております。

そういえば

「心配しないで（心配しなくて大丈夫だよ）」

という場合は

Don`'t worry

普通文（現在形）なのに

「おまえのことが心配だ」

という場合は、これまた何故か

I`'m worried about you

と過去分詞形で受け身になっているのです。

ですが、これも同じく心配の元が外から（あなたから）やってきているので「心配する気持ちを起こさせられている」というニュアンスの現れが、モード（形態）を受け身形にさせているのかもしれない。

「前座の英語」でしかない自分如き者の話を、余り本気で捉えられると困るのですが、自分はそう解釈して覚えましたよ、という四方山話として記憶に止めておいて戴けると幸いかと存じます。

2021/7/21-3

オマケの英語教室

Sit down



3年ほど前、うちの日本語教室にインド人の青年が通っていた事がありましたが、
入塾してまもなくの頃、講義に来た折に自分が
「どうぞお座りください」

という意味で

Please sit down here

といったら

Thank you, I'll settle down here

と彼は答えました。

「んっ？」

と思った自分は

Settle down? What?

と聞き返しました。

すると彼は、

Settle down means that it contains more calmly and more relax sitting nuance. Then I want
to stay here on that mode, I'm appealing

(settle down の意味は、単に座るというよりは、もっと落ち着いてくつろいで座るという
意味合いがあるのです。だから自分はここでのレクチャーをそんな感じで受けたいなあ
と言いたかったんですよ)
と説明してくれました。

そういえば昔外人さんが自分のペットに「お座り」というのを

Calm down and stay here

とっているのを耳にした事がありました。

どちらかというと「お座り」より「落ち着きなさい」みたいな感じでした。

犬にさえそうだとすると

Sit down

では、犬にも使わない言葉

「おすわりっ！！」

を人に言っているのと同じですよ、とその青年は言いたかったのかもしれませんが、そんな事を言うと喧嘩になりそうだと察して、敢えて違う説明をしたのかもしれないと思いました。

そういえば settle を語幹に使った言葉で settlement というのがありますが、これは設立とか建立以外に「植民地」という意味があるのだそうです。

そう書いたからと言って此处での議論は言わずもがなですが「植民地がいいか悪いか」では当然なく、言葉の原義の話として settlement の語幹が settle であり、そこからの派生形が settlement である事を考えて併せてみると

Settle には

「根を生やす」「腰を据えてかかる」

という意味合いがありそうです。

植民地というのは入ってこられる側はそれこそ大迷惑なのですが、入っていく方にしても本国の「エライさん」はいざ知らず実際に入る現場の人間は入植に当たりそれこそ

「その地に骨を埋める（根を生やす）」程の覚悟を決め「腰を据えてかかる」積りであったらう事を思うと、それはそれで大変だったのだらうなぁと推察する次第です。

なので、その青年が使った settle down という言葉が sit down の婉曲な訂正ではなく、言葉通りであったとすれば

「この教室で腰を据えて日本語を学びたい」

という意味を伝えたかったのかもしれませんが。

残念ながら彼は所定期間内に就労ビザが取れずに帰国し、現在では母国で結婚した奥さんと厳しいコロナ状況下、共に奮闘努力していると聞いております。

入り口の location から最後は思いもよらず settle down に流れ着いてしまいましたが要するに申し上げたい事は二つです。

一つは、

単語を覚えるには事務的に覚えるより感想や印象、エピソードを伴って、つまり何かを感じて覚えた方がしっかり覚えられるし記憶も引き出し易いと言う事。

今一つは単語の語幹は何か？その原義は何か？

等、元々の意味がどのようにして生まれ、どのようにして展開、発展、派生していったかを調べたり想像したりしてみる事はとても役に立つのでは、と言う事を申し上げたかっただけで御座います。

2021/7/22

オマケの英語教室

Press



コロナ禍前のその又前のお店を始める以前、つまりお金に今ほど酷くは不自由していなかった頃、ふと思い立って箱根へロマンスカーで行きました。

因みに自分は小田急線沿線の新百合ヶ丘が最寄り駅で、箱根までそんなにお金がかからなかった事もあるって「この際だ」と思い切って行くことにしたのです。

その箱根へ向かうロマンスカーの車中での出来事。

恐らくシンガポールか何かの中国系と思われる家族が乗っていて、しきりに話をしているのですが、後ろの席の家族がいちいち身を乗り出すように前の席の家族に話しかけるものだから、なんとなくこちらが落ち着かず、又それではこの家族も不便だろうと思ったので

Press the pedal down, you can turn your seat. Then you can talk to each other face to face in one box style.

（座席のペダルを押し下げると（踏むと）席を回せますよ。そうすればワンボックスみたいに向き合ってはなせますから）

と教えてあげました。

よく分かりませんがシンガポールはとても狭い国土なのであまり観光列車等は走っていないのでしょう、そういうことは全然知らなかったみたいです。

Wow great!! Thank you so much

（わあ、すごい。どうもありがとう）

実はこう話しかける前に、自分はずいぶんと悩んでいました。

「ペダルを踏む」の英訳は push the pedal down がいいのか、それとも他に何か？

Push だと手で押すみたいな感じがして何か違う気がしました。押す方向も下方向以外に横方向もありそうな感じだし等など。

で、ふと思いついたのが「プレス加工」や「プレス金型」で使っている press という単語でした。

なんでこんな単語を知っていたかという商品企画部時代にプラスチック製品の成形を扱う金型の設計をする機構部門と散々やりとりをしていた事があったからです。

「press ならまずほぼ 100%加圧方向は下方だし、押すのでも push と違って相当な力がかかる感じがする。だから手じゃなくて足で踏む感じが出ていいかもしれない」

そう思って press the pedal down と言ったのです。

戦々恐々で声をかけましたが、思いのほかスムーズに会話は成り立ちました。

自分は今外国人従業員と毎日仕事をしておりますが、実は 38 年前のたった 2 週間の海外出張を終えて帰国した後、出張中全工程を通して、余りに英語がしゃべれなかったのでショックを受け、その後暇さえあれば

「こんな場合、英語でなんて言えばいいんだろう」

とか

「同じ日本語でも（例えば今回は「押す」です）こういう場合はどっちの英単語を使えばいいのだろうか」

等を、辞書を見ずにしょっちゅう考えていて、アタマの中の架空の外国人に向かって何度もロールプレイングやリハーサルをやっていたのです。

途中うつ病だった 12 年とお店を始めて以降の 4 年間、合計 16 年を除いたおよそ 20 年の間。

なので、種を明かせば「ぶっつけ本番で」外国人従業員相手に英語を始めたわけでもなかったのです。

最後に

最近よく目にする pressure(プレッシャー)という単語は press (加圧する)の派生形です。

言い得て妙なる単語ですね。

2021/7/23

オマケの英語教室

Rush



昭和 30 年代から 40 年代前半にかけて「ラッシュアワー」とか「通勤地獄」という言葉がありました。

駅のホームの下はたばこの吸い殻だらけで、電車が入ってくると電車の中はすし詰め状態。中は既にすし詰めなのに、ついたその駅では更に多くの人々が「押せや、押せや」で乗り込んでくる。自力では乗り込めきれないのは物の道理なので、それを無理矢理押し込む駅員さん部隊もありました。

乗るのも汗だく、押し込むのも汗だく。

おまけに車内はエアコンが効かないどころか、生ぬるい風を攪拌するだけの扇風機しか回っていないという状態。

よくもまあ、あんな状態にみんな文句も言わず耐えていたものだと感心もします。

今思うとその熱気が懐かしい気もしますが、仮にあの頃に今のコロナ禍が襲来していたら、2m ディスタンス破りなんぞは屁のかっぱ。

3 密、濃密、濃厚接触当たり前で、それこそ感染大爆発。

恐らく首都圏や名古屋圏、近畿圏はコロナ禍蔓延で全滅状態になっていたのではないでしょう。

前置きが長くなりましたが、本日のお題は、その折出てきたラッシュアワーに使われていた rush

についてです。

外国人従業員だけの当店では

「急げ、急げ、早く、早く」を示すのに quick ではなくこの rush という英語を使っています。

意味合いとしては上記の「急げ、早く」と言うよりもっと熱気のこもった感じで、よりの確な日本語にすると自分の感覚では

「わっせ、わっせ」

に近いような。

そうしてその前か後には「うんどこ、どっこい、ほいさっさ」なんかがついている感じとでも申しましょうか。

これを冒頭の「ラッシュアワー」の光景に当てはめて英訳すると

They, passengers rushed into train cars. And station staff team pushed and screwed them into the train cars. Inside it, looked like as the same as condition of oil-sardine can.

(乗客達は電車の箱内になだれ込んだ。そして駅の押し込み部隊が乗客を箱の中に押し且つネジ込んだ。中は丁度オイルサーデンの罐の中も同様、の状態に見えた)

となります。

あと、当店では

「あっ、やべっ、腹にきた。トイレに駆け込まなくちゃ」

を

Oh my god!! Just coming “Pippi. Should rush into toilette booth.

又

「バタバタするんじゃねえ。落ち着け」

を

No need and stop rush-rush mode. Get calm down.

といたりしています。

Rush という英単語には大元のイメージとして「慌てて、勢い込んで、熱を帯びて、尻に火がついて」など緊急事態時の爆発的エネルギーモードの存在があるような気がしております。

前向きに言いかえれば「火事場の馬鹿力」モード。

状況がなんとなく今コロナ禍にも当てはまりそうなので、我々も今コロナ禍でこの「火事場の馬鹿力」を発揮したいものです。

We hope this rush-rush spirit appealing under this Covid-19 world.

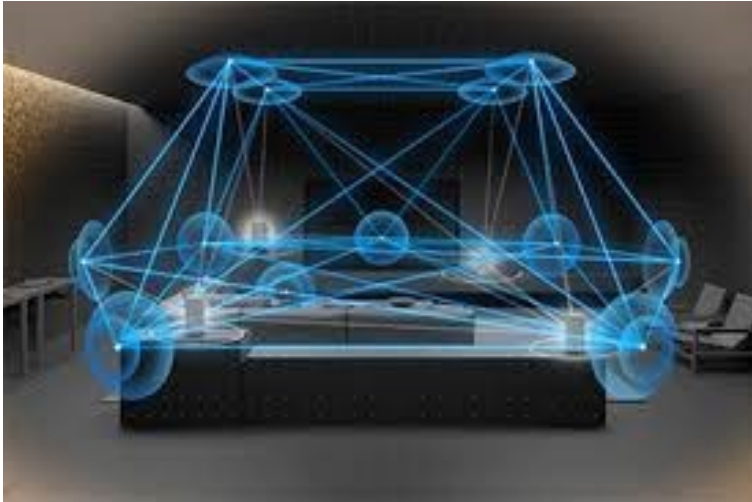
(追記)

英単語にはあまり一語一意の適語訳を追い求めない方がいいように思います。それよりは英単語一語に対して大元の雰囲気やイメージをぼんやり掴んでいる方がいろいろ発展的に使えて重宝する気がしております。勿論、民間の一市井人の経験則からの非学問的見解ではありますが。

2021/7/27-3

オマケの英語教室

Surround



Surround という単語を見ても何の事だかよく分らない方でも、サラウンドシステムと書くと「あっ、知ってる」という方は多いのではないのでしょうか。

サラウンドシステムとはフロントスピーカとリアスピーカ、又は定位の為のスピーカシステム等で、よく映像と組み合わせて臨場感をもたらす音響システムの一つです。

サラウンド(surround) の意味は包み込む、囲い込む等の意味合いです。

ですが、今日はそのお話ではなくマーケティングの「囲い込み戦略」のお話をさせて戴こうとおもいます。

マーケティングで言う処の「囲い込み」に使われる英単語は corral が使われ

例えば

「その会社は会員制ポイントカードシステムで顧客候補を囲い込んだ」なら

The company corralled candidates of customer with the point card system of (or from) membership.

となります。

しかしこの coral という英単語は原義が羊などを「塀の中に追い込む」というニュアンスが強いので、自分は余り使いたくありません。無理矢理感が漂うからです。なので、自分が使うとすれば、より優しく緩やかな「包み込む」の意味合いが勝る surround がいいのではないかなと思っています。

がしかし、言葉だけ柔らかく人当たりをよくしても、中身が結局「顧客の囲い込み」強い言い方をすれば「顧客の家畜化」であるなら、是は矢張りやめた方がいい様な気がします。

顧客の囲い込み戦略の元々の目的は「自社ブランドへのロイヤリティ（忠誠度）アップと、そこからもたらされる収益の安定化、単価のアップ等」でした。

確かに利益を最大化するには理にかなった方法なのですが、欠点は「窓のない会員制秘密クラブ」と書けば連想して戴けると思いますが「閉鎖性、流動性のなさ、滞留、淀み」が発生しやすい事です。

窓を開いた「オープンな風通しの良さ」が失われるのです。

是が発生した場合、それ迄利点だった安定収益や忠誠心が一転、足枷や目の曇りとなって会社が「時代に残される」可能性があります。

又ポイントや優待、特典などおいしい餌で顧客を釣っているのも、顧客側、会社側双方に癒着や不正が発生する温床にもなります。

顧客はもっと強い刺激や特典を求める様になり、会社側はそれを紡ぎ出す為に自転車操業になり易くなるからです。

囲い込みというのは例えて言うなら一回一回のお客様との真剣勝負の割愛とも言えます。

一種の「真剣勝負割愛、利益確保自動化システム」とも言えます。

双方の感覚を麻痺させる「麻薬」と言ってもいいかもしれません。

ですので、自分考えでは「収益の安定的確保と最大化」を敢えて求めず、一回一回勝負をしていこうかと思っております（その方が勝負勘も維持できますし）

その為、当店ではポイント制度を廃止し、又お客様データはとりますが、お礼状を出す以外、催し物の案内等は決して出さない様にしております。

ならば何の為の客データかと申しますと「スムーズな宅配」や注文回数に応じた「お礼のオマケプレゼント」の為にのみ使用しております。

2021/7/28 d

オマケの英語教室

Kotowaza



今日はちょっと我が国のことわざを英訳してみます。うと Q 流で。

虎の威を借る狐

Fox wears a Tiger mask on his face.

一難去ってまた一難

Pinch comes just after pinch has gone.

寄らば大樹の陰

You hope calmness with staying under the big tree`s shade.

出たところ勝負

No have weapon, but I`ll fight at the time.

似たもの夫婦

A couple who has almost the same characters.

死んだふり

To pretend to be dead.

死んで花実が咲くじゃなし

To die no brings flower to come out (or coming out)

いやよいやよは、イイの内

Say No, say no, sometimes it`s ok sign.

亭主元気で留守がいい

It`s better a husband always stays absent, certainly always be sick-less.

冗談は顔だけ（ほどほど）にしろ

Save your over-joking.

ダメ元

From the first, will accept lost game.

袖の下

Under the table deal.

馬鹿に付ける薬はない

No medicine for fool.

酒は百薬の長

Drinking is the best medicine for your long life keeping.

嬖（かかあ）天下

The husband whose wife is almost tyrant for him.

負けるが勝ち

At the first lost, at the final get win

従業員のワクチン接種予約が余りにもはかどらないので、今日はお遊びデーにしました。

追記)

申し上げたかったのは、直訳するより、その時の状況、情景絵画的描写訳や主意説明置き換え訳、たとえ話訳の方がわかりやすくありませんか？外国人にも日本人にも、という事でとした。

2021/7/29

オマケの英語教室

Sustainable



最近よく耳にする言葉「SDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)」

この中に出てくる sustainable という英単語は sustain（持続する、維持する）+able（出来る、可能な）がくっついた言葉で「持続可能な」と訳されております。

もう少し言いますと sustain の「-tain」には「保持する」という意味がって「sus=super 超えて維持する」で「持続する」となり、メンテナンスでおなじみの動詞形 maintain なら「メイン(main-)を保持する」で「補修する」又コンテンツでおなじみの動詞形 contain なら「中身(con-)を維持する」で「含む、含有する、包含する」となり、荷物の運搬時の入れ物や未持置き場になるコンテナは「contain する物」となります。

余談はさておき、この sustain（持続する）という言葉は元々 grow、growth「成長する、成長」との対比語として出てきた言葉です。

つまり（GDP 国内総生産に代表される経済的）「成長」よりも格差是正、公平分配、互惠相互扶助、共存共栄等を軸として「持続可能な」社会やシステム作りに主眼を置こうという意味です。

それというのも、経済的「成長」が人間社会や地球環境に「格差」や「破壊」をもたらすという悪い副産物の方が目立ち始めたからです。

「このままでは人間社会も地球環境もぶっ壊れて取り返しのつかない事になる」

という危機意識から出たのだと思います。

それで「多少快適ではなくなっても」「多少不便を感じても」元々の土台がなくなるよりはマシだから、ここは一つ「シェアしたり、控えたり、腹八分目の満足にしたり」しよう。そうしないと「全てを失う事になりかねないから」
しかし「成長概念」に慣れきった我々にはそれがどうも簡単には受け入れられなさそうです。

「今日より明日はもっと良く、今日より明日はもっと豊かに」の何処が悪いのよ？」

とか

「辛抱、忍耐、我慢しろっ、てこと？それじゃ欲しがりません、勝つ迄は、の戦前と一緒にじゃないのよ」

というお話が出てきそうです。

しかし此処で疑問になってくるのは

「もっと良く」の「良く」って何を指しているのか？「もっと豊かに」の豊かさは内を指しているのか？

でしょうし、

「辛抱、忍耐、我慢」という古色蒼然たる言葉達は「どのような時代に使われていたのか」を一旦除外してみた上で、元々の言葉の原義は何だったのか？

（例えば「辛さを抱え得る耐性を持つ事と思い上がりや我が儘をセーブする事」と置き換えるだけでずいぶんと印象が変わっても来ますから）

それを今一度、上の項目と下の項目と一緒に考えてみる必要がある様な気がします。

もっと簡略化して申し上げますと

「何を控えて、何を伸ばせばいいのか？」

それをこれから考えていきたいと思っております。

それが「具体的なシステム」として見つかった時に我々人間社会や地球環境が相互扶助的に sustainable になれる様な気がしております。

それを「sustainable development goals SDGs」と言っているのだと思っております。

2021/8/3

オマケの英語教室

Exciting と excited



(神田外語学校提供のものを使用)

T シャツに書かれている英語を単なるデザインとしか思っていない、特に女性の方に読んで戴きたい「要注意」なお話です。

海外旅行中にある邦人女性が襲われたとか。

逮捕された外国人の若者に警官が

「何故こんなことをしたんだ？動機は？」

と尋ねたところ

「Why? Never ask me such a stupid question!! Because on her T-shirt, “Exciting Girl” was written. She invited me. Hey, come on!! It was」

(何故か、って？アホな質問すんじゃないよ。だって彼女の T シャツに「○せ子」って書いてあったぜ。あいつが誘ったんだ。ねえ、来なよって事だぜ)

此処で申し上げたいのは「自分が興奮している」場合は受動形で形容詞化した excited で、「相手を興奮させる」場合は使役能動形の exciting となっているのを間違えると大変なことになりますよということです。

他にも Exhausting girl なら「(私って) 相手をものすごく疲れさせちゃう子なの」になり、それを相手が聞いたならその後の反応は「そんなヤバいのはいない。他に行ってくれ」になるでしょうし、exhausted girl なら「(私) 疲れきっているの」なら、その後の相手の反応は「大丈夫か？出来ることはするから遠慮なく言ってくれ」になるでしょうから、受ける反応はものすごい差となって現れてくる訳です。

更にこの使役能動形と受動形形容詞化の違いの例を有名な単語を使って言えば

interesting story は「興味を持たせる話」で interested in なら「～に興味を持つ」となります。

他には Surprising は「びっくりさせる」で surprised は「びっくりした（する）」も上記の話と同じです。

例えばですが、びっくり箱の事は surprising box というのかもしれませんが（不確です）

Shocking pink なら「ドキッとさせるピンク色」ですし I was shocked なら「私、ショックを受けたわ」でしょう。

こうやって文章にしてみると、どうも感覚、感情が伴う語句を使った話はみな、この使役能動形と受動形の関係が当てはまっているようです。

つまり、Exciting 等使役能動形は主体的な行為者がはっきりしているのに対し excited 等受動形形容詞化語句はその感情や感覚がどこからやってくるのかよく分からず、言い方は悪いですが「知らぬ間にその感情が自分に忍び込み、ある種自分がその感情に乗っ取られた」の感が無意識にあって受動形になり且つ形容詞化して「その様態を表す」様になったのかもしれない、と勝手に推測しております。

勿論自分の個人的見解ですが、そう考えると自分としては納得出来る気がしております。

2021/8/2

オマケの英語教室

manager、owner、master



外国語の原義を探ると邦訳が丁度元の意味と反対になってしまっている様な場合があるのに驚かされます。

以前の記事でも書きましたが、

例えば

マネージャー (manager) と言えば邦訳は「課長や管理者」で名詞形のマネジメント (Management) は「管理」と訳されます。

しかし英語の原義は動詞 manage が「いざという時に何とかする」で management は「いざという時に何とかする事」 manager は「いざという時に何とかする人」なのです。

原義の方は「部下の窮地を救う親分肌の上司像」で邦訳の方は「俺を窮地に陥れるなど紐付き管理ばかりをしている小物上司像」

と、まるで正反対。

又

オーナー(owner)は邦訳では「主（あるじ）」で原義は own（所有する）ですが、その更に元は owe で「背負う、責めを負う」である様です。

これまた原義の方が「人知れず」的なものに対し邦訳の方が「見せびらかし」的になっております。

更に又

マスター(master)は邦訳例では「喫茶店や飲み屋のマスター」でお客が主人の個人名を知らない様な場合に「とりあえず何か」名付けをして呼ばなくてはと「深い意味はない」のに対して、外国では master はドイツ語のマイステルから来ており原義は「親方、国家認定の職長」と言った「極めて重い」意味合いなのです。

それを我が国では、例えば外国人が営むレストラン&バー等で気軽に「マスターmaster」と連呼するものですから聞いている外国人の主は「そこ迄俺は偉くない」と何か妙な気がしている様です。

そういえば最近我が国ではちょっとしたレベルの人に矢鱈と

「●●の達人」とか「▲▲のカリスマ」というキャプションが付与されるのを見かけます。

是は非常に危ない傾向だと思っております。

その理由は達人やカリスマの大安売りで「その質が下がる」と言う事ではなく、言われた方がその気になり過ぎて、仮に失敗をした折に「もっとカリスマ度を上げねば」という同一方向、即ち失敗レベルの深掘りや上重ね方向に向かってしまい、立ち直りの方向性がそれ以外や極論すれば正反対にある事に気づく可能性を大幅に減じ、ミスリードする事にさえなってしまうからです。

結果、それで取り返しのつかない事になって「あの時お前らがおだててのぼせ上がらせたからだ」と幾ら騒いでも「囃子立てた当のメディア」は「こっちだって商売だ。その位当たり前だろ」と開き直るだけで「責任」なんか絶対に取ってはくれませんから。

ご用心。

追記)

いずれにせよ外国語の原義には何処となく responsibility(責任感)や a will to face the fact (覚悟の意思又は意志) が感じられるのに対して、邦訳の方では「肝心のそれが飛ばされている、の感」が拭えない気が致しております。

「かく言う自分自身」に対してもご用心、ご用心。

2021/8/4

オマケの英語教室

Pay attention in the case of using Japanglish (和製英語を使う場合は要注意)



雇用契約が纏まり、さて契約書にお互いのサインをとということで

Plz sign on it (サインをお願いします)

といって契約書の署名欄を指し示したら、英語が堪能な女性外国人従業員候補さんから

What? Sign is? (サインて、何?)

と変な顔をされました。

仕方がないので

Your name write down here, plz (此处に名前書いてください)

といって事なきを得たのですが、後で調べてみると、こういう場合は日本語で「署名」英語で signature というのが正しい言い方だということが分かりました。

因みに英語での sign は日本語では「合図」です。

野球等でキャッチャーがミットで隠してピッチャー宛に右手指一本とか指三本等で表す「合図」がサイン (sign)

合図を更に細かくひもとくと「意 (図) を示し (合) わせる」で合図。

なので、

I sent a secret sign by wink

は「ウィンクで秘密の合図 (示し合わせの印) を送った」ということになります。

そういうことから女性外国異人従業員候補さんは

Plz, sign here（ここに示し合わせの印（合図）を書いてね）と「怪しげな要求」を突きつけられて戸惑ってしまったのです。

「なんかこの契約書、怪しくない？それと、このオッサンも」

というわけです。

我が国では何故「署名」のことを「サイン」というのかよく分かりませんが、外国人さんに対して知らぬ間に「怪しげな要求」をしていると思われる場合もあるので、和製英語を使うときには注意が必要でしょう。

（追記）

Signature の源流が sign + nature つまり「自然な（本来の）+ 印」にあると解釈すれば、我が国で「署名」を「サイン」と呼び慣わすのも、あながち全くの間違いではなく、それなりに納得でき得るのかも？しれませんが。

2021/8/8

うと Q 世話し

極めて正しい英語じゃないと困るの？

「正しい英語」

是を我が国において常日頃「必要として」いるのは誰でしょう？

直ぐに思いつくのは外交官や外務省のお役人さん。或いは企業の輸出入担当者さん。

それでは同じく我が国において常日頃から正しい英語を「要求している」のは誰でしょう？

こうなってくると直ぐには答えが出てきません。

それでも考えを進めてみると、お役所や企業の上司さん、そしてその方々に「正しい英語」を促してきたお役所、即ち「教育担当省」でしょうか。

そして更に正しい英語でないと「困る」人達は誰か？

これは意外と簡単で英語学習産業の方々や英語教育機関の方々でしょう。

平たく言えば英語塾、英語学校の先生、と言うより「その経営者さん」と高等教育機関の「教授や講師さん」等でしょうか。

此处で質問の向きを変えてみます。

では「英語を話せるようになりたい」と思っている人は誰でしょう？

恐らく老若男女を問わず相当数の方々がそう思っていたり想っていた事があったりしたのではないのでしょうか。

こうやって見てみると何かがアンマッチな事に気づきませんか？

そう

「正しい」

の有り無し。

要するにこの一点で要求側と提供側にアンマッチが生じているのです。

要求側は「正しいか正しくないか」より「ペラペラ話したい（話せる様になりたい）」であるのに対して提供側は「正しくないと海外で通用しないぞ」と突き返して来ます。

しかし実際は「国の数だけ英語はある」と申し上げたのが実態です。

それでは彼らは何故そう言うのか？

「極めて正しい英語」でないと商売にならないからです。

例えば受験や TOEFL, TOEIC。

この時、提供側はまず落とす事を目的にトリッキーな引っかけ問題や外国では気にもとめない間違い探し問題を作り、次の過程ではその難易度が上がれば上がる程それをクリアするノウハウを高値で売れる云々。

つまりこの方々にとって英語は「極めて正しく」ないと「困る」訳です。

そして更に悪いのはお役所や企業の上司さん達が「このシステムに順応し且つ掻い潜れる様になってしまった」思考脳の持ち主である事です。

総本山である「教育担当省」も含め完全な一枚岩なのです。

これでは要求側の願いが入る余地等あろう筈ありません。

分厚いステーキを食べたいと言っているのに出てくるのはお上品な会席料理ばかり。

しかも逐一食事作法は寸分違わず守りなさいと言う耳タコ注釈付で。

「どうなってんの？」

と言いたくもなるのですが周りは何も言っていないので

「空気読んでないのは自分だけかも」

と「非」を自らに負わせて黙ってしまいます。

余談ですが、英語「も」話す外国の貧しい国々では子供に英語を教えるのは学校ではなく生活の中で周りの大人達が自然発生的に教えている様です。

そこで最後にご提案。

「だったら主要三科目や受験科目から英語を外しちゃえば？

その方が余程みんな喋れる様になる気がするんだけど。

どうかな？」

2021/8/12

オマケの英語教室

coming out



ここ暫くインターネットの記事で

「女優の●●さんがカミングアウトした」

といった様なキャプションの記事を何度か目にし

「カミングアウトって、何のこっちゃ？」

と不思議に思っておりました。

Coming out の元の形といえば come out でしょうから、自分の知識の中の訳語頻出順から
言えば

例えば

Flowers have come out (花が咲いた) 或いは (花が咲いている、咲き始めている)

とか

Sprouts have come out (芽が出た) 或いは (芽が出ている、出始めている)

を連想してしまったので

「女優の●●さんが花を咲かせ始めている (芽を出し始めている)」

と捉え、新人女優さんの出世話の記事なのだろうなあ、と思っていたのですが、つい最近
その「カミングアウト」が何と「公表する」という意味である事をしり、且つ又その記事
の主題が

これまた何と

「me too の流れでその女優さんにセクハラした相手の大御所の名前を公表するのだ」

というので二度びっくりした訳です。

「おめでたい話やのうて、いけずうな話、しょったんかぁ!!」

それにしても何でこの記事を書いた日本人記者はよりによって「カミングアウト」なんていう英語を使ったのでしょうか。

「女優の●●さんが公表した」

と書けば済むのに。

50 年も前の学生の頃、一時コマーシャルや週刊誌、或いはテレビの座談会などで、日本語で済むところ、やたらと英語を使う傾向があったのですが、その折そういった傾向は散々世間から顰蹙を買い叩かれた筈なのに何で又 50 年も経った今「亡霊のように不必要な無理矢理英語使用」が出てきたのか？

もしこの英単語 come out を最初に「公表する」と覚えてしまった若い人は、ひょっとすると

Flowers have come out

を見て

「花が公表している」

と和訳し、突っ込み好きな友達は

「花もセクハラされてる、らしいでえ」

と言うかもしれません。

それはそれで展開としては面白いのですが、自分のようなロマンティストのじいさんから見ると、なんともはや殺伐としてしか見えないのですが…

2021/8/13-2

オマケの英語教室

limousine bus



現在のネパール料理レストラン&バー「ナマステ エブリバディ」を始める前に、一時社業としてメンタルヘルスケアのコンサルティングをしていた時期がありました。

12年に渡る自分のうつ病体験を元に、少しは人の役に立つかもしれないと始めたのですが、是が全くの鳴かず飛ばず状態で毎日暇を持て余しておりました。

それでよく地元昇降駅である新百合ヶ丘に出向いて「何か集客のヒントになる切り口はないものか？」とウィンドウショッピングをしたり街や底を行き交う人々の様子を観察したりしていたのですが、そんな重宝なものが街中においそれと転がっている筈もなく、大抵はすごすごと引き下がるべくバス停のベンチに座って帰りのバスを待つ日々を送っておりました。

そんな折、或時新百合ヶ丘発着の羽田や成田空港行きのリムジンバスの自動昇降口扉脇に書かれている英語の案内文言に目が止まりました。

同じ無乗客で止まっているバスでも、或バスには

Not in service

と書かれており、又或バスには

Out of order

と書かれておりました。

「んっ？何がちゃうんや？」

それで取りあえず直訳から始めてみると

上の文章が

「サービスに入っていない」

で、下の文章が

「注文の外」

となりました。

「あっ、そういうことか!!」

つまり、not in service が still not in service yet の略で

「まだ、サービスに入っておりません」

の短縮形。即ち日本語のバス案内文言に置き換えると

「準備中」

で「これからお客さんを乗せますよ」と言う空港へ向かう前のバスのこと。

それでもう一方は

Out of order が out of order because of job-over の略で

「仕事が終わったので、ご乗車は出来ません」

の短縮形で、こちらのバスは邦訳バス用語では

「回送中」

で、乗客を降ろして帰庫途中のバスのことだ、と推察がつかしました。

まあ、忙しい日々を送られている方にとっては誠に「どうでもいい話」でしかないかとは思いますが、当時は待てど暮らせどやって来ないクライアント（依頼人）を待って有り余る暇な時間を、街中英語の勉強の時間に充てておりました。

注意書き)

バスの運転手さんが案内板の英語を出し間違えていた場合は、そのバスのそれからの予定が必ずしも合っているとは限りませんのでご留意くださいませ。

まっ、そんなことでいちゃもん付けるほど暇な方はいないとは思いますが、一応念のため。

2021/8/14

オマケの英語教室

a la carte



本日は気の向くままに。

会話をしている時に知っていると「繋ぎ」として結構助かる言葉があります。

例えば

Anyway (兎に角)

By the way (ところで)

Then(a) (それで、それから) ※(a)は語呂を整える為に時々付きます (読みはゼンナです)

Oh my god (あらま)

At least (少なくとも)

What should I do (どないしょ)

Why (なんでやねん)

What happen (どったの?)

等です。

いずれも短い言葉なので覚えておくと便利です。

「短い言葉」といえば、日本の人は話をするときに割合と説明口調で、瞬間の感情表現をするにも話し言葉の一文が長くなる傾向があるのですが、外国の人は「後にも先にもそれっきり」みたいな感じで感情表現に関する一文の長さはとても短いことが多いように感じます。

例えば

Wow, cute!! (わっ、キュワイィ!!)

後にも先にもそれっきりとか。

あるとすれば後は表情やジェスチャー（一人大袈裟芝居）で表現することが多いみたいで
す。言葉による説明はその後一切省略、見たような感じです。

後、日本語を英語に転換するときに注意しなくてはならないのが「直訳」です。

上述の wow, cute といった迄はいいのですが、例えばその後

「（かわいすぎて）アタマがぶっ壊れた」を

My head got broken

と英訳すると、相手は驚いて

（Oh my god!! What happen?）Go to hospital A.S.A.P（直ぐ病院に行けよ）

となってしまう。

ここは

My brain got jammed（脳みそがグチャグチャだ）

I already got fallen into crazy mode（もうキチガイモードになっちゃった）

You are too much strong poison for me（俺には毒過ぎる）

と漫画チックに言った方がいい（通じる）ようです。

因みに日本語で言うところの「頭（頭部）」ではなく「アタマ」は、英語では head を使
わずに brain（脳みそ）を使うことの方が多いい気が致します。

又、日本語で言う「分かった」つまり「分かる」の過去形での表現になるものは、英語で
は英語の過去形の表現

I understood

と言ったり使われたりしたのは耳にした事がなく、大抵は現在形の

I understand（分かったわ）

で表す場合が殆どようです。

直訳は物事を考える切り口としては使えますが、会話でそのまま使うのは一考を要する場
合が多い気がしております。

第 4 集

2021/8/19-2

オマケの英語教室

rainbow



今日雨上がり朝、外国人従業員の PCR 検査陽性による臨時休業期間中の厨房メンテナンスのためにお店に向かう途中、朝焼けの空に半弧形の虹が架かっていました。

少しも淡くなく、見事なくらい堂々として量感のある虹でした。

「コロナ禍に風水害。いろいろあるが、虹も出るんだ」

と自転車を止めて暫し感銘。

そういえば「虹」は英語で rainbow。

Rain は言わずと知れた「雨」

で

自分の知っている範囲では bow は「お辞儀」

雨のお辞儀？

なんのこっちゃ？

それで、あれこれ自分の頭の中を探してみると「ボーガン」という英単語が出てきました。

ボーガン、即ち「弓銃」

時々ニュースなんかで耳にする言葉です。

ということは bow というのは「弓」という意味もありそう。

でも「弓」と「お辞儀」がなんで同じ bow なんだ？

しかしそれらを俯瞰してみると、或共通点というか共通形が見えてきました。

何かというと、釣りをしていて大物がかかったときの釣り竿のしなり方がどれにも当てはまったのです。

換言すれば「半弧形」

恐らく「お辞儀」や「弓」の語源は「半弧形」なのかもしれないなあ。

そんなことを思った朝方。

それにしても rainbow を「虹」というより「雨後の弓」というより「雨（後）のお辞儀」

と言った方がなんとなくロマンチックな気がするなあ、とも思った本日の明け方でした。

2021/8/20-1

オマケの英語教室

そっぽをむく no facing to me, facing to opposite direction)



毎日お店に向かう途中に通る墓地公園手前の畑に今年もたくさんのひまわりが咲きました。

ところが今年のひまわりさん達は何故かみなそっぽをして自分に背を向けています。

In this summer, all sunflowers are no facing to me, facing to opposite direction, somehow.

確かに全く同じ場所ではありませんが、見ている方向は去年と同じです。

最近、外国人従業員が PCR 検査の結果、陽性と判断されました。

現在自宅療養中で、当然ながらお店は休業中です。

人の口に戸は立てられません。

もう噂はそれこそ「蔓延」しているでしょう。

そうとは思いつつも

「ひまわりさん達にまでそっぽを向かれるとなると、流石につらい」

I feel so strongly sad because of being rejected with facing directly even from sunflowers, anyway.

(I wanna cry)

偽らざる心境です。

2021/8/20-2

オマケの英語教室+うと Q 世話し

ひまわり二毛作 一毛作目

副題：背を向けたひまわり Sunflowers show their backs

注意書）前作を2部に改題いたしました。



毎日お店に向かう途中に通る墓地公園手前の畑に今年もたくさんのひまわりが咲きました。

ところが今年のひまわりさん達は何故かみなそっぽをして自分に背を向けています。

In this summer, all sunflowers are no facing to me, facing to opposite direction, somehow.

細かく言えば全く同じ場所ではありませんが、見ている方向は去年と同じです。

中にはひまわりには向日性があるから昼にでも行けばこちらを向いているのではないの？

という科学者の方もおられるでしょうが、自分が訪れる限り間違いなくそうなのです。

確かに訪れる時間帯がまだ太陽の位置が低い朝まだきだけ、という事は否めませんが。

最近、外国人従業員がPCR検査の結果、陽性と判断されました。

現在自宅療養中で、当然ながらお店は休業中です。

人の口に戸は立てられません。

もう噂はそれこそ「蔓延」しているでしょう。

自分から記事の中で公開したのだからと申される方もいるとは存知ですが、後で一つ又一つと事実が判明するより、始めにいっぺんに事実を開かした方が言われる側にとっても言う側にとっても「それがむしろ better」である事を経験則上知っていたからです。

そうとは思いつつも

「ひまわりさん達にまでそっぽを向かれるとなると、流石につらい」

You are my sunshine, my only sunshine.

You make me happy when sky the gray

But now you are showing your backs to me.

I feel so strongly sad because of being rejected with facing directly even from sunflowers, anyway.

(I wanna cry)

偽らざる心境です。

2021/8/20-3

オマケの英語教室+うと Q 世話し

ひまわり二毛作 二毛作目

副題：太陽型自動追尾パラボラアンテナスタイルレーダー

Automatically catching up parabola style radar



日本語では「ひまわり」

英語では sunflower

英語では花の形が太陽に似ているのでそう命名されたのでしょう。

ところが日本語では花の形が太陽に似ていることのみならず、太陽の形に似たその花が向日性に従って太陽の方角を自動追尾するという特性にまで目が行き、むしろその特性の方に重きを置いた命名がなされたものだと思います。

古（いにしえ）の我が祖先というものはスゴイものだなあとつくづく痛み入ります。

ところでこの差は一体何に由来するのか？を少し考えてみました。

そこで浮かんできたのが

「観察眼（eyes of observation）」

です。

常に対象に目を向け、その中から変化やその兆しを読み取る眼力。

これが世界でも相当レベルな我が国の聖地精巧なる文化を築き上げる基となったのではなかろうかと推測致しました。

ところが現代の我が国。

世界でもトップクラスのスマホ長時間閲覧大国。

電車に乗れば七人掛けのベンチシートに座っている人の内スマホを見ていない人を探すのが困難なくらい入れ替わり立ち替わり座るどの組もスマホ、スマホ、スマホ。

是では当然観察眼の持ちようがありません。

観察眼の持ちようがないので、これまた当然周りの変化やその兆しに気づく訳がありません。

気づきやひらめきが訪れるはずもありません。

となればコペルニクス的大転換を生むような発明発見など有りよう筈がありません。

出来てせいぜいスマホ画面内に表示される内容の改善か革新に止まってしまいます。

確かにスマホは便利で有用です。

しかしそれは使いこなして初めて言うべきことで、それに飲み込まれてしまったのでは、最早我が国においてはコペルニクス的大転換をなすような発明発見は遠い過去の遺物となっているのかもしれない。

Observation brings imagination and after it, imagination brings creation and innovation,
I think.

2021/8/22-2

オマケの英語教室

photo taking



自分の趣味はカメラです。

我が国でそう言えば写真撮影の事だと理解されますが、外国の人は camera machine 即ち機械としてのカメラを想像するみたいで、上述の書き方だとカメラの分解、掃除、調整等カメラいじりと捉えてしまうようです。

もし写真撮影が趣味なら photo taking とか taking photo とか言った方が間違いなさそうです。

ですがこの写真撮影に当たる英語も 50 年前に自分が海外文通をしていた頃は taking a picture といっておりました。

こういった表現も時代の流れと共に変わっていくようです。

又、英語文化圏、即ち文法的に言うと S.V.O.C（主語＋動詞＋目的語＋補語）文化圏の人の場合は V.O の語順に倣って taking photo という人が多く、我が店の外国人従業員の母国ネパールの様に、我が国同様 S.O.C.V（主語＋目的語＋補語＋動詞（述語）語順の文化圏の人は photo taking を使う場合が多いようです。

更に photo taking の場合には言い方はそれだけのようですが、上の例の taking photo の場合には、ある人は taking photo といい、ある人は taking a photo 又は taking photos と言いは人によってまちまちなような気がします。

要するに何が言いたいのかと申しますと、受験英語では答えは一つで他は全部×なのですが、現実の英会話の中ではそんなことはなく結構融通が利くということです。

この差は何に由来するのかと申しますと、現実の英会話の中では

「まず相手を理解しよう」

というのが何よりも第一優先なのに対して、受験英語では

「まずあらを探そう」

というのが第一優先になっているという事に由来しているようです。

言ってみれば上の英語が

「民間外交（友好）」

であるのに対して下の英語は

「政府間外交交渉（駆け引き）」

とでも申しましょうか。

そう考えると我が国の英語教育は

「国民全てを外交官（駆け引き専門家）に仕立てるが如きマニアックでトリッキーなスキル推奨教育姿勢」

と言っ言えなくもなさそうです。

是は教育全般に言えることですが、教育方法やその評価法が余りに厳密で細かすぎるとその思考態度や相手に対する評価基準、或いは又それに基づく相手への接し方が「極めて厳しく硬直的で寛大さの欠けたものなり、同質性の線引きや囲い込みばかりがはびこり、ひいては爪弾きや仲間はずれ、いじめや村八分の決定的な遠因」にもなりかねないような気がして深く危惧しております。

追記)

以前にも似たようなことを書きましたが、ますますその感を強くしておりますので、くだい事を承知の上で再度述べさせて戴きました。

2021/8/23

書直し オマケの英語教室

broadcast



Broadcast は「放送」という意味です。

BBC といえば British Broad Casting（英国放送（協会）の略です

「もうちょっとブロードでいいんじゃない？」

時々こんな会話を耳にしますが「ブロード」の部分の意味は「おおまか、縛りをキツくしない」等でしょうか。

一方キャストやキャスティングの方は「配役」

キャスターで有れば「司会役」です。

他には Dai was cast で「賽（サイコロ）は投げられた」とか。

共通しているイメージは「或ポイントに投げ込む」つまりキャストやキャスティング、キャスターであれば「適役」という感じで、Dai was cast であれば「時至りて投げられし」と言った具合です。

そうなると Broad Cast(Casting)というのは元々矛盾する概念の結びつきと言うことになりそうです。

「おおまかにピンポイントで的確に投げ込むもの」

なんか妙な日本語でしょう？

我が国国民は自分が使う場合は別として人がこの様な相矛盾した玉虫色の物言いをした場合、それを極度に嫌い責め立てます

推察するにその性向は、我が国国民感情の再基底部に存する「隅々に至るまで精緻に一貫した様式美への希求」に依るところのような気がします。

お役所の書式。教育の方法論。会社組織の縦割りの一貫性。そして放送での各局キャスト、キャスティング、キャスターのスタイルの異質性排除、将に様式化。

それは思うにお上が求めているというよりも、お上は我々国民全体が無意識に強いている「そのニーズ」を体現化しているだけのような気がします。

恐らく我々は何かを思考するに当たってまず様式化しない事には思考を始められない様な気がします。

そうしてその次は様式美の追求。

様式美のレベル追求。

果てはそれが最高になっていないと、全ては無意味と見做され消去又は排除されてしまう。

確かに様式無しで考えるのは大変難しいのでそれはそれであってもいいのですが、せめて最高峰以外は認めないとか意味がないと切捨てずに認めてあげてもいいのではないかなあと思うのです。

そして次には様式としては未完或いは様式の体を為していなかったとしても、それが人々に感動、感銘、納得を与えるものであるならば

「その手も有るな」

位のおおらかさ、緩やかさ、いい意味での大まかさがあってもいいのではないかとも思うのです。

むしろ意識的にそうもしない限り今の我が国の「細部に至るまで矛盾なく精緻な一貫性の様式美呪縛」で身動きがとれなくなっている「息苦しくなる様な逼塞、逼閉状況」からは抜け出せないのではないのでしょうか。

Broadcast というのは何も「放送」という意味だけではなく、

「世の中何が役に立つか分からないので無駄を覚悟で敢えて広範囲に投網すること。

又は初めから敷居を高くして切り捨てるのではなく、初めのハードルは低くしてなるだけ多くを受け入れ最後は広範な中から出る、よりよい結果を待つこと」

我が国現代版用にそういう意味があってもいい様な気も致しております。

2021/9/4-3

オマケの英語教室

once more again, the word "charming"



以前にも題材に致しましたが、今日も又その charming.

Charming の邦訳は「チャーミング」

どうやらピタリと合う言葉が見つからなかったようです。

しかし、それでも無理矢理訳すとなると一般的には「かわいい」と言うのが多いようですが、

自分はこれに

「お茶目な」

と言う訳語を当てております。

多分 charming を日本語で書いた「チャーミング」の「チャ」を見て「茶」を連想したのだと思います。

話は変わりますが、自分が今まであった女性の中でこの「チャーミングさ」を感じた人は二人おりました。

いずれも若い人ではありませんでしたし、日本人だけでもありませんでした。

なので「かわいい娘さん」ではなく「茶目っ気のある女性」と言うことになります。

それではこの二人の何にお茶目を感じたかというと、

まず、反応が早いこと

次に、その反応がどんな小さな事にも必ず毎回かえってくること

更に、そのリアクションに作為を感じられないこと

そうして最後に、その仕草や表情が「なんとも言えない」こと。

なんとも言えない「お得感（得した気分になれる）」が感じられること。

言い方を変えると

「大人なのにこんなに無邪気な奴がいるんだあ」

でしょうか。

思わず微笑んでしまうような、それ。

小刻みにアタマを横に振って、一言言う言葉

「参るわあ」

上述の「無邪気」というのは書いて字の如く「邪気が無い」事。

邪気とは「裏」の事で「裏が無い」と言うことでしょう。

言い換えれば「(掛け値無しの)そのまんま」

ですので、誤解を恐れなければ

You are so, so, charming!!

と言ったら邦訳は

「おまえ、ほんまに、そのまんまなんやなあ@@;」

とでも。

因みに調べてみたところ「茶目」は全部当て字の様で「目」は「女（め）＝女性」と分かったが「茶」の方はいまひとつ何のことだか判然としませんでした。

そこで推論。

ずいずいずっころばし胡麻味噌ずい。茶壺に追われてトッピンしゃん。抜けたらドンドコしょ、に出てくる「茶壺」の「茶」

と

「茶々を入れる」の「茶々」から連想して

「いたずらっばい」

を当てはめてみました。

となると「お茶目な女性」は

「いたずらっばい（処のある）女子」

と言うことに。

一応それらしい訳語を 2, 3 お示し申し上げましたが、いずれにせよこの charming の邦訳は相当に難しい訳業のようです。

なかなか「これだっ」と言うのに当たりませんでした。

ですので、巡り巡っての話ですが、最後は無難な処でやはり charming の邦訳は「チャームングな」に止めておいた方がいいのかもしれないね。

注)

写真は NTV ドラマ「前略お袋様」から借用させて戴きました。

2021/9/5-1

オマケの英語教室

catfish 1



なりすましの事を英語では catfish といいます。

正式には、ジャストな英語として spoofing(動名詞形)等を使うらしいのですが覚え易いので catfish だけ覚えていきます。

なりすましと言えば我が国では「fishing」詐欺が有名です。

自分も何回か遭った事があります。

特にこの時節柄、直近1年間で13万円やられた痛手は相当なものでした。

手口としてはアマゾンや楽天市場など有名通販サイトになりすまして誘導し顧客情報を盗み取るというもので見た目はまるで本物そっくり。見分けるのが大変難しいのです。

此处で上記の文章を見返すと fishing だの catfish だの「魚」又は「釣り」の用語が多く出ていることに気づきます。

因みにフィッシング詐欺の「フィッシング」に当たるスペルは正式には phishing なのだそうで、これは sophisticated (洗練された) の phi と fishing の合成語、なのだそうです。

ですが元々のスペルは矢張り fishing (釣り又は釣り上げる事) であるのに変わりはありません。

一方 Catfish というのはナマズの事で、何故ナマズ事を catfish と名付けたのかというとナマズの髭が猫の髭の様に長かったかららしいです。

fishing は「カモ」を騙して釣り上げると言う事から命名されたい事は想像に難くないのですが、次の catfish(ナマズ)が何でなりすましを表す事になったのかは疑問でした。

敢えて申せば、なりすましを紛らわしさとすれば命名に猫の髭との共通点等「紛らわしい理由」を持ってきたからかもしれません。

ですが、その頃 catfish がナマズを意味する単語である事を自分は知りませんでした。

なのに、自分がなりすましの英訳として catfish を真っ先に覚えたのは何故か？

それは子供の頃よく見たアメリカの TV アニメ「トムとジェリー」からの連想が働いたからです。

主題歌は

「トムとジェリー、仲良く喧嘩しな。トムトム、ニャーゴ、ジェリージェリージェリー、チュウ。ネズミが猫に噛みついた、「あべこべだ」猫叩き」
というものだったと思います。

思い出した折、注目したのが「あべこべ」という歌詞。

というのも、猫がネズミを捕るためにネズミになりすますのであったなら修飾、被修飾の関係は「魚になりすました猫」の意味で語順が fish-cat になるのが妥当だと思っていたのですが実際には catfish と反転していたのに不思議を覚えて、あれこれ考えている内に catfish を「なりすましを表す単語」として自然に覚えてしまったのです。

その時の語順逆転の納得理由としては「その方が言い易いからだろう」と言う事と「歌詞にあべこべという言葉が出てきたから」という極めていい加減なものを根拠に致しました。

こうして見ると英単語を覚えるには何も考えず直ぐに頭に叩き込むより遠回りなるかもしれませんが

「自分史の中でイメージや連想の拡がり易いものを切り口にしたり、それを元に種々類推したりするのも源流探索隊みたいで面白そうだし頭にも入り易そうだ」

そんな気がしております。

追記)

何故なりすましの英単語に魚、釣り関係が多いのか？

それだけ未だ解りません。

(続く)

2021/9/5-2

オマケの英語教室

catfish 2



前の記事の宿題の答え探しです。

「何故なりすましの英単語に魚、釣り関係が多いのか？

あの後、色々考えてみたのですが以下のようなことしか思いつきませんでした。

曰く

日本語で言うところの「闇鍋（やみなべ）」の英語圏イメージが「釣りと魚」ではないのかなと。

どういうことかと申しますと、

そもそも「闇鍋」とはその中に何が入っているか解らない鍋の事です。

何をつまみ上げるか？解らない。

つまみ上げた物が何であるか？も解らない鍋。

そのイメージを釣りと魚、特にナマズに当て填めてみると

釣りとはそもそも水面下の見えない不特定多数の相手に糸を垂れて引っ張り上げる行為です。

一方水面下には「魚なんだか、両生類なんだか、水生植物なんだか、はたまた水生動物なんだかよく分からない」生き物たちが蠢いています。

例えばナマズやサンショウウオ、カモノハシやタツノオトシゴ、イソギンチャクやウミヘビなど。

要するに釣る方も何が釣れるか解らない。釣られる方もいま一つ線引きが判然とせず、言ってみれば「水生コウモリ属」のオンパレードみたいなもの。

この状態はまさしく

「闇鍋」

日本語ほど語彙が豊富でない英語圏では、日本語で言うこの一言に置き換えて「釣り」と魚」の一群を持ち出したのかもしれないと言う見立てで御座います。

見立ての自信は全く御座いませんが、当たらずとも遠からず位なのかもしれません。

最後は打って変わってのお話し。

以下は、自分が抱いた全くの感想なのですが、自分がこういった解釈をしたのは、どうも今（こん）コロナ禍渦中での見聞や実体験から

「この世は将しく闇（意識：chaos）だ」

という認識が生まれたからなのかもしれません。

実感としては何でもありのグジュグジュみたいな感じがしておりますから。

注記 1)

上記使用表現の「コウモリ」は

「鳥仲間に行けばお前は獣仲間だといわれ、獣仲間のところに行けばお前は鳥仲間だといわれる」故事からの連想イメージで使わせて戴きました。

注記 2)

写真は「真っ黒画像」の誤掲載ではありません。

（おしまい）

2021/9/12

オマケの英語教室

-rror



Terror (テロ) Horror (ホラー) Mirror (鏡) Error (エラー)

こう並べてみますと、最後に「-rror」が付くのは余り「宜しくない」事を表す言葉が多い様です。

「んっ？mirror (鏡) が何で？」

と思われたかもしれませんが、これは昔、鏡に姿を映すと「魂を吸い取られる」と信じられていて「不吉」や「悪魔」と隣り合わせの語だったからです。

それでは

Terror から

Terror は(térə: 恐怖)の意味です。

派生語として形容詞の terrible があります。

Oh, it's so terrible

で「お～、怖ろしい!!」「なんて酷い事を!!」になります。

昨日は9月11日で20年前のこの日、アメリカでハイジャックされた旅客機二機が高層ビルに突っ込む大惨劇が。

あの時もそこかしこでこの言葉が発せられていたかもしれません・

次に、horror (ぞっとするような) と mirror (鏡) ですが、この2語についてはワンセットの或エピソードがあります。

それは後程お話するとして、次に

Horror

Horror movie (ホラー映画)

その中でも見るもおぞましい物を splutter movie と呼びます。

Splutter は「びちゃびちゃ」とか「ぴちゃぴちゃ」の音を意味します。

これ以上書くのは嫌なので此処で止めておきます。ご想像にお任せ致します。

ところで、上で予告致しましたエピソードですが、実は自分の高校時代、哲学と言えばヘーゲルの「弁証法」

文学と言えばドストエフスキーの「罪と罰」

心理学と言えばユングの「夢判断」かクレッチマーの「体格と性格」

社会学と言えばマックスウェーバーの「プロテスタンティズムの社会倫理と資本主義」

等にいそしむ日々を送っていたのですが、そんな或日、どう考えても自分より大人である弟が、与謝野晶子の

「柔肌の熱き血潮に触れもみで、寂しからずや道を説く君」

とでも言いたかったのか、

「なあ、兄貴、これ知ってる？」

と言ってラジカセで聞かせてくれたのが以下の2曲でした。

ひとつは、ルイアームストロング似の声のトイレの実況ブルースで

「♪Oh, Oh, Oh

Oh my god!!

Uh, Ah, Wooooow!!

Buchu-chu-chu-chu~

Buchu-chu-chu-chu~

Splash, splash, splash out,

Buchu-chu-chu-chu~

Oh, Oh, Oh

Dynamite!!

Oh, have done!!

Oh so, so feel good!!

Feel good!!,

Hyyyyuu!!

I Feel Good!!♪」

という歌詞でその中に出てくる splash が「飛び散る」の意味なのですが、そこから連音して splutter 「びちゃびちゃ」と horror 「ぞっとするような」を覚えました。

又それに続いて一緒にラジカセで流れた曲の一つが「水鏡」

「♪紀伊國屋文左衛門

大金持ち、大旦那

女の子好き、夜遊び好き

元禄花見酒

うなじ艶めくお女中を

座敷に集めて膝枕

おーッ

いんぐり、もんぐり

酒池肉林、肉布団〜♪」

是は英語に関係なく、とても面白かったので50年の歳月を経て未だに覚えております。

では、最後に

Error (エラー)

是については新入社員の頃、会社の友達から

軟式野球大会で9回2アウト、あと一人で全国大会行きという時、サードだったその友達がトンネルをした為に全国大会に行き損ねたそうで。

「だから俺の髪の毛を剃ると今でもエラーのエの字が出てくる」

と言っていたのを思い出す、と言うお話し。

この友達は数年前に癌で亡くなりました。

誠に惜しい。

これも

It` so so terrible

かもしれませぬ。

2021/9/13-3

オマケの英語教室

Drum and “ONAKA”



首は neck、腕は arm、背中は back、お尻は hip、脚は leg、足は foot。

で、英語で「おなか」は？というとも直ぐに思い浮かびません。

仕方が無いので外国員従業員に言うときは、

例えば

「おなか痛いの？」

なら

Do you have(hold) stomachache? (胃痛をかかえているの?)

と敢えて胃に特定して訊いたり

お店の中休みにおなかを出して寝ていたりすると

「おなかなんか出して寝とうやないで」

というのを

Cover your body with blanket. (毛布でおなかをかくせ)

Body という言葉で代用したりしています。

日本語で「ボディー」と言えば身体全体を指すのですが、他に単語が思い浮かばないので、やむなく body という英単語をつかっております。

しかし

「腹も身のうち」

を訳すとなると

Body is (contained, included, located) inside body.

と妙な英訳になってしまいます。

そもそも英語には「おなか」という概念がないのでしょうか？

胃 stomach、肝臓 lever、肺 lung 等臓器毎になっているのでしょうか？

しかし腑分け（解剖）が始まる前には臓器別の認識など無かったはずですから「おなか」に当たる語があってもいいはずです。

（余談ですが日本語では内臓のことを「臓物（ぞうもつ）」ヒステリーのことを「臓騒（ぞうそう）」といいます。臓物が騒ぐと言う意味です。

ハイ、完全なる余談でした。失礼）

あと、隣接した疑問として「内科」というのはなんと言えればいいのか？

因みに自分が5年前に受けた外科手術は surgery operation と言いますが内科検診と言う場合の「内科」に当たる巧い言葉がなかなか見つかりません。

「そんなの辞書で引けばいいだろうに」

とおっしゃる方もいらっしゃると思いますが、余り専門用語を覚える気はないのです。特に英語が得意ではない当店の外国人従業員のことを考えると、分かる英訳が必要になるからです。うちでは正しい英語だけ知っていても十分ではないのです。

さて、どうしたものか。

仕方が無いので、まず内科検診については

Around here body inside check(exam)

つまり（おなかの辺りを指でさしつつ）

「この辺りのボディーの中のチェックだ」

と言うことにしました。

しかしやはりおなかの言い方が分かりません。

そこで考えに考えた末の一計として、

Central area of front body, we say “ONAKA” in Japanese language. Memorize it.

「身体前半分の真ん中の部分を、日本語で「おなか」っていうのや。覚えときい」

としました。

しかし、前置きが長過ぎますし、どうせ直ぐに忘れるに決まっています。

それで更に考えて

Front body drum

を思いつきました。

もっと短く

Body drum

でもいいかもしれません。

直訳は「身体の円柱（部分）」

そして指さしつつ around here.

今日は定休日なので明日外国人従業員に試してみることにします。

分かるかどうか。

余談)

因みにドラム缶は形が円柱(drum)なのでドラム缶(drum can)

太鼓(ドラム)は外形が円柱なのでドラム(drum)そしてそれを奏するひとをドラマー(drummer)というわけです。

「おいらはドラマー、なんとかのドラマー」

と言う歌詞の石原裕次郎の歌で知られる、あのドラマーです。

お粗末。

2021/9/14-1

オマケの英語教室

foreigners



「ワタシ ガイコクジン デス」

主に欧米系の外国の人が日本人受けを狙って片言の日本語でそういうのは耳にしたことはあります。

しかし英語ベースの会話で

I'm foreigner (私は外国人です)

と自ら切り出すのを見たり耳にしたりしたことは未だかつて一度もありません。

大抵は自分の国の名前を言います。

I'm Nepali (私はネパール人です) とか I'm Indian (私はインド人です) とか言う具合に。

しかし、よく考えてみれば「外国人」の側から「自分はこの国以外の人間（よそ者）です」という筈がありません。それはある意味自分から「私は侵入者です」と言っているようなものだからです。

そういえば我が国では、例えば

北海道のひとが青森以南を指して「内地」

といったり

沖縄のひとが自分たちをさして「うちなんちゅう」

といったり

他にも「よそ者」ちょっと古くて「外様（とざま）」「異人」「異邦人」そして「外国人」など、内外の切り分け、反対に言うとも囲い込み気質が非常に高い気がいたします。

もっときつい言葉で言えば「排他的な傾向」が根強くある気がします。

なので、これからは成る丈「foreigner」という英単語は使わないようにしようとおもっております。

それでももし「foreign（形容詞：外国の）」を使うとすれば、それは外国為替取引の時でしょうか。

The deal of Foreign Currency Exchanging.

我が国ではそれに特化してそればかりやる取引を別出しで「FX」とっておりますが、自分の場合はそこまでやるつもりはありません。

何故なら是をやるには相場変動から目が離せず、一日中モニターディスプレイと睨めっこいなくてはならなくなるからです。

同じ処にじっとしているのが嫌いな自分にはとても出来そうにもありませんので。

尚、余談にはなりますが、上に出てきた currency は「通貨」のことで、上記を直訳すれば「外国通貨交換取引」となります。それを「外国為替取引」と言っているわけです。

因みに currency は current（形容詞：現行の）の名詞形です。

つまり「現在流通しているお金＝通貨」と言うことです。

そういえば昔、在る電気会社で働いていた頃、よく「カレントモデル（current model）」と言う言い方が使われておりました。

これを邦訳すれば「現行機種」で、それは「新機種」（New model）に対して使われていた対語でした。

蛇足ではありますが、一応記しておきます。

2021/9/14-2

オマケの英語教室

soul



今回のお題は soul

邦語では「魂」

と言って別に宗教の話では全くありません。

Soul と言えば黒人霊歌？

Soul food と言えば本来は奴隷として連れてこられたアフリカの人達が故郷を思い出して作った郷土料理を指すのですが、今では単に「空気みたいに普段は有り難みを感じないが、無くなると途端に苦しくなる様なご当地郷土料理」として一般名詞化しております。

他には soul を形容詞化したひとつに soulful というのがあります。

Soul (魂) が full (満タン) で soulful

邦訳は「気持ちのこもった」でしょうか。

「魂のこもった」というとなんとなく重すぎて逃げ場がなくなるような印象を与えてしまうので「気持ちのこもった」位にしております。

例題としては

Your advice was so, so soulful.

(あんたの忠告は、ほんま、気持ちのこもったもんやったわ)

とか。

此处で話は少し変わって、これを機に

「そもそも魂とはなんのこっちゃろかいな」

と不思議に思い出しました。

なんとなくは分かるのですが「ならば何？」と言われると説明が難しい。

それで手始めに「魂」という漢字を分解してみることにしました。

曰く

「鬼」と「云う」という字から出来ておりました。

しかし

「鬼が云う」って何を言うのか？

そもそも「鬼」って何の事なのか？

だんだん分らなくなってきました。

我が国で鬼といえば「青鬼赤鬼」や「鬼に金棒」「鬼畜」「鬼面」ちょっと捻って「ナマハゲ」等、角と牙が生え目がつり上がった顔しか思い浮かびません。

西洋で云う「悪魔(devil)」ではないし「ゾンビ」でもない。

しかし「鬼」という言葉の印象からは「猛烈なエネルギー」や「怒り」の様な物を感じる。

さて「鬼」とは何の化身なのか？

それで、自分が抱いたイメージの方を大切に以下のような事を指しているのではないかと推論を立ててみました。

再び、曰く

「整理の付かない（怒りを含んだ）マグマ」

と。

もう少し科学的に申し上げますと

顕在意識（理で整理が付く範囲）と潜在意識（理では整理が付かない範疇）の対比の中の後者、即ち潜在意識の中にある「マグマ」

その「整理が付かないマグマが云う」のが「魂」

イメージしやすく申せば、それこそ

「魂（マグマ）の叫び」

の事なのではないかなと。

なので、心中にせよ叫ばない限りは魂になり得ないのではないのかな？とも思っております。

（追記）

自分は辞書を敢えて引かずに英単語を紹介しております。

識者の方々からは間違いだらけだし、危険で無謀、他の人に悪影響や誤認識を与えかねないと感じてご指摘も受けております。

なのに、それは理解しながらも何故、この様な無謀を冒しているのか？

簡単に申せば

「おとり」か「疑似餌」

みたいなもの。

興味を持って英語に食らいついてほしい

それが目的で、書いております。

「間違い探しクイズのご提供」又はそれこそ「遊園地でのストレス発散、玉当て鬼」
ですので、食らいついた後は、どうぞ「正してください」ませ。オマケの英語教室を「ちゃんとしたもの」になるように。

2021/9/15-1

オマケの英語教室

as a pioneer



子供の頃、こども向けの読物だったか TV 番組だったかは忘れましたが

「(まんが) はじめて物語」

という名前の本を読んだか番組を見た記憶がありました。

何でそんな妙な題名を覚えているのかというと、

例えば言葉だったら

「どうしてこういう(発音の)言葉になったんだろう」

とか

「どういう決め事で他のもの(の発音)と変えたのだろう」

とか、要するに何がきっかけでこういう言葉が生まれ、今のような方向や形に積み上がっていったのだろう？昔のひとは何を目安にして決めたのだろう？一人の大天才が決めたんだろうか？それともみんなで集まって鳩首会談みたいなことをやって決めたんだろうか？等と云うことばかりに興味があって、それをズバリ一言で言ったのがこの題名だったからです。

恐らくこの記憶というか、こういった性向は大人になっても残っていたらしく、会社を辞めて英語を再学習せざるを得なくなった折に、まず考えたのが

「初めて英語を日本語に翻訳したひとは何を手掛かりに、何からとっついて云ったのだろう」

ということでした。

そしてその折、助けになったのが中学校時代に国語の時間に習った杉田玄白が「解体新書（ターヘルアナトミア）」を著すに至ったオランダ語書籍原本の翻訳の経緯を書いた「蘭学事始」でした。

その中には、人体のある部位が「フルヘッヘンドし」というその「フルヘッヘンド」が何を意味するのか分からず、苦勞賛嘆の末に邦語で「うず高く」（少し盛り上がっている）である事を突き止めた話が載っていたことも思い出しました。

「そうか、ならば英語も英訳にせよ和訳にせよ、初めから辞書を引かずに、こんな風に推理仕立ての判じ物風にやったら退屈しないで済むかもしれない」

と思ったのです。

それでその発展形として、特に英訳する場合には、それまで知っていた単語を何とか組み合わせさせて話し始めたのです。

後、更に申し上げますと、自分は大的料理好きなのですが、料理を作るときも最初からレシピには飛びつかないで

「こんな味にしたいけど、これを使えば出来るかな？」

と言う作り方をしていたのも影響したのかもしれませんが。

英語も料理もお手本通りにやるのも悪くはないのですが、自分にはそのやり方は「単なる作業」にしか思えず、面白くもおかしくもなかったので、そのような変則的な覚え方ややり方をしたのだと思います。

勿論ひとには個性や性分、性向がそれぞれありますから、無理強いは致しませんが「こういう始め方もあるんだ」くらいの位置づけにはしておいてほしいものだとは、思っております。

それを、自分好みでかっこよくひとさまにアジるとすれば

Try a translation as a pioneer, sure ok, by your own way.

（開拓者になったつもりで翻訳してみて。もちろんあなた流で OK だから）

2021/9/16-1

オマケの英語教室

summary



辞書を置かない考える英語教室「前座の英語」
も第4集目。

1集平均15本の記事が掲載されておりますが、その中で皆さんが既にご存じの単語が平均4語。

ですので「4集」X「15本の記事」X「1本当たり4語出現」
としますと既に

$4 \times 15 \times 4 = 240$ の単語が出ていた事になります。

本書は敢えて皆さんご存じの単語を選んで使っておりますので、換言すれば皆さんは既に240もの英単語ご存じだと云う事にもなります。

知っているのに使っていない。平たく云えば「宝の持ち腐れ状態」
ですが

「そういった単語を耳にした事はあるがスペルが分からない」
と言う方もいらっしゃるかと思います。

しかし、在日外国人の方は、漢字は書けないけれどその言葉を耳にすれば意味だけは分かる場合が多々あります。

というより殆どがそのパターンです。

当店の外国人従業員は「お客様」という漢字は書けないし、読めませんが「okyakusama」と発音すれば直ぐに意味が分かります。

と言う事は、スペルは書けなくても発音さえ出来れば「英会話の第一要件」は満たしている事になります。即ち「単語でなら話せる」

では次に何を満たせば第二 step に移行できるか？と申しますと今度は「語順」です。

突然「語順」と云われても…という方もおられるかと思います。

なので、こういう話から入ろうと思います。

「日本語は誰が話しているのか（主語）が分からない場合もあるし、結論である（述語）が一番後に出てくる言葉の並び、即ち語順になっている。そうしてその間にてんこ盛りでいろんな話がくつつくのが日本語。場合によっては結論、即ち述語がない場合すら在るのが日本語」

それに対して

「英語は誰が話しているか（主語）がはっきりしており、結論、即ち述語（動詞）がその主語の直ぐ後に来るのが一般的は言葉の並びになっていて、話が割合と明確になる様に出てくるのが英語」

そうしてその後

「誰（何）に、へ、等という（目的語）が続き、更にその後に、その誰や何が、する事やその状態がどうであるかを補う（説明する）言葉である（補語）が来るのが英語の言葉の並び即ち（語順）になります」

と。

是を中学では $S+V+O+C = \text{Subject (主語)} + \text{Verb (述語動詞)} + \text{Object (目的語)} + \text{Complement (補語)}$ と習います。

勿論 $S+V$ や $S+V+O$ だけの文もあります。

因みに日本語は $S+O+C+V$ の語順が一般的です。同じく O や C がない文もあります。

英語と日本語の語順比較の例文を載せておきます。

英語：I know you to love a curry（私は（S）＋知っている（V）＋あなたが（O）＋「カレー」好きなのを（C））

日本語：私は（S）あなたが（O）「カレー」好きなのを（C）知っている（V））

まずはここ迄理解する事で細かい事を抜きすれば誰でも「相当」英語が話せる様になります。

そして大切なのはむしろ発音です。

流暢である必要はありませんが、

日本語風で話す時も一例で「カレー」ではなく英語発音の「カリー」と言うのを心掛けるといいかと思えます。

以上まとめ(summary)でした。

第5集

2021/9/19

オマケの英語教室

Then for what?



「いい加減だ」「文法的にいかがなものか」「少し無責任ではないか」というご意見が後を絶たないのですが反論する積りは全くありません。本シリーズは実際に現場で起きている事を書いた書物です。現場では文法的に正しくない事やいい加減な事が頻繁に起こっております。それを現場に居合わせない方々にとってもある程度普遍的で分かり易い様にアレンジして書いている書物です。

「正しい英語」の書物かと言われれば「No」でその基準からすれば失格でしょう。では何の書物であればそうはならないのかと云えば、

「最終目的を正しい英語ではなく円滑なコミュニケーションに置いている」とすれば少しは意味があるのかなと思っております。

冒頭で「反論はしない」と申し上げましたが、そういう意味では最後の「無責任」だけは当たっていない気がします。

もし今後もお読み戴けるのであれば本書は

「初めて外国語に接した現場の苦労物語」

少し箔を付けて云えば「解体新書」を著すに当たってオランダ語と格闘した杉田玄白の伝を借りて

「蘭学事始」風「満足な辞書など元々無く考えるしかなかった頃を模した英語教室」

とでも申しましょうか。

話がそれてしまいました。

基。

ところで我が国の子供達は鼻から「正しい英語」だけを「教わり」ます。

一方外国のろくすっぽ学校にも行けない様な子供達は正しいか正しくないかは二の次にして「通じる英語」を「獲得」していきます。

そして此処が一番違うのですが

「それを試す場」が我が国では「教室」外国の子供達は「生活」の中という違いです。

もう一つ付け加えるとすれば

我が国では「その場限りの一回だけ」なのに対して外国の子供達は「試行錯誤しながら通じる迄何回でも」という差です。

そう考えると「初めから正解だけ教わる」というのは

「最も頭を使わない」「経験も積み上がらない」一番損なやり方の様な気がします。

現場では

「正しい英語を喋れないお前達が悪い。正しい英語を覚えてこい」

では話が終わってしまいます。

「俺達は英語を習いに来たんじゃない。カリーを作りに来たんだ」

勿論口には出ませんが腹の中でそう思われるだけで私共のカリーレストランは空中分解してしまうだけなのです。

お客様にもいいサービスを提供できなくなるだけなのです。

英語というのは「目的ではなく手段、道具」です。

ましてや「正しい英語」というのはその中のほんの一基準でしか在りません。

「正しい」のが有効なのは「それが一番通じる」という前提が在っての話です。

そうでなければ「正しい」は有効ではなくなります。

まずそこから考える必要がありそうな気がします。・

では英語や語学のそもそもの目的は何だったのか？

それは、

「円滑なコミュニケーション」

この目的と手段のはき違えがあってはならないと思います。

Language is merely one of tools.

Then for what?

For good communication.

That`s all

追記)

そうなれば英語は暗記学科ではなく試行錯誤学科になるでしょう。

2021/9/19-2

オマケの英語教室

Wanted, English speakers!!



今日はちょっと「イジワルの虫」が。

「あの人は英語が出来る」

と言った場合の評価者、評定者は誰なのか？

観察してみると、学校や塾の先生又は TOEIC や TOEFL、英検の採点者さん達であろうという推測が成り立ちます。

判断基準は点数。

次に巷では誰が評価者、評定者なのか？

是も観察の結果、巷の「噂雀さん達」である事が推察されます。

例えば

「あの人 TOEFL ほぼ満点で、●●物産に一発で入ったって」

とか

「あいつ、英単語 3000 知ってるんだって。外資系も OK だよな」

とか、要するにこれまた基準は数字で、しかも

「英語で如何に得をしたか」

がメインテーマのようです。

ところが持ち上げられた「ご当人」が実際に話したりしゃべったりしている現場に居合わせた人は殆どいないのが大半の事例。

点数、数字、お徳感それに強いて言えば「成績表」か「お免状」

こういう評価法を採用してその発想に縛られている限り、我が国が「多くの人が英語を話す国」になることはほぼ半永久的に不可能でしょう。

一方欧米系在日外国人さんが上述の「方々」に対してこんなことを言っているのを耳にしたことがあります。

「お行儀はいい。文法もあっている。でも、何故か疲れる。いつまで経っても打ち解けないから」

とか

「余りに捻りすぎて (tricky)、元々何の話だったか分からなくなることがしばしばある」

更には

「何も始めないうちからもう終わっている。What, what, what?」

等。

そして最後に

「一体何処に行けば普通の English speaker (英語を話す人) に会えるんだろう。日本語は無理。せめて英語くらいは。不便で仕方ないよな。

Wanted, English speakers!!

Reward, my hug

That`s all.」

(求む、英語を話す人

報奨金、私のハグ

sonだけ)

2021/10/4

オマケの英語教室

picture



当店の壁には絵や写真が飾ってあります。

ひまわりの絵で、子供の水彩画をネットからダウンロード、プリントアウトした物を額に入れて飾りました。

今一つはヒマラヤだけに咲く青いケシの写真です。写真家で青いケシ撮影専門の方から譲り受けて飾った物です。

ところで絵は英語で picture。

絵だけではなく写真も自分が高校時代には今の様に photo と云わずに picture と言っておりました。

例えば「写真を撮る」の英訳なら

Take a picture でした。

そこで、本日はお店の定休日と云う事もあって

「何故絵や写真の事を picture というのか？」

を暇に任せて考えてみました。

まず picture の語幹が -pict であった場合について。

自分が知っている範囲の知識では -pict はコンピュータ画像形式の一種である事位ですがこれは如何にも

「画像形式と言う事で picture から逆に簡略化して名付けられたもの」である気がしたのでまず除外しました。

次に更に短縮化して -pic であった場合についても自分の知っている範囲の知識内で考えてみました。

ですが是も英語というか米語の俗語（スラング）で pic は絵や写真の事なのですが、これ又如何にも picture の短縮形である事が見え見えなので除外。

他には person in charge の頭文字 p, i, c を取った略語で「担当者」を表す事がありますが、是は全くのお門違いそうなので是又除外。

となると一体何から picture と付いたのか？

それで暫く悩んだ末、以下の仮説を立てました。

曰く

「Pick up（ピックアップする＝拾い上げる）から来ているのではないか？」

と。

どういう事かと云えば、pick には元々「選んで取り上げる」という意味やイメージがあるので

「周囲の中から素材を選んで取り上げて描いたり画像にしたりした物」

を pick(up)するもの(-ture)で picture と言う様になったのではないかと云う事です。

ですが此処で申し上げたいのは実はこの仮説の正否では全くなく、本意は

「英単語の語幹を元にその原義を色々考えてみるとイメージ（英訳は image: 将に画（picture）像）が広がって楽しみながら単語を連鎖的に覚えられる」

そして、それにも増してお伝えしたいのが

「英語（単語）というのは（唯一無二の明確な意味）を表すのではなく（むしろ「的確」雁字搦めを避け臨機応変拡大解釈可能なイメージ素材）の提供である」
と言う事。

我が国では教える側が鼻から「日英正対称（100:100）」の逐語訳でなくてはならないと思込んでいますが実は「日英非対称（例 100:20）」が実態。

「英語を訳する際に細部に迄適語分化した言語である日本語を使って正確に訳すのは良い」

が、

「逆にその日本語を正確無比に逐語英訳しようとするのとネイティブさえ初耳のとんでもなくレアな単語迄覚えなくてはならなくなり英語の本質を逃すと共に英語学習で進む方向を誤ってしまい、その学習量で学生を辟易させてしまう」

なら是正策として

「頻度の高い単語に絞ってその原義やイメージをしっかりと抑え、場面に応じて使い回した方が英語の本質にも適し学習効率上も得策」

と言うのが自分の感想で御座います。

2021/10/5

オマケの英語教室

eye



本日白内障の手術日を決めて参りました。両目片方ずつ、二回に分けてです。

実は 1 年半前にも手術を予約したのですが、コロナ禍が激しくなりいったんキャンセルをしました。

それというのも外国人従業員がまだ育っておらず、コロナ禍で重症化しやすい呼吸器系基礎疾患が二つある自分に手術による感染等何かあればお店を運営できなくなる心配があったからです。

それを今回晴れて手術を頼めるようになったのは、自分がいなくても従業員だけでお店を運営できるレベルに彼らが育ってきたからです。

自分の宣伝はさておき、今日のお題は眼科 eye clinic に因んで eye です。

実は今日待合室で順番待ちをしていた時、ふとある事に気づきました。

「英語は表音文字で単なるアルファベットの連なりだが、この eye という字だけは表意文字というか、具体的な物から字を造形した象形文字なのではなかろうか？」

と。

何のことかと申しますと eye の文字の左右の「e」二つが目で「y」が鼻に見えたからです。

詰まり顔の目と鼻にスポットを当てて象形化し、鼻は位置関係を表すだけで、本旨は「e」二つで目を表そうとしたのではなかろうか？と言う訳です。

他の部位、例えば耳 ear、口 mouth、鼻 nose、等はどう考えても象形化されておきませんが、何故か目 eye だけは象形化されていた可能性がある。

しかし何故又？

で、想像したのが古代の外国人（英国か欧州の）にとっても目だけは「特別な存在（位置付け）」だったから、と言うものでした。

Eye catch (目を引く。目に止まる)

Eye contact (目での合図。目配せ)

日本の「目は口ほどに物を言い」という諺を英訳すると

Eye says as much as mouth(saying)

(上記 As the same as より as much as の方がいいような気がしまして)

と実際に云うのかどうかは知りませんが、試してみると恐らく通じるような気がします。

或いはまた

女性が男性の容姿以外に惚れる傾向があるのに対して、男性は洋の東西を問わず女性の容姿に惚れる傾向があることからして、特に男性が言う場合

I love you

は

Eye love you

説明的に申し上げますと

(My eyes love your outlook)

とか。

そんなどうでもいいようなことを考えて居るうちに自分の診察の順番が来たので、お遊びをストップ致しました。

明日は外国人従業員とその家族の第一回目のワクチン接種日。

自分の手術が1年と半。従業員に摂取クーポンが来てから実際に摂取するまで3ヶ月半。

何事も時間が掛かることばかりで御座います。

Eye don't know hidden actual schedule.

(実際の事の運びは目には見えない)

でしょうか。

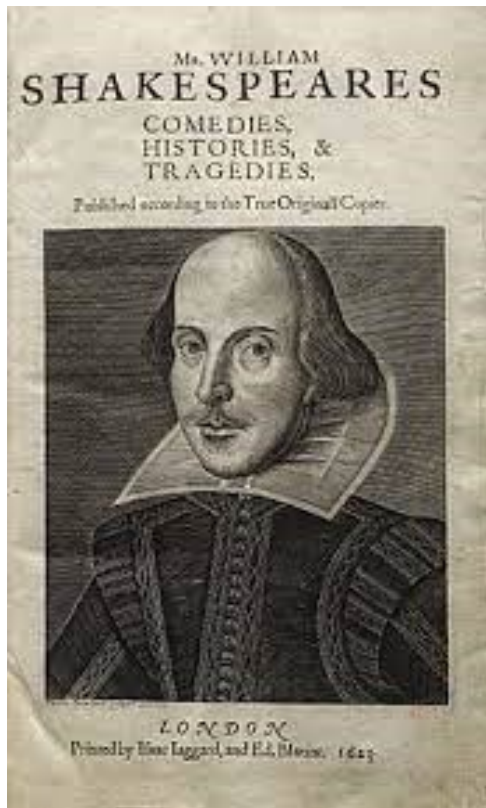
補足)

上述の2つの英文で eye 単数形の後の動詞は、正しくは三人称単数形で「s」が付きますが、語呂合わせのために敢えて「s」を着けずに表記致しました。ご理解くださいませ。

2021/10/6

オマケの英語教室

To be, or not to be. That`s the question



高校生の時、自分が哲学ごっこをしていた折、親父から

「自分の時代に旧制一高の学生で藤村操と言う奴が「この世とは何か」という大難問に直面し、最後には「この世は、曰く不可解」という「巖頭の感」という遺書を残して華嚴の滝から投身自殺をした」

と言う話を聞きました。

親父は「曰く不可解」という前の長い漢文口調の全文を覚えていて何十年も経ったその時でさえ諳んじる（そらんじる）事が出来ましたが、自分は耳にした当時既に最後の部分しか記憶に残りませんでした。

そうして、その話を聞いたときに感じたのは

「そんなことで死ぬ人がいるんだ」

「なんか勿体ない」

でした。

そして少し時間が経った後に抱いた感想は

「遺書を全文漢文口調で書くなんて、ちょっと自分に酔いすぎているよな」

と言う意地の悪いものでした。

続いて同じく高校時代に喜劇も書いたシェークスピアの四大悲劇の一つハムレットを読みました。

その中で

「生きるべきか、死ぬべきか。それが問題だ」

という文章に接して「なんか変だな？」（と思いました。前後の筋と合わない気がしたのです。復讐を果たそうという人間が抱く言葉ではない様な気がしたからです。

それから幾星霜、最近英語に接する機会が増えたこともあって、この

「生きるべきか、死ぬべきか。それが問題だ」

の原語が

To be, or not to be. That`s the question.

である事を知りました。

その原語を見ると上記の訳が完全な誤訳である気がしたのです。

生きるとか、死ぬとか何処にも描いてないじゃないか。問題だとも書かれていない。

単に

「（今の状態が）然るべき状態なのか、そうではないのか。それが（自分の抱えている）疑問だ」

と書いてあるだけではないか。

もっと端折って云えば

「これでいいのか、よくないのか。よく分からない」

或いは

「自分のしている事はまともなのか、まともじゃないのか。悩んでしまう」

是なら復讐劇の中での前後との辻褄が合う気がしました。

それにしても何だって又こんな大袈裟な訳に仕立て上げちまったんだろう？

昨今、外国人と多く接してみると

「そうそう簡単に自殺なんかする奴はいない。大抵は相手を張り倒してでも生きるタイプが多い。「生きるべきか、死ぬべきか」なんて云うはずがない」

このハムレットの和訳にせよ、冒頭の藤村操の「巖頭の感」にせよ、

「我々日本人って、死にたがっているのかな？」

と言う気がしてしまいました。

と言うかやたらと直ぐ死を持ち出したがる。

表面おとなしく見える分、中身は結構「大袈裟な思考をする民族」なのかもしれないなあとふと思ってしまいました。

2021/10/7-2

うと Q 世話し + オマケの英語教室 我々の「困った」 気質

冒頭まずは昨日の記事に関しまして

昨日の記事「オマケの英語教室 To be, or not to be. That`s the question」は文章中に英語があると云う事で余り考えもせず「オマケの英語教室」の方に掲載致しましたが、よく考えてみれば内容は明らかに「うと Q 世話し」ネタだった事に思い当たり上記題名を「うと Q 世話し + オマケの英語教室 To be, or not to be. That`s the question」と改題したものを「うと Q 世話し」の方にも掲載する事に致しました。

又、昨日の記事本文に現出の

To be, or not to be. That`s the question

の邦訳が

「生きるべきか、死ぬべきか。それが問題だ」

であるのは誤訳ではないかと書きましたが、自分が上記邦訳から逆算して英訳するとすれば上記邦文は

To live, or to die. That`s the problem.

となります。

因みに to+動詞が文頭に出てくる場合は「～する事は」とか「～すべきは」という訳が一般的で動名詞でも済む処をこの形式にする事で格調を持たせたり強調効果を上げたりする場合によく使われます。

例えば

Loving is living

でもいいのですが

To love is to live. (愛する事は生きる事である)

とか。

又 problem (問題) と question (疑問) は全く別の事柄です。

After holding a question, it turned (changed) to a problem, I felt.

(疑問を抱いた後、それが問題に変わるのを感じた)

とすればお分かり戴けるかと思います。

前置きが長くなりました。

ではここから本日のお題。

昨日の記事の中で我々日本人の気質について少し触れましたがその続きです。

自らを省みるに、どうも我々日本人は様式美や想定内の籐（たが）に縛られ易い傾向がある様な気がします。

時にはそれが悪さをして事実認識を誤らせるケースを何回か体験しました。

事実より期待値を優先してしまうせいです。

云ってみれば美味しい事だけを言って請け合い大衆を誘導する「ポピュリズム」に嵌まり易い自らの体質とでも申しましょうか。

こう書くと話が少しややこしくなってきますので今少し卑近な例でご説明致しますと、テレビ番組中の「やらせ」

の例です。

一時此れ等は某国営放送、民放に限らず叩かれましたが、この「やらせ」を「演出」という言葉に置き換えてみますと実はテレビ番組というのは「やらせ」の塊みたいなものだと言う事が分かってきました。

「この方が視聴者に分かり易いですから」

とか

「この方が見栄えがしますからこのポーズで」

とか。

此れ等は「やらせ」とは云わず「演出」と云っている事は既に申し上げましたが要するに事実伝達よりも「見栄え」や「受け」狙い優先であると云う事に違いはありません。

「視聴者に分かり易くする為」はその実「視聴者の想定内に収める」為や「視聴者の期待値に応える」為の置き換えやすすり替えでしか在りません。

無論是はテレビ局も悪いのですが、過度の様式美や想定内の籐（たが）を抱きすぎ、一方的な期待値の実現ばかりを求める我々にも原因があるような気がします。

自分を含めて「我々の困った気質」の様な気がしております。

2021/10/11

オマケの英語教室

Arctic hunter



今朝ふとバックパック(backpack)中を見ると”arctic hunter”と書いてありました。恐らくブランド名でしょう。

「何とかのハンター」

何とかの、と書いたのは意味が分からなかったからです。

それでまたぞろ謎解きゲームを始めました。

Arc は円弧。何故なら arcade(アーケード)が円弧形の屋根を指すのであろう事を知っていたからです

因みにアーケードとは川崎駅前や高円寺駅前の商店街等に見られる商店街に挟まれた通りを雨に濡れずに買い物客がショッピング出来るよう差し渡した円弧形の屋根を指します。

それと arcade の後半の-ade はプロムナード(promenade＝遊歩道)に見られる様にどうやら「道」や「通り」を指しているようですし。

でも

「円弧形のハンターって何のこっちゃ？」

それで又考え始めました。

Arc の ar-は art (芸術、芸) やそこから派生した artificial (人工の、例えば artificial intelligence は人工知能です) の語幹-art に近い。

太古の人は、直線ではなく円弧形を描いたり円弧形を使った道具を生み出したりする様になった時、それを art (芸術) と認識し、又自然には無い、人間だからこそ作れる物として artificial (人工の) の概念を得たのかもしれない。

と、話が脇道に逸れてしまいました。

そこで一反整理をしてみようと

円弧形、又は芸術、或いは人工の「ハンター」

と並べてはみましたが整理が付かず、却って益々分からなくなっていました。

そこでちょっと俯瞰する意味で

「そもそも円弧形だの芸術、人工なんかの抽象的な文言の arctic に極めて具象的な hunter なんていう文言が何故カップリングしているんだ？

バックパックもハンターも極めて具象的なのに、そんな抽象的なネーミングを組み合わせる筈がなかろう。だとすれば arctic は何か具体的な物の名前じゃないとおかしい」

それで今度はバックパックの属性について考えてみました。

曰く「軽量、コンパクト、丈夫、防水防滴、自然の悪条件対応」

是でハンターと結びつき易いのは何か？

しかしどれもこれも狩りに行くにはマストのような気がします。どれ一つとして落とせない。

そこで再び視点を変えて

「そもそもこのネーミングをした人は何をイメージして arctic と着けたのか？」

を考えてみる事にしました。

ハンター、狩人、マタギ。

んっ、マタギ？

そのマタギ迄来てふとイメージしたのが

「マタギは獲物取る迄何日も山の中を彷徨よい歩く。雨が降ろうが雪が降ろうが道があるうがなかろうが」

でした。

(注：以下は多少フィクションです)

そして雨と雪。豪雨と豪雪。地球温暖化。と進んで

「その最前線は？」

北極と南極、グリーンランド。

しかし北極は north pole で南極は Antarctic。グリーンランドは Greenland

「んっ？南極の英単語 Antarctic の中に -arc がある!!」

しかし接頭辞の ant は何を指しているのか？

ant 蟻？ant 叔母さん？

な訳はない。

又々沈思黙考。

そして長考の末、指した手が

ひょっとして ant が anti (逆らう、逆の) の短縮形なら

X 極の反対が Antarctic (anti-arctic) 南極

ならその元の X は北極。

で

「Arctic Hunter は北極の地のハンター＝極寒の狩人」

ほんまかいな？

2021/10/11-2

オマケの英語教室

loneliness



前の記事のお題の中に出てきた語、Arc（円弧、円弧の）からある事を思い出しました。

それは孤独。英語では loneliness.

形容詞が lonely.

俺は一人だと言うときは

I'm alone.

しかし英語の孤独を表す語の中に arc（円弧、円弧の）などと云う文字は何処にも出てきません。

なのに、何故 arc から孤独（日本語:Kodoku）を連想したのか？

実は以前、自分は日本語で以下の様な意味の記事を書きました。

「孤独とは自分の前に弧を描き、その中から出ようとせず、その中に誰も入れようとしな
いで独りを感じることである。全ては自分でも設けた弧に由来している。人のせいではな
い。

何故なら自分の前に円弧を描いたのは、他ならぬあなた自身、なのだから」

と。

その「孤独」という日本語の漢字の「弧」の一文字を見て円弧 arc を思い出したのです。

Kodoku in Japanese language means Loneliness in English.

“Ko” in this word means “Arc(line)”

“-doku” in this word means “the one is alone”

Then if I reconstruct this Japanese word to English expression below like this,

Loneliness is the same as

You draw the arc line in front of you by yourself own.

You will not want to go out from it, and you will not want to allow other anyone to enter it.

Then you feel and say “lonely”

But it`s not from others, but from yourself own.

Because the one who drew the arc line in front of you, it`s just yourself own.

を思い出したからです。

2021/10/13

うと Q 世話し + オマケの英語

Media

外は雨。

今日も今日とて又言葉の謎解きゲームです。

「あんたも暇ねえ」

とおっしゃらずにどうかお付き合いの程を。

英単語で且つ殆ど日本語化している Media (メディア) は外来語ではなく純然たる邦訳では「媒体」と訳されます。

それはそういうもんだとしてそのまま覚えてしまえばどうと云う事はないのですが、自分の感覚ではどう考えても media という語の中に「媒体」という日本語に当たるものが感じられなかったので、そもそも media の原義は何だったのかを考えてみました。

まず例によって語幹の引き出してみました。それで語幹は medi-。

Medium (ミディアム) 肉料理の中くらいの焼き方の呼称。

Median (メジアン) 統計学やマーケティングで使われる「中央値」の呼称。

Meditation (メディテーション) 最近はやりの「瞑想」の呼称。

自分が知っている英単語の medi-はこのくらいでした。

サンプル数は少ないですが、以上を通見して得られる共通項は「中 (なか)」又は「中くらいの」それと「中央」で共通項は「中」となりますでしょうか。

最後の「瞑想」がなんで「中」か、と問われれば自分なりの解釈では「瞑」の具体的中身が「頭中想」「心中想」「眼中想」だと思われたからです。なので、此处での共通項も「中」

であるとすれば media の原義は「中」が源流にある事になります。

そこでまず前者の「中」を media に宛がってみると「媒体」は「イ (にんべん)」が付きますが「仲介役」の方がぴったりの訳語の様な気がしてきました。

発信者 A の言説や映像を視聴者 B に「差し渡すなかもち役」という意味です。

しかし「中」をよりブレイクダウンした「中 (なか)」や「中くらいの」又は「中央」を宛がってみても今ひとつしっくりこないと申しますか、薄ぼんやりしていてすっきりしません。

何のなか？

何が中くらいなの？

何の中央 (まんなか) ？

と言う訳です。

それで次には上記の「中」をそれぞれ別の日本語に置き換えてみる事にしました。

曰く

「なか」は「中身」「真意」

「中くらい」は「大多数」又は「一般的な」

そして最後の「中央」は「王道」「本流」

此処で、以前自分の記事の中で話題にした「中庸」という言葉を思い出しました。

中庸の原義は我々が普段思っている「ほどほど」とか「余り出しゃばらずに」等の「当たり障りのない」という意味とは全然違って「常に（是を表す語が「中」）偏らない努力（是を表す語が「庸」）」なのだそうです

と言う記事でした。

そこで又々思ったのが

「今のメディア（media）ってそうになっているんだっけ？」

でした。

「常に前後左右上下に偏らない努力をしている仲介役」

になっているのだろうか？

今日も又、朝っぱらから辛気くさい話で申し訳ありませんでした。

2021/10/13-2

オマケの英語教室

flow and flower



緊急事態宣言や蔓延防止措置（条例）等の解除に伴うお客様の動きの変化に合わせて、それに即した従業員の業務フロー（work-flow）の更新案を考えながら歩いていた時、ふと道ばたの小さな白い花に目が止まりました。

「んっ？」

何かを感じたのですが普段なら「んっ？」の正体を追い掛け手その先に進むところ、その時ばかりは業務フローを考えるのに忙しくて脇道にそれることなく考え続け、いつの間にかその「んっ？」を忘れてしまいました。

ところが先ほど、外が雨降りな事もあってお客様が殆どお見えにならず暇を持て余して居たとき突然

「flower って flow に -er が付いたものなの？」

と変なことを思いついてしまいました。

「仕事の流れ」の英訳である work-flow。

「花」を表す flower。

Flower から「-er」を取れば Flow になる。

そこで又例の虫が騒ぎ出して

「flow（流れ）と flower（花）に共通するものが何かある筈。それは何だろう？」

と考え始めました。

そこで自然と思い浮かんだのが我が国の古文。或いは古文同等のもの。

まず flow（流れ）については鴨長明の方丈記に出てくる一節

「行く川の流れは絶えずしてしかも元の水にあらず」

そうして今ひとつ flower（花）に関しては作者が誰かは知りませんが

「花の命は短くて苦しきことのみ多かりき」

という一節。

共通しているのは「（花に見る）儚さ（はかなさ）」と「（川に見る）移ろい易さ」

本来ならその二つを更に抽象化して「無常（常なるものは無し）」とも云いたくなりしたが、それとは又違う様な。

もしこの推論が当たっているとすると時空を超えて洋の東西というのは案外似ている部分もあるのかもしれないなあと、ちょっとびっくりしているところで御座います。

2021/10/14-2

うと Q 世話し + オマケの英語教室

本当に「勿体ない」 really, truly “Mottainai story” indeed.

受験で長文読解というのが在ります。

やたらと関係代名詞 (that, which, whom 等など) や条件文 (if) 、時制と完了形を組み合わせた複雑な構文などがごちゃごちゃと入り交じった文章が出てきたりします。

そうしてそれを読解できないと試験に落ちる。

しかし、現実の会話やビジネス文章始め私的な文章に於いてもそんな話し方をしたり書き方をしたりすれば、まず間違いなく「嫌われ」ます。

ですからみんなそんな話し方はしませんし、そんな書き方もしません。

むしろそうならない様に気をつけているはずです。

これに関しては何も英会話に限らず、我が国国内で同朋同士話すときでも一緒でしょう。

書くにせよ話すにせよ「相手にわかりやすく表現する (伝える)」というのがコミュニケーションの大原則だからです。

ところが冒頭のような複雑でトリッキーな文章が外国では一般的で、それが話せたり書けたり出来ないことには何事も始まらないと勘違いしてしまうと英語を話そうという気力が沸いてなくなります。

そういう意味ではこの「ふるいに掛けて落とすための引っ掛け粗探し英語」というのが、我が国国民が「英語を始めよう」という気力をそぎ落とす役割しか果たしていない様な気もするのです。

「言葉というのはコミュニケーションを円滑にする為の道具だ」と言う原点に立ち返れば直ぐにも分かりそうな事なのですが、案外教える側はそれに気がついていないようです。

話し言葉にしても書き言葉にしても長い一文である必要は全くないのです。

短い文章に区切って、それを続ければいいのです。極端に言えば単語だけの部分があっても何ら差し支えないのです。相手に伝わりさえすれば。

後の全ては定型や定式に合致するか否を判定する受験の様な審判ではなく、相手が自分の話を分かってくれるかどうか、興味を持ってくれるかどうかの「その場の運用」の問題でしかないのです。

定位や定式外のものがたまに混じっていたとしても、直上の目的にかなっていれば外国人は気にもとめませんし粗探しもしませんので、間違えることを恐れて自分の方から話しかけるのをやめる事程勿体ないことはないのです。

そもそもコミュニケーションとは往々にして「当初お互いが抱いている思い込みや情報不足によって知らぬ間に生じた誤解の訂正の仕合っこ」みたいなものです。

その訂正の仕合っこが出来ないというのは、実に実に大きなチャンスロスとしか言い様がない様な気がします。

本当に、本当に

「勿体ない」

話だと感じておるところで御座います。

Really, truly “Mottainai story” indeed.

2021/10/22-1

オマケの英語教室

dragon



最近、蛇やヤモリ、トカゲなんかによく出くわします。それにくわえて昨夜はお店に行く途中の草藪で狸に出くわしました。

そんなものに出くわすのも此処が川崎市とは思えない程田舎だからです。

ところで蛇の英単語は snake である事は余りにも有名なので知っているのですが、ヤモリを含めたトカゲ類の英単語が何か等と云う事は当然知りません。

勿論ネットで調べれば直ぐに分かるのですが、いつも通りそれではつまらないので敢えて調べず、外国人と話す時には自分が知っている範囲の単語とジェスチャーを駆使して話しております。

此処で自分が知っている英単語と云えばタモリのものまねで有名になった iguana とか、ちょっと無理があるかもしれませんが tiny dragon (ちっぽけな龍) という単語を使って話しております。

あと、実際に出くわした訳ではありませんが同じ爬虫類仲間の恐竜の事は saurus (ザウルス) を使っております。

自分が知っている恐竜の名前にはチラノザウルスとかブロントザウルス等、末尾がザウルスで終わる場合がありますそれを拝借しております。

しかしこれ程大雑把な言い方をしても結構通じるから面白いです。

ところで今日のお話はその中の dragon のお話しです。

まず龍を英語で dragon（ドラゴン）と言うのを聞いて思ったのは

「西洋に龍なんて云う概念があったんだっけ？」

と言う事でした。

龍というのは想像上の生き物であるのは知っておりました。

しかし我が国や中国では実在の有無に拘わらず最もポピュラーな生き物です。

例えば我が国では昔やっていた「まんが日本昔話」のイントロ映像には龍が出てきましたし、横浜の中華街や長崎の「おくんち」祭りには必ず龍が出てきます。

その龍が西洋で英単語に迄なっているのは恐らく昔「月の沙漠」を越えてやってきた隊商や「東方見聞録」で有名なマルコポーロが伝えたからかもしれません。

それはさておき、何故龍を英語では dragon と言うのだろーと思ひ二通り考えてみました。

一つは長崎の「おくんち」や中華街のお祭りで連打される鐘の「銅鑼（どら）」に pentagon ペンタゴン（penta は 5 で 5 角形をした建物からアメリカ国防省を別称）や wagon ワゴンに出てくる「形を意味する-gon」がくつついたという考え方。

というのは中世に我が国に渡来した西洋人にとってはお祭りに出てくる作り物の龍よりもガンガン鳴らされる銅鑼の音の方が印象的だったからではないかと思うつきからです。

一方今一つの想像は、勿論「ドラえもん」の「ドラ」から等という物ではなく、幾分英語学的に draft（ドラフト、くじを引く）や draw（絵を描く、線を引く）や ATM に英語表記で書いてある withdrawal（お金の引き出し）に共通する dra つまり「引く」に gon が着いた物という想像です。

これは何の事かというと

天に昇る龍の姿を「天から引き出された（引き上げられた）姿」として「引くの dra」と「姿形の gon」がくつついて dragon になったのではなかろうかと云う本日の想像で御座いました。

2021/10/23

オマケの英語教室

happy



高校の夏休みに、冬休みと春休みにしたアルバイトで貯めたお金を使って 1 ヶ月ほど北海道のユースホテル寝泊まり旅をしました。

その折、宿泊したユースホテルに同じ日に止まっていた見知らぬ大学生の人から

「幸せというのは女の概念だ。男にはない」

と言われて驚いた事がありました。

どういった経緯でその様なご託宣を聞く羽目になったのかはすっかり忘れてしまいましたが、最近仕事柄外国の人が会話の中でよく happy という言葉を使うのに接して突然思い出しました。

それで外国の人が happy を使う際、冒頭の大学生さんがいったご託宣が当て嵌まっているのかどうか？即ち女性だけが使っているのかどうかを観察してみました。特に女性だけが口にしていないとは限りませんでした。

男性も女性も使っていました。しかも会話の中では頻繁に出てきます。

一方我が国の場合は会話の中では滅多に日本語の「しあわせ」とか「幸福」という文言は耳にしませんでしたが、反対に

「しあわせになりたい」

とか

「幸せな結婚をしたい」

とか何やら告白ベースの重みで眩かされているケースがあるのは見て取れました。

そしてそう眩くのは決まって女性。男性が

「しあわせになりたい」

とか

「幸せな暮らしをしたい」

とか云うのを聞いた事はまずありませんでした。

そういう意味では冒頭の大学生さんが言った事は少なくとも「我が国に於いて」は成り立ちそうです。

一方、外国人さんを観察してみると女性も男性も happy という言葉を使うに際して「告白ベースの重み」といった特別なニュアンスは何処にも感じられず、

I'm happy での happy

は云ってみれば

I feel so good

つまり「気分いいよ」とか

Yes, I have good condition.

「うん、調子いいよ」

I'm on the smiling mode

「ニコニコモードよ」

位のレベルにしか感じられませんでした。

それは外国人さんが

Oh, great!!

と言うのを我が国国民は

「おお、偉大だ」

と言った（言われた）と思うのに対して、当の外国人さんは

「あらまっ、スゴイね！！」

位のニュアンスでしか使っていないのと同じレベルの話の様な気がします。

我々の基準からすれば彼らは「明らかに大袈裟な表現」を使う様です。

反対に「大して深い意味や重みはない」のでしょう。

話を元に戻しますが、それにしても我が国では女性、なかんずく高等教育を受けた女性程本題目の happy（しあわせ、幸せ、幸福）に殊の外、厳しい条件を付けている様な気がします。

即ちその方々の云う処の

「しあわせになりたい」が指す「しあわせ」とは

「生涯お金の苦勞をせず、常に特別扱いされる事」それが「自分にもたらされて然るべきしあわせの必須条件」であると。

ここ迄「しあわせ」の意味する処が重たいと我が国での会話の中に外国人さん達ほどhappy（しあわせ、幸せ、幸福）という言葉が出ず、告白ベースでしか出てこないのも「深く頷ける気がする」次第で御座います。

The weight of using the word “happy” is quite different from them to us in each conversation.

“Not anytime, but sometime a little bit happy” it`s my happiness, I think.

注)

写真の半被（ハッピ=happy）

2021/10/25-2

オマケの英語教室

Lighter (ライター)



たばこに火を付けるあのライターの事です。

日本語でライターと書くと上述の様にたばこに火を付けるライターを直ぐに思い浮かべますが、英語で lighter と書いてみると何かちょっと違和感を覚えてしまいました。

それで何故違和感を覚えたのかを考えてみたのですが、暫くして思い当たったのが語幹の Light(ライト)で連想すると「火」よりも電気の「光」を想像してしまうことに気づきました。

たばこに火を付けるのに、例えば懐中電灯や電気スタンドを向けたりかざしたりしても当然火は付きませんから、lighter という単語と語幹の light からの連想される物の差が違和感の正体だった様です。

話は変わりますが、英語で「灯台」のことを「lightning house」と言います。

日本語で灯台の「灯」の字、即ち「ともしび」という字には火編が着きます。此処での灯台は電気ではなく火の光を表していそうです。

では外国の灯台は電気なのか？それとも火の光なのか？

それで灯台について少し想いを巡らせてみたのですが、思い浮かんだのが

「そういえば昔、未だ電気のなかった頃には当然油ランプや蠟燭（ろうそく）、まあせいぜいガス灯くらいのものであったろうから矢張り lightning house の light (ライト) は火の光だったのだろうな」

と推測致しました。

それにしても電気にせよ火の光にせよもし灯台がなかったら、どっちが海方向でどっちが陸方向なのか分からず恐怖と不安で海での航行は大変心細かったろうと思います。

今でこそレーダーや GPS システムが在り、別に真っ暗闇の中でも灯台の光を当てにしせずとも船の安全な航行は可能になっておりますが、それらのない時代の灯台の火の光の暖かさ、ありがたさは殊更（ことさら）格別な物だった事でしょう。

ここで又々話は変わりますが、例えば

「あなたの目線が私の心に火を付けた」というのは

Your eye beams lightened my heart.

とでも言い得るのでしょうか？

でもこれだと

「あなたの目線が私の心を照らした」

になりそうなので

上記の訳文には

Your eye beams got my heart burning.

とか

Your eye beams got my heart falling into love.

の方が照明感より炎上感（燃え上がり感）が感じられていいような気もしますが、どうなんでしょう？

2021/10/2-3

オマケの英語教室

a story of -sh or cash



是は自分の覚え方なのですが

Rush は rush-hour (ラッシュアワー) の連想から「勢いよく駆け込む」

Dash は「勢いよく駆け出す」

そうして

Cash は勿論「現金 (お金)」の事なのですが、日本語でお金の事を「お足」というくらい「あっという間になくなる」ので是また「勢いよく逃げ出す」ものと言う風に少しアレンジ (arrange) して覚えております。

理由は、ひとくくりにして前の 2 語の意味を引き出し易くするためです。

何しろ語呂 (音の共鳴、共振、共和音) がいいので。

こんな具合です

Rush (ラッシュ)

Dash (ダッシュ)

Cash (キャッシュ)

駆け込む。

駆け出す。

(お足になって) 逃げ出す。

ところがある日偶然にもこのワンパック (one package) を見渡して在る共通項に気がつきました。

それは単語の前後に sh が付くと「勢いの良さ」を表している様に見えたのです。

上述の単語の中の sh は全て末尾ですが、例えば

Shut で、

Shut up (シャラップ) は「お黙り」と訳されますが、細かく言えば「ピシャッと口を閉じろ」

で

Shut out (シャッタウト) は野球などでゲーム終わることですが、是も細かく言えば「ピシャッと (ゲームを) 閉じる」ですから、冒頭 (接頭) に付いた sh も「勢いの良さ」を表しているように見えます。或いは「突然、急に、一気に」 (な動き) を。

他には Shock (ショック) も「ドキンとする (衝撃が一気に伝わる)」なのでその類いに属するのかもしれませんが。

話を冒頭の語に戻します。

cash にまつわる自分の経験談です。

コンビニでペットボトルのお茶をレジ (cashier) 」で差し出したときの事です、店員さん (staff or crew) が

「カードですか？現金ですか？」

と訊くので

「cash (キャッシュ) お願いします」

と言った折り、自分が差し出したのは 100 円硬貨と 10 円玉 3 枚だったのですが何かとても妙な感じがしたのです。

(外国人ばかりと仕事をしていると咄嗟の場合よく英語が出たりします。ひけらかしているわけではないのですが、どうも発音しやすい方を咄嗟に口にしてしまうようです)

基 (もとい)

何を妙に感じたのかと云えば cash と言えば「封緘めされた札束」とまでは行かなくても少なくとも bills (お札) であることが最低条件であるだろうに coin (コイン=硬貨) ばかりを差し出しておいて

「cash お願いします」

もないもんだと云うことだったのだと思います「妙な感じ」の正体は。

それでは硬貨ばかりの現金を出した場合にはなんと言えればいいのか？

それで暫しあれこれ考えてみました。

が、余りいい表現を思いつかなかったので仕方なく以下の様に云うことにしました。

曰く

coin cash 又は cash coin

と。

無論コンビニなどではそんなややこしい言い方は絶対に致しません。

ただ、仕事上、お店で外国人従業員に対してはそう云う事に致しました。

余談)

我が国での蒸気機関車 (steam locomotive) もそうかもしれませんね。

再び曰く

シュシュポッポ、シュシュポッポ (shu-shu-poppo, shu-shu-poppo)

ついでに今の心境をば、

「なんだ坂、こんな坂」 (Nanda saka, Konna saka)

Never be beaten down, by such a sharp slope, by thus sharp slope!! Against, against!!

第 6 集

2021/10/27

オマケの英語教室

slice



英語で話す相手が必ずしも英語を母国語とする人達ばかりだとは限りません。

英語が母国語ではない外国人も沢山居ます。我が国にいる在日就労外国人もその例に違（たが）いません。

当然その人達は英語が母国語である人達に比べて一般的に英語の語彙数少ないのは致し方ないでしょう。

英語を喋るかどうかは別として受験勉強等で鍛えられた我が国国民諸氏は、こと語彙数に関しては下手をすると英語が母国語でない外国人よりも豊富に持っている可能性があります。

又在日就労外国人全てが母国に於いて高等教育を受けた者ばかりとは限らない事を勘案すると益々我が国国民諸氏の方が語彙数に関しては多い可能性が在りそうです。

こういった場合何が起こるかと言えど英文法を用いずに英単語だけで話す様な機会に接した折、

「当然この単語ぐらいは知っているだろう」

と我々が無意識裡に判定する極めてポピュラーな単語さえ知らないケースに唐突に出くわす事があります。

「えっー!!この単語を知らない!?!」

例えば slice (スライス：薄く切る。トマトスライスなんかです)

ダースベイダーとかスパイダーマンは知っているのに、料理人がこの英単語を知らない!!

「えっー!!うっそー。ほんまかいな!?!」

(当店はカレー屋です)

確かに発音の差でとてもポピュラーな単語でも行き違う場合があるのは確かです。

是また例えば瓶のフタを閉めるように云った時にフタは日本語では栓又は蓋ですが、分かり易い様に「キャップ」と云ったのに是が通じない。

で、後になって分かったのですが日本語で「キャップ」という場合に発音は「kyappu」となり力点が後ろにきますが、彼らの耳にはそれが蓋を表す cap (kæp) の事だとは分からなかった様なのです (英語の場合力点は頭の ca (キャ) に来て最後の p [プ] は殆ど無音です)

なので、発音というのは我々が想っている以上に大切な様です。

昔、よく笑い話で米国旅行に行って水の事を「ウォーター」と云っても通じなかったが日本語で「ワラ(ア) (藁：わら)」と言ったら通じたというレベルの発音スキルで十分なのですが。

話を元に戻します。

要するに「我々にとってポピュラーな単語さえ知らない場合」どうするか？

こうした場合は「そのジャストな単語」の代わりに

- (1) 名詞が表す用途を簡単な言葉で示す。
- (2) 動詞が示す行為を簡単な言葉を使ってシーン描写する。
- (3) 又は名詞や動詞が示す物や行為の「目的」を簡単な言葉で説明する、

事で遣り繰りしております。

冒頭の例でいえば直上 (2) の例で

Slice (当店の外国人従業員は slice も cut もカットと言います)

を

Slice is(=means)

Put a knife on the tomato. And hip(=edge) of knife steel, push into (=pick up or hook it on the) tomato skin, then next, move the knife to(=towards)yourself(own).

Like this.

(スライスっていうのは(例えば)ナイフをトマトの上に置いて、その尻切っ先をトマトの皮に引っ掛けてから手前に引いて薄く切る事が slice だ。こんな風に)

余談)

自分は毎回現物無しでこの手の「実演ショー」をしています。

2021/10/28-2

オマケの英語教室

for example, takeout



昨日の「オマケの英語居室 slice」の記事内で

「分からない単語（相手でも自分でも）が出てきたら簡単な言葉の組み合わせで代用する」と言ったような主旨のことを述べましたが、今日になってふとある事に気づきました。

それは

「知っている言葉の数は少なくてもいいが、その代用をする簡単な言葉（或いはみんなが知っている言葉）については、その原義や基本イメージをしっかり把握していないと代用出来ないな」

ということでした。

では此处で言う簡単な言葉がどんなレベルの単語を指しているのかと言えば、一言で言って中学で習った動詞、名詞、形容詞くらいです。

例えば動詞に絞り込んでもっと具体的に申し上げますと

Have（「持つ」のイメージ）、get（「得る」のイメージ）、make（「作る」のイメージ）、take（「取る」のイメージ）、run（「走る」のイメージ）などなど位のレベルです。

前置詞に絞り込んで申し上げますと

At（「ピンポイント」のイメージ）、on（「上とか連続」のイメージ）、in（「の中」のイメージ）、out（「の外」のイメージ）、for（「身体全部を使って向かう」のイメージ）、with（「何かを伴う又は使う」のイメージ）、from（「～からとか由来」のイメージ）などなどです。

いずれも「イメージ」と書いたのは変に「辞書的な単語として意味（訳）を限定」しない方がいいからです

流動化させて固定化しない方がいいからです。

我が国ではこの傾向を「曖昧」と言いますが、外国では「フレキシブル（応用が利く）」ととらえます。

そこが一番違うところです。

例えば上の動詞 take と前置詞 out を組み合わせると takeout で、我が国では「お持ち帰り（テイクアウト）」と独立した一個の単語になります（余談ですが当店はカレー屋としてコロナ禍では是を中心に商売をしております）が、外国では

Take out は他にも「取り＋出す」で「取り出す」という意味でも使います。

動詞＋前置詞の区分けは余り意味がなく、むしろ取り（take）出す（out）と二つ動詞が並んで、日本語で言うところの「取り出す」という二つの合成動詞（語）に近い使い方がされております。

自分が外国人と会話をしているときには動詞＋前置詞で何々などとは一切考えずに、日本語の合成動詞に二つの単語を当てはめている（たまたまそれが動詞＋前置詞になっている）だけの様な気がしております。

要するに余り深くは考えないで、後は使った単語が通じているのか居ないのか相手の表情を見てチェックし言い直すかどうかフォローしているだけなのです。

追記 1)

語学の先生は動詞＋前置詞と言わざるを得ないのですが、我々は余りそんな事を気にする必要はない様な気がしております。少なくとも英会話レベルでは。

追記 2)

記事内の takeout は邦訳で「お持ち帰り」ですが、原義は「容器に入れて店から注文品を取り出す（持ち出す）」という事から来ております（動詞＋前置詞（自己流では合成動詞）を名詞（合成語）化した訳です）

2021/10/29

オマケの英語教室

The meaning (purpose) of “Pre, prep. English”,
the “Pre, prep”, we put.



表題の意味は「前座の英語」の「前座」を冠した目的という事です。

(注：オマケの英語教室の記事を集めた弊社刊の本の題名「前座の英語」を指しております)

昨日の take out の記事で動詞＋前置詞と書きましたところ、早速のご指摘をかなりの数、
ちょうだい致しました。

「この場合の out は前置詞じゃなくて副詞だろ」

とか

「前置詞に見えるものも置かれる位置によっては副詞になったり補語（形容詞形態）にな
ったりするはずだろ」

とかです。

因みに副詞とは書いて字の如く「副（祖）える詞（ことば）」のことです。では何に添えるのかと言えば「動詞」に副えてその働きを助ける詞が副詞です。

又前置詞は何の前に置く詞かと言えば「名詞」の前に置いてその働きを助ける詞です。

そのことは重々承知しておりました。

しかしそれを持ち出すと、この場が受験教室になってしまうのを恐れて敢えて「一括で」「動詞+前置詞」と書かせて戴きました。

（又 1200 字以内でという SNS 側からの紙幅制限の関係も御座いました）

基いっ!!

で、その目的はと言いますと

1. まずは、何よりも初めに興味関心を持ってもらい
2. この程度でいいなら自分も喋れるかもしれない（喋っていいのかもしれない）
3. 一度試してみようかな

という事が目的だったからです。

それで「オマケの英語教室」の記事を集めて出版した本にわざわざ「前座」を冠して「前座の英語」としたわけです。

正しい英語教室かと言えば正しいとは言えない。

なので「正しいの？」と疑問を抱いたり、受験英語を習いたいと思ったりしている方は「本科、本編の英語教室に進んでください」しかし「その前に後学のためにちょっと立ち寄ってみては如何でしょう」という意味を込めての名付け、がその由来でした。

現に当社で運営中の英語、日本語教室である「すすき野留学」へお申し込みに来られた受験目的の日本の方や日本語検定 2 級取得目的の外国の方に対しては

「当教室はそういった目的では運営しておりませんので、入学されても恐らくがっかりされるだけでしょうから止めた方がいいと思います」

と敢えて最初にはっきり申し上げ、お断りさせて戴いた経緯も御座います。

又ダイレクトには申し上げませんでした

「英語をしゃべることで箔を付けよう」という目的の方へも遠回しにお断り申し上げております。

理由はあくまでも

「円滑なコミュニケーションの醸成」

が目的だからです。

なので、甚だ身勝手では御座いますが、今暫く当教室の「でたらめ」をお許し戴けると誠に嬉しい限りなので御座います。

2021/10/29-2

オマケの英語教室

the name of snacks "happy turn"



在る老舗お菓子メーカーの商品に「ハッピーターン」というのがあります。

塩味とザラメ砂糖味の混ざったなかなかおいしい洋風おせんべいです。

書き物をする合間に摘まむスナック菓子として昨日買ってきました。

いつもは塩味だけの「サラダせんべい」なのですが、たまに甘めの「ハッピーターン」が食べたくなるのです。

ところが昨日、ふとある事に気づきました。

それはハッピーターンの個包フィルムが上下圧着のサンドイッチタイプではなく、昔風に言うとおひねりタイプだったのです。

サンドイッチタイプは個包フィルムを引き裂いて中身を出すのですが、おひねりタイプは上下又は持ち方によっては左右を摘まんでクルッと回転させ、開いたところで中身を取り出すのです。

何を言いたいのかというとフィルムを破かずに取り出すようになっているのです。

「こりゃ又コストが掛かっているな」

瞬間的にそう思いました。

「包装マシンは特別仕様だろうな」

何故そんなことを思ったかというと、商品は違いますが自分は以前、製造現場に携わったことがあったからです。

「しかしまた何でこんなことをやっているんだろう？」

そこで考えて思いついたのが

「名前がハッピーターンだからか!!

ハッピーと付けておいてビリッと破くんじゃ何か全然ハッピーじゃないってことかも。

此処はやっぱり優しくゆっくりとおひねりするのがハッピーを感じさせる、天下のご正道ってことなのかな」

こうなると

「じゃあ、何で商品名に「ハッピーターン」と付けたんだろう？」

が次の疑問になりました。

「しあわせが戻ってくる？ならば Happy(happiness)returns だろし、

Happy(happiness)turns じゃ来るはずのしあわせがどちらか方向に折れて（曲がって）しまいそうだし。

さてなんだろう？」

それで又々思いついたのが

「そういえば ATM ボックスの引き下ろしで順番待ちをしていたとき、ぼんやりしていたら後ろの外国人さんから

It`s your turn. Please go ahead (or forward)

(あなたの番よ。どうぞお先に)

と言われたことがあったな。とすればこれは、

It`s your turn of the happiness coming (or it`s the tern of your happiness coming)

(今度は、あなたの（に）しあわせが来る番よ)

と言う意味なんじゃなかろうか？それを短く Happy turn（ハッピーターン）と」

是また正解を知りたいければネットで調べるなり当のお菓子メーカーに直接問い合わせれば直ぐに分かることなんでしょうが、それではつまらないのでハッピーターンをポリポリやりながらちょっと楽しんでみました。

2021/11/3

オマケの英語教室

spray



先程、デスクワーク中にパソコンの向こう側のボードの上にスプレーがあるのが目にとまりました。

ヘアスプレーではなく殺虫スプレー。

以前、刺されたことがあるのですが、刺された頭の左側半分が痛みと痺れで 2, 3 日ウンウン唸る羽目に陥るほど結構強烈なものでした。

その蜂は軒下（のきした）に作られた巣から飛び立ったもので、その巣の周りにはうじゃうじゃと蜂が群れ下がっておりました。

その蜂を退治するためにスプレーを買ったのですが、使い終わった後、そのスプレーを無造作に机の前のボードに置いたまま忘れていたのです。

根（こん）を詰めた仕事をしていたので、少し気分転換をしたくなり、例によって例の「スプレーは英語で spray。

でもなんでスプレーって言うのだろう？」

を始めてしまいました。

「スプレーって日本語では噴霧器。噴射の噴（ふん）に霧（きり）に道具を表す器（うつわ）」

そして

「と、なれば英語も何かと何かの語の組み合わせかもしれないな」

と思い

「何の組み合わせだろう？」

で、思いついたのが

「spread + ray の組み合わせではなかろうか？」

でした。

つまり

Spread で拡げる。Spread out で噴出（拡がり出る。拡げ出す）するの語幹 sp に「ブルーレイ（blue ray）」や「レイガン（raygun＝光線銃）」に出てくる「光線」を表す ray と組み合わせで出来た「合成語」なのではないかと。

漢字で表すと「噴出光線」ちょっと今風にアレンジすると「噴出ビーム光線」

ですが当然スプレーから光線が出るわけがありませんので、この場合の ray は「一条帯のもの」と言うことでしょう。

漢文のレ点を用いて逆転倒置してからスルーすると

「一条帯の物質を噴出するもの（装置）それが spray なのではなかろうか？」と。

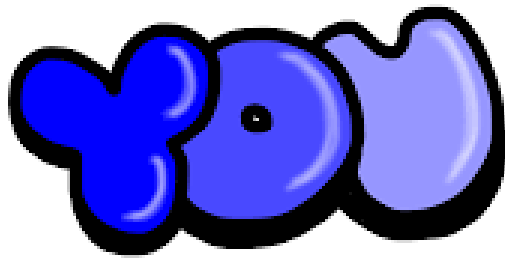
是また当たるも云々（うんぬん）当たらぬも云々でございますが、自分としては少し楽しめましたので又仕事に戻ります。

私事に巻き込みまして大変失礼致しました。

2021/11/4-2

オマケの英語教室

you



お店で仕事をしていて困ると申しますか迷うと申しますか、兎に角一瞬戸惑ってしまう事があります。

それは外国人従業員に英語で話しかける時の you の使い方なのです。

日本語なら相手が一人の場合は「あなた」「君」「お前」で、二人以上の場合は「あなた方」「君たち」「お前達」と分かれていますので特に問題はありません。

しかし英語の場合、単数の「あなた」と複数を表す「あなた方」が分かれた表現になっておらず同じ you なので困っているのです。

二人居て一人呼びたい時と二人共呼びたい時、声を掛けるのがどちらも同じ you だと声を掛ける方も困りますが掛けられた方も困っています。

お互い顔を見合わせて「二人呼ばれたんだろうか？それともどちらか一人？じゃあ、どっちだろう？」

と言った具合。

話は変わりますが自分は結構語学に興味があったので色々な言語を摘まみ食べしました。

そこでの雑学から、

英語以外、例えばフランス語でも「あなた」と「あなた方」は分かれておらず両方とも Vous(ヴ)

ロシア語でも同じ様に分かれておらずにいずれも Вы (ヴィ)

その代わり両言語とも親しさを表す、日本語のため口に当たる「君」「お前」と少し距離を置いたり敬意を払ったりする場合の言い方である「あなた」は区別されておりました。

前者はフランス語では tu (テュ) ロシア語では ты (テュイ)、後者は前出のフランス語では Vous (ヴ) ロシア語では Вы (ヴィ)

こうしてみると日本語は単数複数の区分けに加え、更にため口扱いと表敬扱い両方ともある訳ですから矢張り外国人に取ってはなかなか複雑な言語に映ってしまう様です。

ところが対極的に英語は単数複数の区別ありませんし、親近や表敬の度合いの区別もなく全てが you。

後にも先にもそれだけ。

一体何故そうなっているのか？

推測するに、それは英語を生んだ民族が区別する事で得られる使い勝手の良さよりも「完全平等」と「完全個性（個々人の独立）」という概念を優先したからではなかろうかと。

つまり「お前」と「あなた」という親近、上下の差がない「完全平等」と「お前ら」「あなた方」というのは、実は「あなたと、あなたと、あなたの n 乗、個々の集まり」という概念。

ところで私共はカーリー屋ですが、そのお店の名前は Namaste everybody.

Namaste (ナマステ) はネパール・インド地域では「こんにちは」を表す言葉。

Everybody は英語で「おのおの方」即ち「みなさん」を表します。

(換言すれば each of you)

ですので、私共のお店の名前は「こんにちは、みなさん」と言う事になります。

そこで思いついたのが

「ならば、外国人従業員全員に声を掛ける時は you の使い方をあれこれ考えるより、この everybody を使った方が良さそうだ」

と言う事で

「Hey, everybody!! Come here!!」 (はい、みんな、こっち来て)

と言えればいいんだと。

補足)

ここに至る過程で考えた他の案は

All of you

You 2(two) 二人の場合

各人の名前

でした。

(因みに二人居て一人呼ぶ時は当然その人の名前で呼びます)

2021/11/6

オマケの英語教室

allowance



お手軽、簡単、便利、全盛の時代。

ところが

「簡単すぎてつままない」

とか

「便利すぎてつままない」

という感覚が芽生え始めたのではないか？と思える記事がありました。

CD店で売上上位にアナログレコード盤がランクインしたという記事。

針を使い盤も凸凹しているので掃除や保管、即ちメンテナンスが面倒臭いレコード盤に加え、マルチソースにも拘わらず其れ等のソフトを持ち歩かなくて済み、又ハードも手の平サイズな「お手軽、簡単、便利の極地」とも言えるダウンロードやストリーミングツールに比べ、遙かに重量物であり且つワンソースでしかない割に値の張るレコードプレーヤーの方の売上も上々だとか。

勿論ダウンロードやストリーミングに押され CD 店そのものの数が減っており、その中で上位の「一角に」アナログレコードが入ったからと言って世の中の大勢が変わった訳ではない事は存じております。売上高構成比で見れば未だほんの微々たるものでしょう。

又、今起きている出来事は「音楽愛好家世界」全体の出来事と言うより、極めて限られた「音（再現）マニア世界」での出来事で、世の中全体の潮流とは無関係だという見方もあるでしょう。

しかし、そういった誇大解釈を諫める論を知つつ、この様な動きが僅かながらも出てきたと言う事実は、個人的には注目に値する気がするのです。

多分今の人達の一部は、確かに目的地には一番早く着ける様に思われる「効率尽くめで無駄のない」今の生活、その癖実態は「授業ぶっ通しで休み時間なし、帰りは直帰で寄り道なし」の今の世界にうんざりし始め「敢えて一寸無駄をしてみたい、一寸不便を感じてみたい、一寸損得を外れてみたい」気分が何処かに湧いてきたのではなかろうかなという見立てからで御座います。

この「いい意味での無駄」を日本語では「あそび」と言います。この「あそび」を英語にすると、訳は allowance。

木工等で「かっちりとはめ込むのではなく力を逃がす為に少し隙間を空ける」その隙間を「あそび」と言いますが、此处で言う「あそび」は「あそび」というと我々が直ぐに思い浮かべる play (遊戯)ではなく allowance (力逃し)

Play という語が与えがちな「わいわい騒ぐ(festival)イメージ」ではなく「かわす」「いなす」が語として妥当な「すり抜けぬらりひょん(flexible))」なイメージ。

そして、この allowance の動詞形が allow で「許す」です。

なので、allowance を正確に訳すと「力逃しの為に許されたあそびスペース」となります。

効率一点張りの中で「損をすまい、逃すまい、と緊張しきった力(りき)みを逃すためにちょっと無駄をしてみる」「敢えて手間暇を掛けたり、寄り道をしたりしてみる」生活。

Allowance might be bringing such a little bit loosen new lifestyle, for you.

(あそびがそんな、ちょっとルーズな新しいライフスタイルをもたらす事になるかもしれませんよ、あなたに)

そんなメッセージがレコードとレコードプレーヤーの売り上げ伸張には隠されて居る様な気がしております。

2021/11/13

うときゅういっきの「これから」＋おまけの英語教室「情」の説明

前記事「これから」の中で

「結局、我々ミンナがさがしていたのは人情だったのかも」

という主旨の内容を書きました。

正直申してもう少し反応があるかと思っておりましたが「完全なスカ」状態でございました。

主旨が悪いのか、具体例が記載されていない事が説得性を欠いたのか、書き方が悪かったのかといろいろ考えてみましたが今ひとつ「これだ」という原因を掴む事ができないままです。

そこで本日は再チャレンジがてら少し角度を変えてお話申し上げたいと思っております。

まず「人情」と書くとどうしても「ベタベタ感」「理性喪失感」「頭の悪さ感」が拭えません。

夏目漱石ではありませんが「情に棹させば流される」というイメージです。

一方現代を表す言葉に「情報」という言葉があります。

英語では information その動詞形は inform です。イメージとしては IT (=information technology) やそこから派生して AI (=artificial intelligence) 等があり知性理性の代表格の様な感じですが。

しかしよく見ると不思議な事に「人情」にも「情報」にも同じ「情」という文字がある事に気づかされます。

殆ど方向性や特性は正反対の傾向なのに同じ文字がその中に含まれている。

「なんで？」

「情って何のこと？」

そこで更に観察を続けて「情」という日本語の漢字を分解してみると「忄（りっしんべん）」に「青（あお）」という二つの部位から成り立っている事がわかります。即ち「心が青い」状態。

では「心が青い」とはどういう意味なのか？どういう状態を指しているのか？が気になってきます。

「青い」から連想されるのは「若い(=young)」「みずみずしい(=fresh)」「元気がある(=vivid)」「活性化している(=active)」等でしょうか。つまり心がそういう状態にあるのが「情」が表す処であると。

それを上述の文言に当て嵌めてみると

「人情」とは「心の働きが発する若くて且つ活発な condition」を表していそうですし
「情報」とは「心の働きが発する新鮮且つ活発な hot news」を表しているともいえそうです。

共通するイメージとしては「元気でみずみずしい(vivid and fresh)」でしょうか。

ここまで説明して話を前の記事の

「結局、我々ミンナがさがしていたのは人情だったのかも」

に戻しますと

「人情」が表す処は

単なる「ベタベタ感」等ではなくこれら上述の

相手に

「元気でみずみずしい気持ちを生起させる人の心の暖かみ」

となりました。

今思うとどうやら自分は前回の記事でそういう事を伝えたかったのではなかろうか？という気がして参りました。

補足)

英語の information (情報) の動詞形は inform だという事は既に本文で致しましたが、日本語の「情」同様この inform を分解してみますと「in + form」即ち「中 + 形、様式、フォーム」となります。

「フォームの中身、内側」と言えればいいのか「中身、内側の形」と言えればいいのか要するにどうも「contents (コンテンツ)」の事を指していそうです。

つまり contents (中身=情) の(報)知が inform だという見立てでございます。

2021/11/14-2

オマケの英語教室

My situation, a la carte now

●どちらでもいいよ

Both, ok.

●どれでもいいよ

Anyway, ok.

●どうでもいいよ

No option

●尻をまくる

By your both hands, fold up the tail of your coat.

●開き直る

After open the gate of castle, sit down under the center of gate and say “please do it what you want to do. As you like!! Hum!!”

2021/12/13

オマケの英語教室

secret love



「secret love」

これはアメリカの往年の歌手 Doris Day の歌の題名です。

邦訳すると「忍ぶ恋」とか「秘めたる恋」でしょうか。

今の我が国男女の「隠れ裏実態」からすれば「古色蒼然」「時代錯誤」「完全無欠の死語」

に当たりそうな言葉です。

そういう Doris Day も一昔前の人ですから、今のアメリカでは矢張り死語なのかもしれません。

では何故、そんな「古色蒼然」「時代錯誤」な言葉の話を始めたのかと申しますと

「古の我が国ならともかく、あのアメリカにもそんな心象があったのか」

と驚いてしまったからです。

非常に意外でした。

それというのもアメリカいや西欧も含めて西洋では「ダイレクトに告白する」「明るく元気に告白する」ダメなら「あっさり引き下がる」と言った印象が極めて強かったからです。

要するに思いの丈を吐き出して、吐き出したらおしまいと言ったような「我が意主体」の印象だったのですが、そんな彼らにも「相手優位」で

「出すに出せない、押し込むに押し込みきれぬ、行き場のない揺らめく心象」

むしろ謙虚な心象がある。

「国や民族は違っても矢張り人間は同じなんだ」等とありふれたことを言うつもりは毛頭御座いませんが、何か現代の日本人に対してよりも遙かに強い「郷愁」と「親近感」を覚えたので御座います。

そういえばアメリカ映画だったかどうかは忘れましたが邦題が「郷愁」という映画もありましたっけ。

因みに自分は英訳する際、ちょっと長くなりますが

「郷愁」は like a homesick feeling(sense)

「親近感」は A feeling(sense) of being familiar (with)

或いは似て非なる物ではありますが、

「郷愁」は wanna(=want to)return there mode

「親近感」は wanna(=want to)come closer mode

を使ったりしております。

English speakers にはちょっと怪訝な顔をされたりしますが、分からない事もないような感じでした。

余談)

以上は昔気質の男の見解で、女性の見解は当然違ったものかと思われます。

2021/12/14

オマケの英語教室

see around



自分が Position talk という言葉を初めて耳にしたのは「株の世界」に於いてでした。

2011 年の東日本大震災の直後

「むしろこういうときにこそ投資をしてお金を天下に回さねば」

と思い、復興に役立つ投資を効果的にするため、生まれて初めて証券会社という未知の門を叩き、その後ある独立ポジション系のエコノミストに出会った時に、でした。

では position talk とはどういう意味なのか？

邦訳すれば「立場上の話」でしょうか。

自分の経験を元に具体的にお話しをすれば、

ある証券会社主催の「今後の世界経済動向と有望株（又は債券や投信）について」と題するお客様セミナー会場に招かれたエコノミストが、恰も客観的な情報である事を装いながら、その実「証券会社が売り込みたい、言い換えれば招かれたお客様の利益より証券会社にとっての利益率が高い金融商品」の有望性を語る様な場合のことを指しておりました。簡単に言うと「我田引水」「手前味噌」又は「竜頭蛇尾」を隠し、それを「針小棒大」に裏返す語り口。

しかしこの position talk が証券会社の専売特許なのかと言えばそんな事はなく、むしろ専売特許を相当数持っているのは

「政治」「ビジネス」「広告」の世界かもしれません。

そしてその世界が最も多く集まっているのが「ネットやメディアの世界」

言い換えればネットやメディアの世界とは「我田引水」「手前味噌」「竜頭蛇尾」を隠す「針小棒大」が渦巻く「意図だらけの 2 次加工世界」といえるかもしれません。

となれば、周りの未だ加工されていない現実世界に目をやらず、スマホ（是は完全な日本語英語で、英語では mobile phone といいます。因みに「ながら歩き（見）禁止」は while walking, texting NO!!と言います）ばかり見ているのは、初めから色の付いた 2 次加工世界に浸りっぱなし、誘導されっぱなしで居るのと殆ど同義といえるかもしれません。

では何故ネットやメディアの世界が 2 次加工世界だと気づけるのか？

それは未だ加工されていない現実世界において、自分の五感を使って見聞きする風景を観察する事により感じられるものとネットやメディアの世界で言われている内容の「差」や「違和感」を虚心坦懐に見ていけば自ずと後者が 2 次加工の世界なのだと自然に感じられるからです。

なので、

Please see and look at real scene around you, then compare with it and media news on internet site. And check the differences, plz.

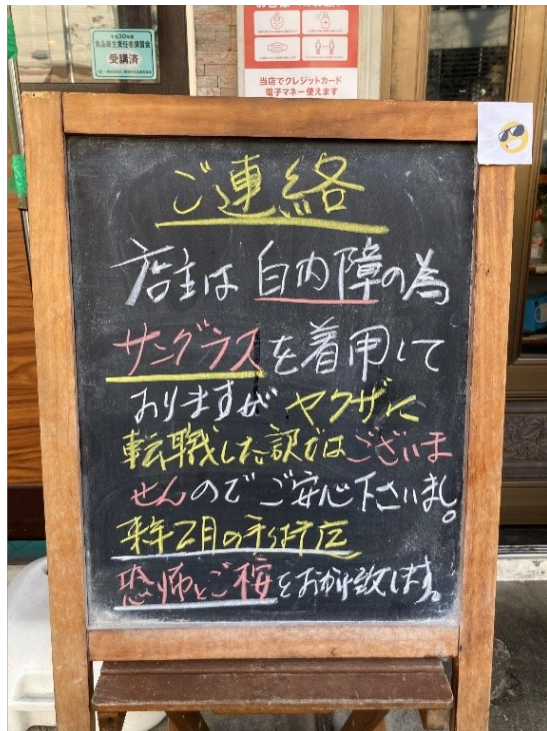
Sometimes you can easily find out it`s from position talk or not.

宜しければ、スマホ閲覧（mobile phone texting）の半分の時間を割いて、お試しくださいませ。

2021/12/16

オマケの英語教室

at last



とうとう、ついには。

英語では at last とか finally を使います。

今回題材としてこの英単語を選んだのは、自分の身の上にそうした英単語を使わざるを得ない事態が発生したからです。

といってもそう大した話ではないのですが。

どのような話かと申しますと、かねてより何回か自分のブログ（オマケの英語教室で、とは限らないのですが）で記事にさせて戴いておりました白内障で外光がまぶしくおちおち外を歩けないと言う一件で御座います。

在る晴れた日の昼間、外光を避けるために帽子を目深に被り、下を向いて歩いておりまして偶然にもご近所で以前白内障の手術を受けた方にお会いし

「ならば以前使っていた縁なし眼鏡用のサングラスアタッチメントをポストに入れておきますから」

とご親切な提案を受け、現在それを着用して昼間、表を歩いているのですが、普段からヤクザまがいの人間と思われているその上に、このサングラスなど着用しているものですから「ヤクザまがい」ではなく「本物のヤクザ」と思われてしまっているようです。

それというのもお店に向かう途中、無人交番前の交差点を渡ろうとしたところ、左から右へ「T」字角度でよぎるつもりだったらしい女性が、右目端の視界に自分のヤクザ風体を見つけたらしく、横断歩道を渡らずになんと「無人交番の中へ駆け込んで」しまったのです。

向こう様は「恐怖」を、自分は「大ショック」を受けました。

それが昨日の出来事。

まさか道ですれ違う人一人一人に

「実は是には訳が御座いまして」

などと説明するわけにも行かず、

それでとうとう (at last or finally)

今朝方、お店の前に次のような看板（掲示板）を出すことにしたのです。

「ご連絡

店主はただ今白内障を患っておりサングラスを着用しております。別にヤクザに転職したわけでは御座いませんのでご安心ください。

来年の2月に目の手術をするまで、

恐怖とご不安をおかけ致します（申し訳ございません）」

そしてサングラスを掛けてニヒルに笑っているviber（楽天のSNS）のアイコンのプリントアウトをワッペン代わりに貼り付けておきました。

オミクロン株対策は何処へ、やら。

At last and finally I have been falling into such a situation!!

（とうとう我が身はこんな羽目におちいってしまいました）

2021/12/17

オマケの英語教室

cleansing cream



以前にこのコーナーでもお話しいたしましたが、そもそも

「それに値する的確な英単語一語を使わなければ不正解」

と言う教育の仕方がおかしいような気がします。

中学までに教わった中でそれに近い単語を使ったり、場合によっては少し長くなる場合もありますが一語ではなく散文的に文章を連ねた表現を「可」としたりしてもいいのではないのでしょうか。

此处迄範囲が許容されますと、表現の自由度が格段にアップされて話し手の気持ちもとても楽になり会話時に文法よりも会話の中身そのものに集中できるような気がします。

そもそも語彙が豊富すぎるくらいのある日本語全てに対してその数の分だけ英訳が存在しないとダメだというのは極めてフレキシブルな言語である英語の本質から完全に逸脱していると思うのですが。

まあ、難しい話はこれくらいにして今日は cleansing cream についてお話しいたします。

cleansing cream は日本の女性の方ならほぼ皆さんがご存じのように make up や汚れ落としに使うクリームです。

その液体形が cleanser (クレンザー) で台所の汚れ落とし等に使い、商品名としても有名です。

ご覧になって分かりますように、その語幹は clean「きれいにする又は形容詞の「きれいな」です。

この件に関しましてこんな経験をしました。本日はその件のご紹介です。

ある日、うちで働いているネパール人女性パート従業員が珍しく就業前に facial washing（洗顔 facial は face の形容詞形）をしておりました。その折自分は

「んっ？メイク落とし？クレンジングクリームとか使わないの？」

といつもの好奇心から、我が国では響きを買いきような質問をしたのですが、

「make? cleansing? 何のこと？」

と逆質問されてしまいました。

それで色々話を聞いてみると、make up 以外 cleansing も foundation（下地作り。元々は基礎の意味）も keeping wetness gel（保湿ジェル）の存在すら知りませんでした。

なぜなら彼女らの「常態（normal）」は「すっぴん」だったからです。

しかし「すっぴん慣れ」しているのか、特にそれで肌がカサついているとか荒れているとかの悪い現象はまるで見て取れませんでした。

恐らく自然にそういう治癒力、回復力が備わっているからでしょう。

（以上の話はネパールの人をけなしているのではなく、むしろ好ましく思ったと言う事でご理解くださいませ）

それで最後に

Never be scammed by cosmetics maker`s Ad!! No good over-make-up. Please keep natural as possible as you can. And if you use a cleansing, please use it for your mind health keeping.

（化粧品会社の広告にだまされないように。

化粧のしすぎは良くありません。

できる限り自然に任せておいてください。そしてもしクレンジング（汚れ落とし）をつかうなら心の健康（foundation=基礎=固定観念外しや心の垢落とし）の為に使ってくださいね）

Cleansing の別の用法（転用）のご紹介でした。

英語はとても flexible（フレキシブル、柔軟）な言語である事の一例で御座います。

2021/12/17-2

オマケの英語教室

come, come, everybody



戦後まもなく始まったラジオの英会話教室で流れていた英語の歌が以下となります。

「Come come everybody.

How do you do, and how are you?

Won't you have some candy?

One and two and three, four, five.

Let's all sing a happy song.

Sing trala la la la」

この歌を聴いて驚いたのは、歌詞の中身ではなくこの曲の元のメロディがなんと

「しよ、しよ、しよじよ寺。しよじよ寺の庭は

つん、つん、月夜だ、皆出て、来い、来い、来い

おいらの友だちゃ、ポンポコポンのボン」

であったことです。

どういう発想をすると上の曲と下の曲が結びつくのか？

そういえば、つい前年まで「滅私奉公」「一億火の玉」「撃ちてし止まん」「鬼畜米英」だったはずの我が国で戦後まもなくに、何処をどうするとこんな物が突然飛び出してくるんだと言うほど突如、笠置シズ子の

「東京ブギウギ」だの「銀座のカンカン娘」だの「超弩級敵製楽曲」であるジャズのメロディを元にした歌が出て来たのか？

この作詞者作曲者は「滅私奉公」「一億火の玉」「撃ちてし止まん」時代はどうやって凌いでいたのか？どんな顔をして周りの目をくらましていたのか？

そもそも笠置シズ子はどんな暮らしをしていたのか？

想像してみるには面白い謎がいっぱい出てきてしまいました。

ですが一つだけ言える事は、聞いているだけで

「何故かとても楽しくなる」

と言うことです。

「元気が出てくる気がする」

事です。

何故なのでしょう、ね？

Why-some (=Don` t know why, but) I feel GENKI(=fine).

Why?

余談)

因みにカーリー屋さんである当店の名前は、ネパール語と英語の組み合わせで

Namaste everybody

「みなさん、こんにちは」

と言う名前です。

2021/12/18

オマケの英語教室

Mottainai



お金がないのもあるのですが、亡くなったお袋が兎に角捨てるのがきらいで
何かに付け

「勿体ない、勿体ない」

と言ってスーパーで買い物をした時のビニールのレジ袋なんかもきれいに畳んで締まって
おくような人間だったので、その血を引き継いだのか自分も何でも再利用するクセがつい
たようです。

自分はかなり食いしん坊なので食を例にご説明いたしますと、
例えばオイルサーディン（燻製味）の残り油汁は刻み唐辛子と一緒にスパゲティー・ペペ
ロンチーノ燻製風味にして炒めるのに使ったり「どん兵衛」の残りだし汁は、砂糖と醤油
を加えて目玉焼きの甘辛な煮付けに再利用したりしております。

ところが我々日本人が日常生活で頻繁に使っている、この

「勿体ない」

と言う言葉の対等訳が世界各国語の中で殆どないと言うことを耳にして

「えう？嘘やろう」

と驚いてしまいました。

因みに「勿体ない」は英語圏では英訳しようがないので「mottainai」と表すのだそうで
す。

しかしそれでは日本文化に詳しい外国人さんには分かりますが、疎い外国人さんには d 何のことだか分かりそうもないので、ならばどう訳したらいいのか？を自分なりに考えてみました。

それで思いついたのが以下となります。

A little bit feeling the sense from phycological pressure for wasting. A feeling for wasting means that at the time when leaving them away, nevertheless we can reuse more, we Japanese naturally feel one.

(無駄に対する心理的圧力から生じるちょっとした感覚。未だ使える物を捨てるときに非本人が感じる心理)

ちょっと長ったらしいですが、こんな感じでしょうか。

処で何故日本人はそういった感覚を持つのか？

と言えば、是は自分の推論になりますが「物にはみな命が宿っている。それを粗末 (=無駄) にするのは罪深い事である」という意識がどこかに働いているような気がしております。

余談)

繰り返しになりますが、英会話での確適語の一語に英訳する必要はさらさらないのだと思っております。

多少長くなっても意味や意思が伝わればいいのですから。

的確適語の一語訳に囚われて何も会話が生まれない事の方が余程の、それこそ無駄 (big waste) = 大損 (big loss) ですから。

(著者プロフィール)

うときゅう いっき

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

一九五三年東京生まれ。早稲田大学第一文学部ロシア文学科を二回留年の後、卒業。大手電機メーカー商品企画部に二十年間勤務。同子会社経理部等に十六年間勤務。四十歳から五十二歳まで十二年間重度うつ病を罹患。左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊の後、生還。定年退職後、嘱託社員契約を辞して株式会社うとQを設立。趣味は観察すること、考えること、書くこと、カメラの四つのk。著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名に由来する。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。漢字にするとかなり御大層な名前に見えますので、敢えて音読みひらがな表記にしております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅう いっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社うとQ

〒二一五 - 〇〇一八

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東5丁目34番7号

電話：〇四四 - 九八九 - 一六九八

発 売 株式会社 うとQ

編 輯 ナレッジフォレスト (大竹鉄哉)

カバーデザイン&DTP 製作 ナレッジフォレスト (大竹鉄哉)

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in japan 2020

発行日：二〇二一年十二月二十九日 初版発行

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

(その他著書)

- 「人生終わったなと思った時に読む本」(二〇一五年刊 ソフトカバー在庫僅少)
- 「人生終わったな」と思う間もなくトンネルの闇を抜けて広野原 (二〇二〇年刊)

amazon kindle)

●「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」
二〇二〇年壱月の巻～十二月の巻」(二〇二〇年刊 amazon kindle)

●「コロナ禍 同時進行執筆 ナマステ別館堂主人「二年目の ニューノーマル探索サバイバル日記」二〇二一年一月の巻～十月 最終巻」(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍 初年度 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●(初本) カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」(二〇二〇年刊 amazon kindle)

●(改訂本) カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「冬のひまわり」(二〇二〇年刊 amazon kindle)

●コロナ禍カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集「子、親を選べず」三部作(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍カリー屋ナマステ別館堂主人 掌編小説集(合本)「子、親を選べず」新四部作
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」
二〇二一年 上半期(合本)
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●コロナ禍 カリー屋ナマステ別館堂主人「ニューノーマル探索サバイバル日記」
二〇二一年 度(合本)
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●ネパールカリー屋「ナマステ」別館堂&英語教室「すすき野留学」主人
辞書を置かない考える英語教室「前座の英語」Pre & Prep. English 第1集～第6集)
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●ネパールカリー屋「ナマステ」別館堂&英語教室「すすき野留学」主人
辞書を置かない考える英語教室「前座の英語」Pre & Prep. English 2021 合本)
(二〇二一年刊 amazon kindle)

●線路は続くよ、何処までも 野を越え山越え谷越えて その一、その二
(二〇二一年刊 amazon kindle)